教　育　課　程

2021 年度入学生
＜第４８回生＞

東京都立府中看護専門学校

目　　次

(ページ)

教育課程の考え方 …… 1

教育理念・教育目的・教育目標・教育方針 …… 1

卒業認定方針・卒業生像・入学生受け入れ方針 …… 2

教育課程の基本概念 …… 4

学科目の構成図と考え方 …… 6

教育計画及び学科進度 …… 7

内　容

Ⅰ．基礎分野 …… 8～15

Ⅱ．専門基礎分野 ……16～34

Ⅲ．専門分野Ⅰ

基　礎　看　護　学 ……35～46

Ⅳ．専門分野Ⅱ

成　人　看　護　学 ……47～54

老　年　看　護　学 ……55～59

小　児　看　護　学 ……60～64

母　性　看　護　学 ……65～69

精　神　看　護　学 ……70～74

Ⅴ．統合分野…… 75

在　宅　看　護　論 ……76～81

看　護　の　統　合　と　実　践 ……82～87

Ⅵ．臨地実習の目的・目標・構成 …… 88

Ⅶ．実務経験のある教員等による授業科目一覧 ……89～93

Ⅷ．課外（行事・その他） …… 94

Ⅸ．参考資料

＜各看護学・看護の統合と実践で学習する看護技術のレベル＞…… 95

＜各看護学で学習する疾病(等)＞マトリックス…… 96

＜各看護学で学習する症状(等)＞マトリックス…… 97

東京都立看護専門学校におけるコミュニケーションに関する到達目標… 98

教育理念

当校は、東京都立看護専門学校の１校として、都内にある保健・医療・福祉施設や地域において、都民の健康の担い手として活躍できる質の高い看護師を育成することを責務としている。

生命の尊厳と高い倫理観を基盤とした豊かな人間性を養い、看護の対象である人間に対する深い理解と共感を持つことのできる専門職業人を育成する。科学的根拠に基づいた知識・技術を用い、対象にとって最適な健康状態を目指し、支援できる基礎的な看護実践能力を育成する。

生涯にわたって、自己啓発に努め、看護学及び保健医療福祉の発展に貢献できる能力を養う。

教育目的

看護師として必要な知識及び技術を教授し、社会に貢献しうる有能な人材を育成する。

教育目標

1　生命の尊厳と高い倫理観に基づいた豊かな人間性を養う。
2　人間を総合的にとらえ、生活者として理解し、良好な人間関係が築ける能力を養う。
3　人々の健康上の課題を解決するために、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
4　保健・医療・福祉における看護職の役割を認識し、チームの一員として他職種と協働できる能力を養う。
5　看護への探究心をもち、専門職業人として学習し続ける能力を養う。

教育方針

1　学生の自主性と創造性を尊重し、自ら判断し行動できるよう支援する。
2　講師陣や実習施設との連携を密にし、継続的な学習ができるよう支援する。
3　近隣の保健・医療・福祉機関と連携し、教育資源の活用を図り、地域に根ざした教育実践を重視する。

卒業認定方針

本校では、以下の能力を卒業までに身につける（卒業生像）ことを重視する。

成績評価は厳正に行い、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定するとともに、専門士（医療専門課程）と称することを認める。

卒業生像

1　生命を尊び、人間をあるがままに理解し、尊重できる。
2　人間の喜び、悲しみ、苦しみを感じ取り、良好な人間関係が築ける。
3　人間の健康状態や生活に対する反応を読みとり、必要な看護が判断できる。
4　専門的知識・技術を用いて、科学的根拠に基づき安全・安楽な看護行為を実践できる。
5　保健医療福祉チームの一員として、自己の役割を認識し、看護師として責任ある行動が取れる。
6　社会の動向に関心を向けるとともに、自ら学ぶ姿勢を持ち続け、専門職業人として成長していける。

入学生受け入れ方針

本校では、以下のような能力を有している人の入学を期待している。

1　人を思いやる気持ちを持ち、他者と強調して人間関係を構築できる人
2　物事をありのままに受け止めることができ、誠実に対応できる人
3　自分の思いや考えを、自分の言葉で表現することができる人
4　学習習慣を身につけて、意欲的に学び続けられる人
5　マナーやルールを守り、責任ある行動がとれる人

教育課程編成方針

医療をめぐる環境は大きく変化し、より対象者の視点にたった質の高い看護の提供が求められている。2008 年 4 月改正の「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」に準拠した都立看護専門学校７校共通の教育課程の考え方をもとに、当校の独自性を鑑み構築した。

東京都の設置目的や社会的使命、また長年にわたって築いてきた都立看護専門学校の理念を踏襲するとともに、現在の入学生や卒業生の状況を視野にいれ、次世代を担う看護者の育成を目指すものとした。

教育課程の基本概念については、教育内容の基本となる概念を三つの方向から示した。一つは、「看護の基本概念」である人間、健康、環境、看護である。二つ目は、看護の専門職業人として最も基本的かつ重要な「看護の倫理」についてである。三つ目は、看護師を目指して入学してくる学生の「学習」についてである。学習については、主に教育方法を選択する際重要であることから、基本概念に加えている。

各分野は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野の５分野で構成した。

基礎分野は専門基礎分野、専門分野の基礎として位置づけ、幅広いものの見方、考え方、そして、看護職に必要な人間の理解につながる科目をバランスよく設定した。

専門基礎分野は、看護を学ぶ上で基礎となる「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」の３つの内容から構成されている。「人体の構造と機能」については、科目名を「形態機能学」とし、うち一部は看護学への応用を前提として構築した。「疾病の成り立ちと回復の促進」については、疾病を持つ人々へ個別的な看護を提供するために、必要となる基礎的な知識を学び、看護の視点での疾病や障害の理解、回復促進の方法など専門分野につながる内容にした。「健康支援と社会保障制度」は、人間を生活者としてとらえ、その人にとって意味のある支援が提供できるような内容とした。

看護学は、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野の３つの内容からなっている。

専門分野Ⅰである基礎看護学は、各看護学の土台であるという考え方から、各看護学の基礎となる位置づけとした。専門分野Ⅱは、成人･老年･小児･母性･精神の各看護学で構成され、成長発達に応じた特徴と健康上の課題やニーズを踏まえ、対象に応じた看護を実践する。

統合分野は、在宅看護論と看護の統合と実践の２つで構成される。専門分野Ⅰ・Ⅱで学習した内容をより実践に近い形として統合した科目とした。

３年間のおおまかな学習進度としては、１年次は主に基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰを学ぶ。２、３年次から専門分野Ⅱ、統合分野を学習する。

教育課程の基本概念

1　看護の基本概念

＜人間＞

1）人間は身体的・精神的・社会的側面をもつ統一体である。
2）人間は有機体であり、個別的な存在である。
3）人間は自然・社会・文化的環境との相互作用により、絶えず変化している。
4）人間は胎生期から老年期までのいずれかの成長・発達段階にある。
5）人間は個体維持機能と種族保存の機能を持つ。
6）人間は感情、理性、思考能力をもち、様々なニーズをみたしながら行動している。
7）人間は自らの責任において意思決定し、自己実現へ向かう存在である。

＜健康＞

1）健康状態には最良の健康から死までの連続的なレベルがあり、たえず流動的である。
2）健康状態は、個体要因と自然・社会・文化的環境とのダイナミックな相互作用において成り立つ。
3）望ましい健康状態とは、その人の身体的・精神的・社会的機能が十分に発揮され、自己実現を目指し、環境に適応している状態である。
4）健康は人間の基本的権利であって、個人特有なものであり、人それぞれが自ら創るものである。

＜環境＞

1）環境は、内部環境（個体)、外部環境（自然・社会・文化的環境）の総体である。
2）外部環境は、内部環境に直接的・間接的に作用し、健康状態を変化させる。
3）外部環境は、人間生活によって影響をうける。

＜看護＞

1）看護は、あらゆる成長・発達段階にある個人とその家族または集団を対象とする。
2）看護は、対象となる人と看護者との人間関係を基盤として行う。
3）看護は、その人がその人らしくあるように、健康の保持・増進・回復、そして生死にかかわる。
4）看護は、対象の健康に関する問題を解決するために系統的に働きかける。
5）看護は、対象の生活行動を支えセルフケアができるようにする科学的な根拠に基づいた実践である。
6）看護は、専門職としての独自の機能を有し、保健医療福祉チームの中で調整の役割を担う。

2　看護の倫理

1）看護倫理とは、人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重することである。
2）看護倫理に基づく実践は、国籍、人種・民族、信条、年齢、性別及び性的指向、社会的地位、経済的状態、ライフスタイル、健康問題の性質にかかわらず、対象となる人々に平等に看護を提供する。
3）看護者および看護を学ぶ学生は、看護倫理に基づく以下の行動をする。
①人々の知る権利及び自己決定の権利を尊重し、その権利を擁護する。
②看護実践において守秘義務を遵守し、個人情報の保護に努めるとともに、これを他者と共有する場合は適切な判断のもとに行う。
③看護の対象となる人々を保護し安全を確保する。
④自己の責任と能力を的確に認識し､実践した看護について個人としての責任を持つ。
⑤より良い看護を行うために、自分自身の能力の発展に努める。
⑥より良い看護を行うために、看護者自身の心身の健康に努める。

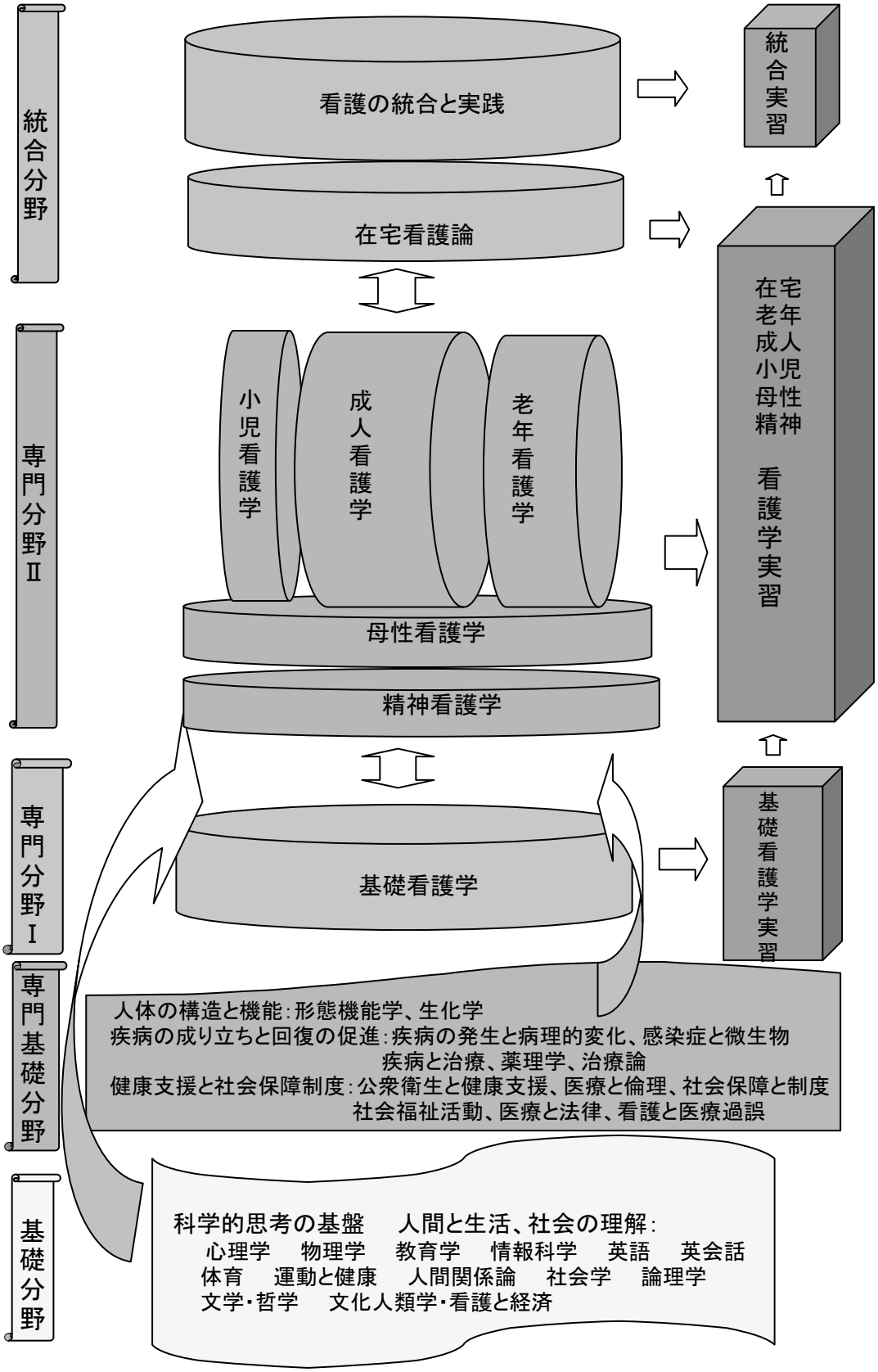
3　学習

1）学習とは、知識や技術を獲得しようとする行動とその過程である。
2）学習とは、学習者が自ら課題を見いだして、学ぶことである。
3）学習は、知性だけでなく、その人のパーソナリティーの形成に影響し、人生を充実させ成長させる。
4）学習は、個人が経験をとおして自己を変化させ、成長させていく過程である。
5）学習者（自己および他者）のこれまでの経験は、貴重な学習資源である。
6）学習者の経験を積み重ねることは、知識の応用や行動の統合が図られ、状況判断を可能にする。
7）学習者は、自ら望んで看護師を目指し、自己の目標を達成することができる。

演習：グループ制の小集団学習で学生が主体的に学ぶ授業である。
校内実習：看護技術の授業で用いる。看護技術の理論の確認、基礎的・基本的な技術の習得、看護の原理・原則の適応の仕方、看護者としての態度を学ぶ。講義と臨地実習の架け橋となる。

学科目の構成図と考え方

学科目の構成図　97単位（3000時間）



教育計画及び学科進度

科目（授業科目）			単位	時間数	1学年	2学年	3学年
					4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3月	4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3月	4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3月
基礎分野	人間と生活、社会の理解	科学的思考の基盤					
		心理学	1	30			
		論理学	1	30			
		社会学	1	30			
		教育学	1	30			
		人間関係論	1	15			
		情報科学	1	30			
		物理学	1	15			
		英語	1	30			
		英会話	1	30			
		体育	1	30			
		運動と健康	1	30			
		哲学	1	30			
		看護と経済	1	30			
			13	360	6(150)	3(90)	4(120)
専門基礎分野	人体の構造と機能						
		形態機能学Ⅰ（からだのつくりと内部環境）	1	30			
		形態機能学Ⅱ（生体の調節機構と防御機構）	1	30			
		形態機能学Ⅲ（日常生活行動の構造と機能）	1	30			
		形態機能学Ⅳ（日常生活行動と子どもを生むの構造と機能）	1	30			
		形態機能学Ⅴ（日常生活行動と生理的機能）	1	30			
		生化学	1	30			
	疾病の成り立ちと回復の促進						
		疾病の発生と病理的変化	1	30			
		感染症と微生物	1	30			
		疾病と治療Ⅰ（呼吸器・循環器・内分泌代謝系の疾病と治療）	1	30			
		疾病と治療Ⅱ（消化器・腎泌尿器系の疾病と治療）	1	30			
		疾病と治療Ⅲ（脳神経・運動器系の疾病・障がいと治療）	1	30			
		疾病と治療Ⅳ（自己免疫・女性生殖器・血液リンパ・感覚器系の疾病・障がいと治療）	1	30			
		薬理学	1	30			
		治療論Ⅰ（放射線・手術・麻酔と治療）	1	30			
		治療論Ⅱ（食事療法・リハビリテーション・救急医療）	1	30			
	健康支援と社会保障制度						
		公衆衛生と健康支援	1	15			
		医療と倫理	1	15			
		社会保障と制度	1	15			
		社会福祉活動	1	15			
		医療と法律	1	15			
		看護と医療過誤	1	15			
			21	540	12(360)	5(120)	4(60)
専門分野Ⅰ	基礎看護学						
		看護学概論	1	30			
		看護の理論	1	15			
		看護の基本となる技術Ⅰ（人間関係成立の技術）	1	30			
		看護の基本となる技術Ⅱ（対象把握の技術）	1	30			
		看護の基本となる技術Ⅲ（医療・療養環境を整える技術）	1	30			
		看護の基本となる技術Ⅳ（看護過程）	1	30			
		生活を整える技術Ⅰ（食事・排泄を整える技術）	1	30			
		生活を整える技術Ⅱ（活動休息・清潔を整える技術）	1	30			
		臨床看護技術	1	30			
		診療に伴う技術	1	30			
			10	285	9(255)	1(30)	0(0)
	臨地実習						
		基礎看護学実習Ⅰ（人間関係の成立と日常生活援助の実習）	1	45			
		基礎看護学実習Ⅱ（看護過程の展開と日常生活援助の実習）	2	90			
			3	135	3(135)	0(0)	0(0)
			13	420	12(390)	1(30)	0(0)
専門分野Ⅱ	成人看護学						
		成人看護学概論	1	30			
		セルフマネジメントに向けての看護	1	30			
		健康危機状況における看護	1	30			
		セルフケア再獲得に向けての看護	1	30			
		緩和ケアを必要とする人の看護	1	30			
		成人の看護過程	1	30			
	老年看護学						
		老年看護学概論	1	30			
		高齢者の日常生活援助技術	1	30			
		高齢者の健康障害時の看護	1	30			
		高齢者の看護過程	1	15			
	小児看護学						
		小児看護学概論	1	30			
		小児の発達段階に応じた看護	1	15			
		小児の健康状態に応じた看護	1	30			
		治療を受ける小児の看護	1	30			
	母性看護学						
		母性看護学概論	1	30			
		妊婦・産婦の看護	1	30			
		褥婦・新生児の看護	1	30			
		周産期にある人のハイリスク時の看護	1	15			
	精神看護学						
		精神看護学概論	1	30			
		精神に障がいを持つ人の理解	1	30			
		精神看護の基本技術	1	15			
		精神に障がいをもつ人の生活と看護	1	30			
			22	600	7(210)	15(390)	0(0)
	臨地実習						
		成人看護学実習Ⅰ（セルフマネジメント・セルフケア再獲得に向けての看護実習）	2	90			
		成人看護学実習Ⅱ（健康の危機状況にある人の看護実習）	2	90			
		成人看護学実習Ⅲ（緩和ケアを必要とする人の看護実習）	2	90			
		老年看護学実習Ⅰ（入院中の高齢者の日常生活援助実習）	2	90			
		老年看護学実習Ⅱ（健康障害のある高齢者への看護実習）	2	90			
		小児看護学実習	2	90			
		母性看護学実習	2	90			
		精神看護学実習	2	90			
			16	720	0(0)	8(360)	8(360)
			38	1,320	7(210)	23(750)	8(360)
統合分野	在宅看護論						
		在宅看護概論	1	15			
		在宅療養者の健康状態に応じた看護	1	30			
		在宅看護技術	1	30			
		在宅看護過程	1	15			
	看護の統合と実践						
		看護管理と研究	1	30			
		災害看護	1	15			
		診療の補助技術における安全	1	30			
		臨床看護の実践	1	15			
			8	180	1(15)	3(75)	4(90)
	臨地実習						
		在宅看護論実習	2	90			
		看護の統合実習	2	90			
			4	180	0	0	4(180)
			12	360	1(15)	3(75)	8(270)
講義時間			74	1,965	35(990)	27(705)	12(270)
実習時間			23	1,035	3(135)	8(360)	12(540)
総計			97	3,000	38(1,125)	35(1,065)	24(810)

Ⅰ．基　礎　分　野

基礎分野

【目的】

幅広い教養と感性を培い、生命の尊厳を基盤とした豊かな人間性の育成を目指す。また、看護の対象である人間を洞察、理解する力を養い、専門職業人としての問題解決能力を高める。

【目標】

1 生命の尊厳や倫理を学び、看護の対象である人間を理解できる。
2 人間を生活者としてとらえ、様々な生活環境の中で自立した存在としての理解を深める。
3 他者との関わりを通して、自己・他者理解を深め、コミュニケーション能力を高める。
4 専門職業人として自律的、主体的に行動できるための総合的判断能力を養う。
5 生涯学習の必要性を理解し、自ら学び続ける力を養う。
6 社会の動向に目を向け、国際化、情報化社会に対応できる能力を養う。

【科目設定及び設定理由】

1 看護の専門職業人として自律していくための判断能力や科学的思考を深めるための基盤となる科目として＜論理学＞＜物理学＞を設定した。
2 看護はあらゆる人々と人間的な関わりを通してなされるものであり、対象をより深く理解するためのコミュニケーション能力を高めるための科目として＜心理学＞＜人間関係論＞を設定した。
3 看護の対象は生活を営む人であり、様々な環境に適応しながらその人らしい生活を送ることの理解を深める科目として＜社会学＞＜看護と経済＞を設定した。
4 看護は人間の生命の誕生から死に至るまでの過程に関わる職業であることから、命の大切さ、人間の尊厳を守ることなど人権尊重の意識や重要性について理解を深める科目として＜哲学＞を設定した。
5 看護は社会の動向に合わせて変化するものであり、国際化、情報化に対応しうる能力を養うための科目として＜英語＞＜英会話＞＜情報科学＞を設定した。
6 身体活動と健康の関連性の理解を深めるための科目として＜体育＞＜運動と健康＞を設定した。
7 人間として感性を磨き、成長・発展が遂げられるための科目として＜教育学＞を設定した。
8 選択科目として、人間の存在や認識、理性や感情など哲学的思考を学ぶため＜哲学＞、経済が社会に与える影響、経済と保健医療福祉との関連を学ぶため＜看護と経済＞を設定した。

【構成および計画】

	学科目	単位	時間	1年	2年	3年
科学的思考の基盤、人間と生活、社会の理解	心理学	1	30	1(30)		
	論理学	1	30	1(30)		
	社会学	1	30		1(30)	
	教育学	1	30			1(30)
	人間関係論	1	15	1(15)		
	情報科学	1	30	1(30)		
	物理学	1	15	1(15)		
	英語	1	30	1(30)		
	英会話	1	30			1(30)
	体育	1	30			1(30)
	運動と健康	1	30		1(30)	
	哲学	1	30		1(30)	
	看護と経済	1	30			1(30)
合計		13	360	6(150)	3(90)	4(120)

科目名 (授業科目)	心理学	単位・時間	1(30)	開講時期	1年次4月
科目目標	人間の心、行動に関する基礎的知識や人間理解の方法について学び、自己および他者の心、行動について理解する。				

単元目標	内容
1 心理学の概要を理解できる。 2 人間の感覚・知覚・認知の働きを理解できる。	1 心理学とは 【28h(14回)】 2 心理学の対象と領域 3 知覚のしくみ 4 記憶のしくみ 5 思考
3 行動変容をもたらすための動機づけのメカニズムを理解できる。	1 動機づけのメカニズム 2 社会的動機 3 フラストレーションとコンフリクト
4 人間の社会的行動の特徴を理解できる。	1 対人認知・態度 2 集団と社会
5 発達過程における人間の特徴的な課題を理解できる。	1 生涯発達という考え方 2 発達段階と発達課題 1) 乳幼児期から児童期 (1)愛着行動 (2)認知発達 (3)自我の発達と自己概念 2) 児童期から思春期 (1)社会性の発達 (2)性のめざめ 3) 思春期から青年期 (1)アイデンティティの獲得 (2)人格の形成と発達 (3)適応・不適応 4) 成人期・老年期の発達 (1)喪失・悲嘆 (2)成熟と自己実現
6 人間の心の健康を考えるうえでの基礎的な知識を理解できる。	1 ストレスと対処行動 2 危機と危機介入 3 レジリエンス 4 自己コントロール 5 カウンセリング

テキスト	評価方法
別途指示	筆記

科 目 名 (授業科目)	論理学	単位・時間	1(30)	開講時期	1年次9月
科目目標	論理的な考え方、表現方法の技術を学び、論理的思考力、文章表現能力を養う。				

単 元 目 標	内　　容
1　資料文を読み思考の形式、論理的な考え方を理解する。 2　論理的な表現方法、文章の書き方を学び、意見文、説明文として表現できる。	1　論理的なものの考え方　【28h(14回)】 2　批判的思考 3　文章の読み方 1　言語化の必要性とトレーニング 2　ディベートの方法と実際 3　論文作成

テキスト	評価方法
「看護教育の発想」 看護の科学社	レポート、筆記

科 目 名 (授業科目)	社会学	単位・時間	1(30)	開講時期	2年次4月
科目目標	社会的存在としての人間を理解すると共に、多様な社会関係の中での物の見方・考え方を理解できる。また、社会の中での自己の役割を理解できる。				

単 元 目 標	内　　容
1　多様な社会と社会的存在としての人間、家族を理解できる。 2　自己を取巻く社会現象を多面的にとらえ、現代社会に生じている問題について理解できる。	1　人間と社会　【28h(14回)】 1)　社会学的存在としての人間 2)　ライフサイクルと社会的役割 2　現代社会と家族 1)　家族とは 2)　家族の機能 3)　家族のライフサイクル 4)　戦後社会における日本の家族の変容 3　性役割・ジェンダー 4　マジョリティとマイノリティ 5　地域社会 1)　地域集団の諸相 2)　地域社会の変動とコミュニティ問題 6　国際社会 1)　世界のグローバル化　・・・ 情報、環境、資源、企業活動 2)　エスニシティ　・・・・・・・・・ 異文化の理解、接触、交流 7　社会運動・NPO・ボランティア 1　現代社会の諸問題 1)　情報化 2)　逸脱行動 3)　格差社会　等

テキスト	評価方法
別途提示	筆記・レポート

科 目 名 (授業科目)	教育学	単位・時間	1(30)	開講時期	3年次4月
科目目標	教育が、文化・社会の動態や人間の成長発達に影響することを理解するとともに生涯学習の必要性について考える。				

単 元 目 標	内　　容
1　人間の成長における教育の意義と機能を理解できる。	1　人間の成長と教育　【28h(14回)】 1）　教育の意義 2）　成長と発達 2　教育の構造と機能 1）　家庭教育 2）　学校教育 3）　生涯教育 3　教育方法 1）　集団教育 2）　個別教育 4　教育評価 1）　教育評価の目的・種類 2）　教育評価の類型　・・・　診断的評価、形成的評価、総括的評価
2　現代の教育が抱える問題を理解できる。	1　医療と教育 2　教育における現代的問題

テキスト	評価方法
別途指示	筆記

科 目 名 (授業科目)	人間関係論	単位・時間	1(15)	開講時期	1年次4月
科目目標	人間関係の基礎としてのコミュニケーションの学習を通し、自己理解を深め、自己の成長を促すことができる。				

単 元 目 標	内　　容
1　人間関係の基礎を学び、自己成長する必要性について理解できる。	1　対人関係の中の自己の行動パターン　【14h(7回)】 2　コミュニケーションの概念 3　言語的・非言語的コミュニケーション 4　人権を尊重したコミュニケーション
2　人間関係を成立、発展させるための技術の基本を理解できる。	1　カウンセリングの概念 2　傾聴・受容・共感 3　カウンセリング技法 4　ストレスマネジメント 5　アサーティブ

テキスト	評価方法
「看護学生のための人間関係論」アトリエ華悠	筆記

科 目 名 (授業科目)	情報科学	単位・時間	1(30)	開講時期	1年次4月
科目目標	情報科学の概念と情報処理に必要なパソコンの基礎知識、活用技術を身につける。また、医療における情報の活用と情報倫理の必要性を理解する。				

単 元 目 標	内　　容
1 基本的な統計データの整理の仕方・統計資料の読解の方法を理解できる。	1 統計学の基礎知識 【28h(14回)】 2 データの種類と分類 3 統計処理の方法
2 情報化社会における情報の取り扱いを理解できる。	1 コンピューター・リテラシー 2 セキュリティと情報倫理 3 個人情報の取り扱い 4 医療と情報 5 国際化社会と情報
3 パソコンおよび周辺機器の操作を通じ基本的な情報処理方法を理解できる。	1 パソコンの基本的操作方法 2 Wordによる文章作成 1) 文字の入力 2) 文章の校正 3 Excelの基本操作 1) 表・グラフの作成 2) 表計算・集計方法 4 プレゼンテーション 1) パワーポイントの作成と操作方法 5 パソコンによる文献検索の方法 1) 検索エンジン 2) 医学中央雑誌の使い方 ※情報管理を含む

テキスト	評価方法
「統計学がわかる」 技術評論社 「30時間でマスター word&excel 2013 」 実務出版	筆記・レポート

科 目 名 (授業科目)	物理学	単位・時間	1(15)	開講時期	1年次4月
科目目標	物理学の基礎を理解し、看護活動に応用する能力を養う。				

単 元 目 標	内　　容
1 身体ケアに関連する物理学的知識を理解する。	1 身体ケアに関する物理学 【14h(7回)】 1) 単位 2) ベクトル、作用・反作用 3) トルクの原理・重心・てこの原理
2 治療、処置に関連する物理学的知識を理解する。	1 治療・処置に関する物理学 1) 圧力(血圧・酸素ボンベ・低圧持続吸引・サイホンの原理) 2) 熱(伝導・対流・輻射) 3) 濃度計算 ※演習を含む

テキスト	評価方法
「完全版 ベッドサイドを科学する－看護に生かす物理学」学研	筆記

科 目 名 (授業科目)	英語	単位・時間	1(30)	開講時期	1年次9月
科目目標	看護活動に必要な基礎的な英語能力を養う。				

単 元 目 標	内　　容
1　基礎的な英文法を理解できる。 2　基本的な英文を読むことができる。 3　医学、看護英語の解釈ができる。	1　英文法　【28h(14回)】 2　英文講読 3　医学・看護英語の解釈 1)　人体各部の解剖学的、生理学的名称 2)　主な病名、症状と徴候 3)　医療用語

テキスト	評価方法
「クリスティーンのやさしい看護英会話」医学書院	筆記・オーラル

科 目 名 (授業科目)	英会話	単位・時間	1(30)	開講時期	3年次4月
科目目標	国際化社会の一員として基礎的な英会話を学び、日常生活や看護場面で活用できる力を養う。				

単 元 目 標	内　　容
1　日常生活における基本的な英会話ができる。 2　看護場面における基本的な英会話ができる。	1　日常生活の英会話　【28h(14回)】 1)　家庭生活、社会生活の中での英会話 2　看護場面における英会話 1)　病室、外来場面での対応 2)　入院時の対応 3)　病院内でよく使われる英単語

テキスト	評価方法
「クリスティーンのやさしい看護英会話」医学書院	オーラル・筆記

科 目 名 (授業科目)	体育	単位・時間	1(30)	開講時期	3年次4月
科目目標	身体活動を通して、心身の健康の維持ができる。				

単 元 目 標	内 容
1 ストレッチの基本を身につける。 2 看護に必要な基礎体力を養う。	1 ストレッチ 【28h(14回)】 1 ウォーキング 2 球技 1) バレーボール 2) バスケットボール 3) 卓球 ＊体育祭を含む(6h)

テキスト	評価方法
別途指示	実技

科 目 名 (授業科目)	運動と健康	単位・時間	1(30)	開講時期	2年次4月
科目目標	1 運動と健康の関連を理解し、身体を動かすことで心身の育成を促す。 2 レクリエーションの意義およびレクリエーション技術を学ぶ。				

単 元 目 標	内 容
1 運動と健康の関連を理解する。 2 運動と心身の関連を理解する。 3 レクリエーションの意義と実際	1 現代生活における健康と運動・スポーツ 【28h(14回)】 1) 運動・スポーツとは 2) 健康と運動・スポーツ 3) 現代生活と運動・スポーツ 1 運動とからだとこころ 1) 運動がもたらす生理的変化 2) 運動がもたらす心理的変化 2 各種運動・スポーツ 1 レクリエーションの基本的理解 2 レクリエーションの実践 ＊体育祭を含む(6h)

テキスト	評価方法
別途指示	筆記・実技

科 目 名 (授業科目)	哲学	単位・時間	1(30)	開講時期	2年次9月
科目目標	社会の諸問題を哲学的な視点で考察し、人間の生き方、価値観について理解を深める。				

単 元 目 標	内　　容
1 哲学の概念を理解できる。 2 哲学における人間の存在、物の見方を理解できる。	1 哲学的思考とは 【28h(14回)】 1 人間の存在と認識 2 人間の尊厳 3 理性と感情 4 責任と自由 5 現代を生きる上での諸問題(人権・時間・愛・老い・死など) 6 看護と現象学

テキスト	評価方法
別途指示	筆記

科 目 名 (授業科目)	看護と経済	単位・時間	1(30)	開講時期	3年次4月
科目目標	経済が社会に与える影響を理解し、保健医療福祉との関連について理解を深める。				

単 元 目 標	内　　容
1 社会における経済の仕組みを理解できる。	1 生活と経済 【14h(7回)】 1) 経済学的な社会の見方 2) 人のライフサイクルと経済 3) 買う側・売る側が取る行動 4) インフレとデフレへの対応 5) 退職後の生活の見直し 2 経済活動 1) 所得 2) 消費と貯蓄 3) 金融資産の知識 4) 消費者物価指数の活用 3 市場経済 1) 現代経済学の市場の見方 2) 医療サービスの市場の価格 3) 情報から見た医療サービス市場
2 医療福祉に影響を与える経済状況と日本の医療制度に対する理解を深める。	1 医療福祉と経済 【14h(7回)】 1) 医療と福祉の問題点 2) 医療保険制度と福祉制度 3) 診療報酬体系と概要 4) 社会保障制度と年金保障 5) 地域医療連携構想と地域包括ケアシステム 6) リスクと医療サービス

テキスト	評価方法
別途指示	筆記

Ⅱ．　専　門　基　礎　分　野

専門基礎分野

【目的】

看護学を学ぶ上で必要な人間のからだを系統立てて理解し、健康、疾病・障害に関する知識を学び、看護実践に活用できる力を養う。人々の健康生活のための支援や医療のしくみ、健康や障害の状態に応じた社会資源について必要な知識を学び、看護に役立てるための基礎的能力を養う。

【目標】

1　人体の正常な構造と機能を学び、看護ケアに必要な日常生活行動の仕組みと意味を理解できる。

2　人体の構造や機能が障害された時の変化と、回復過程を理解し、日常生活行動への影響を考えることができる。

3　保健医療福祉に関する基本概念、関係制度、関係する職種の役割を学び、連携・協働の必要性について理解できる。

4　人々が生涯を通じて、健康や障害の状態に応じて社会資源の活用ができるように支援するための基礎的知識を理解できる。

【科目の設定及び設定理由】

専門基礎分野は、看護学を学ぶ上で基礎となる「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」の3つの教育内容から構成されている。

「人体の構造と機能」は、「形態機能学」とした。人間にとって、動く、食べる、息をする、トイレに行くなどの日常生活行動は生命活動につながる営みであり、看護師が行う日常生活行動の援助は、生命維持に関わる援助である。看護が人間の生命の営みを助ける重要な意味を持っていることや援助を行う上での根拠の理解につながるようにした。

「疾病の成り立ちと回復の促進」は、疾病や障がいを持つ人々へ個別的な看護を提供するために必要となる基礎的な知識として「疾病の発生と病理的変化」「感染症と微生物」「疾病と治療」「薬理学」「治療論」で構成した。

「健康支援と社会保障制度」は、人間を生活者としてとらえ、その人にとって意味のある支援が提供できるような科目「公衆衛生と健康支援」「医療と倫理」「社会保障と制度」「社会福祉活動」「医療と法律」「看護と医療過誤」とした。

【構成および計画】

	科目	授業科目	単位数	時間数	学年別計画時期		
					1年	2年	3年
人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ	形態機能学概論	1	30	1(30)		
	形態機能学Ⅱ	生体の調節機構と防御機構	1	30	1(30)		
	形態機能学Ⅲ	日常生活行動（動く・息をする・話す聞く・お風呂に入る・眠る）の構造と機能	1	30	1(30)		
	形態機能学Ⅳ	日常生活行動（食べる・トイレに行く）と子どもを生む（性のしくみ）の構造と機能	1	30	1(30)		
	形態機能学Ⅴ	日常生活行動と生理的機能	1	30	1(30)		
	生化学		1	30	1(30)		
疾病の成り立ちと回復の促進	疾病の発生と病理的変化		1	30	1(30)		
	感染症と微生物		1	30	1(30)		
	疾病と治療Ⅰ	呼吸器・循環器・内分泌代謝系の疾病と治療	1	30	1(30)		
	疾病と治療Ⅱ	消化器・腎泌尿器系の疾病と治療	1	30	1(30)		
	疾病と治療Ⅲ	脳神経・運動器系の疾病・障がいと治療	1	30	1(30)		
	疾病と治療Ⅳ	自己免疫・血液リンパ・女性生殖器・感覚器系の疾病・障がいと治療	1	30		1(30)	
	薬理学		1	30	1(30)		
	治療論Ⅰ	放射線・手術・麻酔と治療	1	30		1(30)	
	治療論Ⅱ	食事療法・リハビリテーション・救急医療	1	30		1(30)	
健康支援と社会保障制度	公衆衛生と健康支援		1	15		1(15)	
	医療と倫理		1	15			1(15)
	社会保障と制度		1	15		1(15)	
	社会福祉活動		1	15			1(15)
	医療と法律		1	15			1(15)
	看護と医療過誤		1	15			1(15)
計			21	540	12(360)	5(120)	4(60)

科 目 名 (授業科目)	形態機能学Ⅰ (からだのつくりと内部環境)	単位・時間	1(30)	開講時期	1年次 4月
科目目標	からだのつくりと、恒常性維持にかかわる物質の流通機構にういて理解する。				

単 元 目 標	内 容
	イントロダクション(形態機能学を看護職が学ぶ意義) 【2h(1回)】 外部講師《14h(7回)》
1 人間の日常生活行動からとらえる形態機能学の重要性を理解できる。	1 からだの基礎知識 【4h(2回)】 1) 解剖学的用語 2) ホメオスタシス(恒常性) 3) フィードバック機構
2 人間は、日常生活行動をどのようなからだのしくみで行っているか理解できる。	1 細胞と組織 【4h(2回)】 1) 細胞の構造 2) 細胞膜の構造と機能(膜電位含) 3) 分化した細胞がつくる組織
3 からだの恒常性を維持する要素を理解できる。	1 内部環境の恒常性 【6h(3回)】 1) 体液の分類と量 2) 体液の電解質 3) 血漿のpH・酸塩基平衡 4) 動脈血の酸素分圧 5) 血漿の糖分 6) 体温 外部講師《12h(6回)》 2 恒常性を維持するための物質の流通 【4h(2回)】 1) 流通の媒体－血液 (1) 血液の恒常性の維持 (2) 物質の運搬 (3) 侵入物に対する防衛 (4) 血液凝固 (5) 血液型 2) 流通路－血管・リンパ管 【8h(4回)】 (1) 血管の構造 (2) 肺循環と体循環・脳循環・胎児循環 (3) リンパ管の構造と循環 3) 流通の原動力－心臓・血圧 (1) 心臓 ①心臓の構造 ②心臓の拍出機能(心電図の基礎含) ③心機能の調節 (2) 血圧 (3) 血圧の調節

テキスト	評価方法
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院	筆記

科 目 名 （授業科目）	形態機能学Ⅱ （生体の調節機構と防御機構）	単位・時間	1（30）	開講時期	1年次6月
科目目標	からだの恒常性維持のための神経性および液性調節と、生体防御機構について理解する。				

単 元 目 標	内　　容
1　恒常性維持のための調節機構である神経性調節と液性調節のメカニズムを理解できる。	1　恒常性維持のための調節機構　外部講師【16h(8回)】 1）　神経性調節 （1）　神経系の構造と機能 ①神経細胞と情報伝達　②中枢神経 ③末梢神経 （2）　脊髄と脳の構造と機能 （3）　末梢神経の情報伝達 ①脳神経　②脊髄神経と神経叢　③自律神経 （4）　脳の高次機能 ①睡眠　②記憶　③本能行動と情動行動　④内臓調節機能 （5）　感覚器系の構造と機能 ①視覚　②聴覚　③味覚　④嗅覚　⑤痛覚 2）　液性調節　外部講師【8h(4回)】 （1）　ホルモンの作用機序 （2）　全身の内分泌腺と内分泌細胞 （3）　ホルモン分泌の調節 （4）　恒常性維持のためのホルモンの働き ①体液量の調節　②代謝速度の調節 ③蛋白合成の促進　④血糖の調節 ⑤血中ナトリウム、血中カリウムの調節 ⑥血中カルシウムの調節
2　生体の防御機構のメカニズムを理解できる。	1　生体の防御機構　外部講師【4h(2回)】 1）　非特異的生体防御機構：自然免疫機構 （1）皮膚・粘膜　（2）貪食作用・細胞傷害物質 2）　特異的生体防御機構：獲得性免疫機構 （1）リンパ球の機能　（2）液性免疫　（3）細胞性免疫 （4）予防接種　（5）アレルギー反応　（6）主要組織適合性抗原 3）　生体防御の関連臓器 （1）リンパ節　（2）粘膜付属リンパ組織と扁桃 （3）胸腺　（4）脾臓

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能［1］ 解剖生理学　医学書院	筆記

科目名	形態機能学Ⅲ （日常生活行動にかかわるからだの構造と機能）	単位・時間	1（30）	開講時期	1年次4月
科目目標	日常生活行動にかかわる、からだの構造と機能について理解する。				

単　元　目　標	内　　容
1　人間はからだをどのように使って日常生活行動を遂行しているか理解できる。	1　日常生活行動　動く　【8h(4回)】 1）姿勢 （1）体位と構え （2）赤ちゃんが歩くまで （3）立位の保持 2）神経から筋への指令と筋の収縮 3）意図的でない運動：反射 4）意図的な運動：随意運動 5）骨格・骨格筋・関節の構造と機能 （1）骨格 （2）関節 （3）骨格筋 （4）筋の収縮 6）日常生活での基本的動き　【4h(2回)】 （1）歩く （2）つまむ （3）表情
2 「動く」「息をする」「話す・聞く」「お風呂に入る」「眠る」という日常生活行動に関わるからだのしくみを理解できる。	2　日常生活行動　息をする　【8h(4回)】 1）息を吸う・息を吐く （1）呼吸器の構造 ①気道と肺　②胸膜・縦隔 （2）呼吸運動 （3）呼吸運動の神経支配 （4）肺気量 2）ガス交換 （1）外呼吸と内呼吸 （2）血液によるガスの運搬 3　日常生活行動　話す・聞く・見る　【4h(2回)】 1）声を出す （1）大脳の言語野 （2）発声に関わる器官 2）聞く （1）耳の構造　（2）聴覚と平衡覚 3）見る （1）目の構造　（2）視覚 4）言葉 4　日常生活行動　お風呂に入る　【2h(1回)】 1）垢を落とす 2）皮膚と付属物 （1）表皮：ケラチノサイト （2）汗腺・脂腺・毛 3）皮膚・粘膜の血管と神経 4）温まる 5　日常生活行動　眠る　【2h(1回)】 1）からだのリズム （1）サーカディアンリズム （2）基礎的な休息：活動周期 2）眠り （1）ノンレム睡眠、レム睡眠 （2）睡眠パターン

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門基礎　人体の構造と機能〔1〕解剖生理学　医学書院	筆記

科 目 名 (授業科目)	形態機能学Ⅳ 日常生活行動(食べる・トイレに行く)と 子どもを生む(性のしくみ)の構造と機能	単位・時間	1(30)	開講時期	1年次5月
科目目標	日常生活行動にかかわる、からだの構造と機能について理解する。 性のしくみと機能について理解する。				

単 元 目 標	内　　容
1 「食べる」「トイレに行く」という日常生活行動に関わるからだのしくみを理解できる。	1 日常生活行動 食べる 《10h(5回)》 1) 食欲・姿勢 2) 食行動 (1) 食物を口まで運ぶ (2) 食物の性質の判断 (3) 口の準備 3) 咀嚼し味わう 4) 飲み込む 嚥下 5) 消化と吸収 (1) 腹部消化管の構造と機能 ①胃 ②小腸 ③大腸 ④栄養素の消化と吸収 (2) 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 (3) 何を食べるか 2 日常生活行動 トイレに行く 《12h(6回)》 1) 排尿 【8h(4回)】 (1) 尿意 (2) 排尿 ①排尿路の構造 ②尿の貯蔵と排尿 (3) 尿の生成 ①腎臓の構造と機能 ②尿生成のメカニズム:濾過・再吸収・分泌 (4) 体液量調節の機構 ①レニン-アンギオテンシン-アルドステロン系 ②抗利尿ホルモン 2) 排便 【4h(2回)】 (1) 便意 (2) 排便 ①排便のメカニズム ②便秘・下痢
2 人間の性のしくみを理解できる。	1 性のしくみ 《6h(3回)》 1) 性の決定 (1) 遺伝による男と女 (2) ホルモンによる男と女 (3) 性分化異常 (4) 性腺の発生と分化 2) 生殖器 (1) 男性生殖器の構造と機能 (2) 女性生殖器の構造と機能 3) 受精と妊娠の成立 (1) 生殖細胞と受精 (2) 発生と着床 (3) 胎児と胎盤(構造と機能)

テキスト	評価方法
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院	筆記

科目名 (授業科目)	形態機能学 V	単位・時間	1(30)	開講時期	解剖見学1年次11月 校内演習1年次12月
科目目標	健康を評価する生理学的指標の測定を通して、日常生活行動に伴う機能の理解を深める。 ①形態機能学Ⅰ～Ⅳで学んだからだの構造と機能を測定や実験を通して確認する。 ②機能が障害されたときに日常生活に与える影響を考察する。				

単　元	単元目標	内　容
演習オリエンテーション	1 演習を円滑に進めるための方法を理解する。	1 演習 ≪22h(11回)≫ 1)オリエンテーション 【2h(1回)】 2)演習 【10h(5回)】 2 発表準備と発表 【6h(3回)】 収集したデータを基にアセスメントし、資料を作成し発表する。 3 評価について
1 恒常性維持のための調節機構	1 活動による血圧と心電図の変化を理解する。 2 運動負荷前後のSpO_2を測定し、運動による循環への影響を考察する。	1 運動負荷前後の血圧、心電図、SpO_2の測定
2 日常生活行動:食べる	1 生活行動としての「食べる」を分析し考察する。 2 食べることによって起こるからだの変化を考察する。 3 栄養状態を主観的・客観的に評価し考察する。	1 食べる時に使用する形態機能(筋肉・関節・感覚)の確認 1)食行動に伴う筋肉や関節の動き 2)飲食時の嗅覚遮断、視覚遮断による違い 1 ジュースによる糖負荷と血糖値の変化 (1)空腹時 (2)30分後 (3)60分後 1 自己の栄養状態の評価 1)主観的包括的栄養評価(SGA) 2)客観的包括的栄養評価(ODA) ＊身長計、体重体組成計(カラダスキャン)、メジャー、皮下脂肪厚計の使用
3 日常生活行動:トイレに行く	1 尿の観察を通して、尿の生成過程と排泄について考察する。 2 トイレで排泄するために必要な運動機能を考察する。	1 尿の観察・測定 2 飲水後の尿量や比重の変化 1 排泄行動に伴う筋肉や関節の動き
4 日常生活行動:息をする	1 呼吸機能検査を行い、自己の呼吸機能を評価する。 2 体位の違いによる肺活量を測定し、臥床時の呼吸機能を考察する。	1 呼吸機能検査 1 体位による肺活量の測定
5 日常生活行動:話す・聞く・見る	1 音を聞くための聴覚機能を考察する。 2 物を見るための視覚機能を考察する。 3 見る、聞くの情報遮断によるコミュニケーションを通して伝達機能を考察する。	1 音の伝わり方・・ウェーバーテスト、リンネテスト 1 視野、立体視の観察 1 アイマスク、耳栓、イヤーホンを装着してのVTR聴取
6 目で見る人体の構造		1 解剖学総論 ≪6h(2回)≫ 1)人体の構成(細胞・組織) 外部講師【2h(1回)】 2)立体的位置の理解 (脳・胸部臓器・腹部臓器・骨格・血管・筋・神経) 2 解剖見学 【4h(1回)】

テキスト	評価方法
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院	個人レポート:事前課題 筆記試験

科目名 (授業科目)	生化学	単位・時間	1(30)	開講時期	1年次4月
科目目標	人体の構成成分と代謝、遺伝について理解する。				

単元目標	内容
1 細胞と物質代謝について理解できる。	1 化学の基礎知識 【14h(7回)】 2 生化学を学ぶための基礎知識 1) 生体分子 2) 細胞の構造と機能 3) 細胞と代謝 3 糖質と糖質代謝 1) 糖質の役割と種類・性質 2) 糖質の消化吸収 3) 解糖反応とその調節 4) グリコーゲンの合成と分解 5) 糖新生 6) 血糖の調節 4 酵素の役割と反応 5 ビタミンの役割と種類・特徴 6 脂質と脂質代謝 【14h(7回)】 1) 脂質の役割と種類・性質 2) 脂質の消化吸収 3) 脂肪酸の分解と生合成 4) ケトン体の生成と利用 5) コレステロールの生合成と利用 7 蛋白質と蛋白代謝 1) 蛋白質の役割と種類・性質 2) 蛋白質の消化吸収 3) 窒素平衡 4) アミノ酸の利用 5) 窒素化合物の合成 8 核酸と核酸代謝 1) 核酸の合成と分解 2) ヌクレオチドの合成の分解
2 遺伝のしくみについて理解できる。	1 遺伝情報 1) 蛋白質の合成と遺伝 2) 遺伝のしくみ 3) 遺伝子の異常

テキスト	評価方法
「生化学」 医学書院	筆記

科 目 名 （授業科目）	疾病の発生と病理的変化	単位・時間	1（30）	開講時期	1年次 6月
科目目標	病気の原因と人体にもたらす変化を理解する。				

単　元　目　標	内　容
1　疾病の原因や発生病理、形態と機能および代謝変化の原理を理解できる。	1　疾病概論　【2h(1回)】 1）　疾病論 2　疾病の成り立ちと回復　【20h(10回)】 1）　組織を構成する細胞の構造・機能とその生涯 （1）　壊死とアポトーシス （2）　萎縮と低形成 2）　細胞・組織の修復と再生 （1）　再生・化生 （2）　創傷治癒と肉芽組織 （3）　肥大と過形成 3）　細胞・組織に生じる病変とメカニズム （1）　循環障害　（虚血・梗塞・充血・うっ血・浮腫・腹水・胸水） （2）　炎症 （3）　免疫とアレルギー （4）　代謝障害 （5）　腫瘍 2）　変化が影響する個体の条件 （1）　先天異常 （2）　老化
2　人体に生じた変化の結果としての生命危機、人間の死について理解できる。	1　生命の危機　【4h(2回)】 1）　ショック 2）　DIC・MOF 3）　火傷・熱傷 2　人間の死　【2h(1回)】 1）　死の三徴候 2）　死の判定 3）　脳死

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進〔1〕病理学　　医学書院	筆記

科 目 名 （授業科目）	感染症と微生物	単位・時間	1（30）	開講時期	1年次 4月
科目目標	病原微生物が人体におよぼす影響と生態防御機構を学び、感染症の特徴と診断、治療、感染予防について理解する。				

単 元 目 標	内 容
1 健康状態を脅かす微生物の人体におよぼす影響を理解できる。	1 病原体と感染症 【2h(1回)】 1） 感染と発病 2） 感染源と感染経路 3） 宿主の防御機構
2 感染症の原因、主要症状、診断、治療の方法を理解できる。	1 主な病原体と感染症 【18h(9回)】 1） 細菌の特徴、臨床症状、診断、治療 2） 真菌の特徴、臨床症状、診断、治療 3） 原虫・寄生虫の特徴、臨床症状、診 4） ウイルスの特徴、臨床症状、診断、治療 HIV感染症・新型インフルエンザ ウイルス性肝炎・麻疹・風疹・水痘 など 2 感染症の治療 【4h(2回)】 1） 抗生物質と化学療法 2） 薬剤耐性菌
3 感染予防について理解できる。	1 感染症の現状と問題点 【4h(2回)】 1） 新興・再興感染症 2） 院内感染とその特徴 （1） 市中感染と院内感染 （2） 日和見感染 2 感染予防 1） 感染症法 2） 予防接種 3） 感染予防対策・ 院内感染対策

テキスト	評価方法
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔4〕微生物学 医学書院	筆記

科 目 名 （授業科目）	疾病と治療Ⅰ （呼吸器・循環器・内分泌代謝系の疾病と治療）	単位・時間	1（30）	開講時期	1年次 9月
科目目標	呼吸器、循環器、内分泌代謝系に疾病をもつ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。				

単　元　目　標	内　容
1　呼吸器系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。	1　呼吸器系　【10h(5回)】 1）　呼吸器系の代表的疾患の病態生理と主な症状 2）　呼吸器系の疾病を診断する検査 3）　呼吸器系疾患の主な治療 ①　肺がん　②　肺炎 ③　気管支炎　④　気管支喘息 ⑤　気胸　⑥　肺結核 ⑦　呼吸促迫症候群　⑧　慢性閉塞性肺疾患 ⑨　肺塞栓症　⑩　呼吸不全
2　循環器系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。	1　循環器系　【10h(5回)】 1）　循環器系の代表的疾患の病態生理と主な症状 2）　循環器系の疾病を診断する検査 3）　循環器系疾患の主な治療 ①虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞） ②不整脈　③心臓弁膜症　④心内膜炎 ⑤心筋症　⑥動脈硬化症　⑦高血圧 ⑧動脈系疾患（大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症） ⑨静脈系疾患（静脈瘤、静脈血栓症）　⑩心不全
3　内分泌・代謝系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。	1　内分泌・代謝系　【8h(4回)】 1）　内分泌・代謝系の代表的疾患の病態生理と主な症状 2）　内分泌・代謝系の疾病を診断する検査 3）　内分泌・代謝系疾患の主な治療 ①内分泌系疾患（クッシング病、バセドウ病、褐色細胞腫 下垂体機能亢進症） ②内分泌疾患の救急治療（クリーゼ） ③代謝系疾患（糖尿病、脂質異常症、肥満症、メタボリック シンドローム、高尿酸血症、痛風）

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔2〕呼吸器　医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔3〕循環器　医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔6〕内分泌・代謝　医学書院	筆記

科 目 名 （授業科目）	疾病と治療Ⅱ （消化器・腎泌尿器系の疾病と治療）	単位・時間	1（30）	開講時期	1年次 9月
科目目標	消化器、腎泌尿器系に疾病をもつ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。				

単　元　目　標	内　容
1　消化器系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。	1　消化器系　【16h(8回)】 1）　消化器系の代表的疾患の病態生理と主な症状 2）　消化器系の疾病を診断する検査 3）　消化器系疾患の主な治療 ①　胃潰瘍　②　胃がん ③　食道がん　④　肝炎 ⑤　肝硬変　⑥　肝臓がん ⑦　肝不全　⑧　大腸がん ⑨　潰瘍性大腸炎　⑩　イレウス ⑪　クローン病　⑫　胆石 ⑬　膵炎　⑭　膵臓がん
2　腎泌尿器系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。	1　腎泌尿器系　【12h(6回)】 1）　腎泌尿器系の代表的疾患の病態生理と主な症状 2）　腎泌尿器系の疾病を診断する検査 3）　腎泌尿器系疾患の主な治療 ＜腎＞ ①　腎不全　②　腎炎 ③　ネフローゼ　④　腎腫瘍 ＜泌尿器＞ ①　膀胱腫瘍　②　前立腺肥大 ③　前立腺がん　④　尿路感染症 ⑤　尿路結石

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門分野　　成人看護学〔5〕消化器　医学書院 系統看護学講座　専門分野　　成人看護学〔8〕腎・泌尿器　医学書院 別巻　臨床外科看護各論　　医学書院	筆記

科 目 名 (授業科目)	疾病と治療Ⅲ (脳神経、運動器系の疾病と治療)	単位・時間	1(30)	開講時期	1 年次 9 月
科目目標	脳神経、運動器系に疾病をもつ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。				

単　元　目　標	内　　容
1　脳・神経系に疾患を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。	1　脳・神経系　【16h(8回)】 1）　脳・神経系の代表的疾患の病態生理と主な症状・障害 2）　脳・神経系の疾病を診断する検査 3）　脳・神経系疾患の主な治療 代表的疾患 ①脳疾患（クモ膜下出血、脳出血、脳梗塞、脳腫瘍、頭部外傷、水頭症） ②脊髄疾患（脊髄小脳変性症） ③抹消神経障害（多発性ニューロパチー、ギラン-バレー症候群） ④神経・筋疾患（重症筋無力症、筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症） ⑤脱髄・変性疾患（多発性硬化症、パーキンソン病） ⑥脳・神経系の感染症（脳炎、髄膜炎） ⑦てんかん ⑧認知症 主な症状・障害 ・意識障害　・高次脳機能障害 ・運動機能障害　・感覚機能障害 ・反射性運動の障害　・頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア ・髄膜刺激症状
2　運動器系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。	1　運動器系　【12h(6回)】 1）　運動器系の代表的疾患の病態生理と主な症状・障害 2）　運動器系の疾病を診断する検査 3）　運動器系疾患の主な治療 ①骨折 ②脱臼 ③神経の損傷（脊髄損傷、抹消神経損傷） ④筋・腱・靭帯などの損傷（半月板損傷、靭帯損傷） ⑤先天性疾患（先天性股関節脱臼） ⑥炎症性疾患（骨髄炎、変形性関節症、関節リウマチ、痛風） ⑦骨腫瘍（骨肉腫、がんの骨転移） ⑧脊椎の疾患（椎間板ヘルニア、脊髄腫瘍） ⑨骨粗鬆症

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門分野　成人看護学[7]　脳・神経　　医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学[10]　運動器　　医学書院	筆記

科 目 名 (授業科目)	疾病と治療Ⅳ(自己免疫・女性生殖器・血液リンパ・感覚器系の疾病と治療)	単位・時間	1(30)	開講時期	2 年次 4 月
科目目標	自己免疫、女性生殖器、血液リンパ、感覚器系に疾病をもつ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。				

単　元　目　標	内　　容
1 自己免疫系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。	1 自己免疫系 【6h(3回)】 1) 自己免疫系の代表的疾患の病態生理と主な症状 2) 自己免疫系の疾病を診断する検査 3) 自己免疫系疾患の主な治療 ①膠原病(全身性エリテマトーデス)、関節リウマチ、多発性筋炎・皮膚筋炎、シェーグレン症候群、ベーチェット病) ②アレルギー性疾患(アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎) ③免疫不全(ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症)
2 女性生殖器に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。	1 女性生殖器系 【6h(3回)】 1) 女性生殖器系の代表的疾患の病態生理と主な症状 2) 女性生殖器系の疾病を診断する検査 3) 女性生殖器系疾患の主な治療 ①子宮の疾患(子宮筋腫、子宮がん、子宮内膜症) ②卵巣の疾患(卵巣の悪性腫瘍) ③乳腺の疾患(乳がん) ④機能的疾患(不妊症) ⑤感染症(性感染症)
3 血液・リンパ系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。	1 血液・リンパ系 【8h(4回)】 1) 血液・リンパ系の代表的疾患の病態生理と主な症状 2) 血液・リンパ系の疾病を診断する検査 3) 血液・リンパ系疾患の主な治療 ①貧血 ②白血病 ③悪性リンパ腫 ④多発性骨髄腫 ⑤播種性血管内凝固症候群<DIC>・紫斑病
4 感覚器系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。	1 感覚器系 【8h(4回)】 1) 感覚器系の代表的疾患の病態生理と主な症状 2) 感覚器系の疾病を診断する検査 3) 感覚器系疾患の主な治療 ①視覚器の障害(白内障、緑内障、角膜炎、結膜炎、糖尿病性網膜症) ②聴覚・平衡覚・嗅覚器の障害(中耳炎、副鼻腔炎、メニエル病、難聴、上顎がん、咽頭がん、喉頭がん) ③味覚・歯・口腔器の障害(う歯、歯肉炎、歯列異常、口腔内腫瘍) ④体性感覚器の障害(湿疹・皮膚炎、熱傷)

テキスト					評価方法
系統看護学講座	専門分野	成人看護学[11]	アレルギー膠原病感染症	医学書院	筆記
系統看護学講座	専門分野	成人看護学[9]	女性生殖器	医学書院	
系統看護学講座	専門分野	成人看護学[4]	血液・造血器	医学書院	
系統看護学講座	専門分野	成人看護学[13]	眼	医学書院	
系統看護学講座	専門分野	成人看護学[12]	皮膚	医学書院	
系統看護学講座	専門分野	成人看護学[14]	耳鼻咽喉	医学書院	
系統看護学講座	専門分野	成人看護学[15]	歯・口腔	医学書院	

科 目 名 (授業科目)	薬理学	単位・時間	1(30)	開講時期	1年次10月
科目目標	薬理学の基礎的知識、薬物の作用とその管理、主な薬物の特徴を理解する。				

単　元　目　標	内　　容
1　薬理作用の基礎知識に基づき、薬物の特徴・作用機序・人体への影響および薬物の管理について理解できる。	1　薬理学総論　【8h(4回)】 1)　薬理学の概要 2)　体内情報伝達機序 3)　薬の作用機序 4)　薬物体内動態 5)　薬理作用と有害事象 6)　薬効に影響を及ぼす因子 7)　薬の管理と法令(薬事法を含む) 8)　医薬品の安全対策 ①混合の可否 ②禁忌 ③保存方法 ④薬理効果に影響する要因 ⑤誤薬
2　主な薬物の特徴について理解できる。	1　薬理学各論　【20h(10回)】 1)　抗感染薬 (抗菌薬、ウイルス薬) 2)　抗がん薬 3)　免疫治療薬 (免疫抑制・増強薬、予防接種) 4)　抗アレルギー・抗炎症薬 (抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬、副腎皮質ステロイド製剤) 5)　末梢神経に作用する薬 (交感神経作用薬、副交感神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬) 6)　中枢神経に作用する薬 (全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ薬、抗てんかん薬、パーキンソン症候群治療薬、麻薬性鎮痛剤) 7)　心臓・血管系に作用する薬 (抗高血圧薬、強心薬、利尿薬、血液作用薬) 8)　呼吸器・消化器に作用する薬 (喘息治療薬、潰瘍治療薬) 9)　生殖器系に作用する薬 10)　物質代謝に作用する薬 (糖尿病治療薬) 11)　皮膚・眼用薬 12)　救急時に使用される薬物 (強心薬、抗不整脈薬、狭心症治療薬、降圧薬、昇圧薬、利尿薬など)

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進[3]薬理学　医学書院 ポケット版治療薬UP-TO-DATA　　メディカルレビュー社	筆記

科 目 名 (授業科目)	治療論Ⅰ (放射線・手術・麻酔と治療)	単位・時間	1(30)	開講時期	2年次 4月
科目目標	疾病の回復を促進する放射線療法、麻酔手術療法、内視鏡的治療と、検査および医療機器の基礎的知識を理解する。				

単　元　目　標	内　　容
1　疾病の回復を促進する各種治療の原理を理解できる。	1　放射線治療　【4h(2回)】 1)　放射線とは 2)　放射線の適応・種類 3)　放射線診断と看護 4)　放射線治療と管理 5)　放射線障害・防護と健康管理 2　手術療法による治療　【8h(4回)】 1)　手術療法の目的・意義 2)　手術侵襲と生体反応 3)　術前管理 4)　術後管理 5)　術後の疼痛管理 6)　術後合併症管理 3　麻酔による治療　【4h(2回)】 1)　各麻酔法と管理 2)　麻酔の効果と二次的障害 3)　全身麻酔と生体反応 4)　神経ブロック 4　内視鏡的治療　【2h(1回)】 1)　内視鏡的治療の目的・特徴 2)　内視鏡的治療の種類 3)　内視鏡的治療に伴う管理
2　疾病の診断過程と検査、医療機器について理解できる。	1　検査　【4h(2回)】 1)　臨床検査の種類 2)　診察と検査機器 3)　検体の採取法とその取り扱い方 4)　検査結果の見方、考え方 ①一般検査　②血液検査 ③臨床化学検査　④血清検査 ⑤輸血　⑥ホルモン検査 ⑦微生物検査　⑧病理検査 ⑨生理機能検査 2　医療機器　【6h(3回)】 1)　主な医療機器の原理と使用上の注意事項 2)　医療機器の種類と特徴 ①心電計・心電図モニター ②パルスオキシメーター ③人工呼吸器 ④輸液ポンプ ⑤徐細動器 ⑥透析管理装置

テキスト	評価方法
系統看護学講座　別巻　臨床放射線医学　　医学書院 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　　医学書院 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論　　医学書院 系統看護学講座　別巻　臨床検査　　医学書院 ナースのための新ME機器マニュアル　　医学書院	筆記

科 目 名 (授業科目)	治療論Ⅱ (食事療法・リハビリテーション・救急医療)	単位・時間	1(30)	開講時期	2年次4月
科目目標	健康にとっての栄養に関する基礎的知識と、疾病の回復を促進する食事療法、リハビリテーション療法を理解する。また、救急医療の基礎的知識を理解する。				

単　元　目　標	内　　容
1　健康にとっての食事・栄養の意義と健康障害時の食事療法について理解できる。	1　国民の栄養の現状　《10h(5回)》 2　食生活と食事療法の意義 3　発達段階に応じた栄養管理の基本 　1)妊産婦の栄養 　2)小児の栄養 　3)更年期の栄養 　4)高齢者の栄養 4　栄養評価 　1)過栄養 　2)低栄養 5　医療の場における栄養食事療法 　1)栄養食事療法の総合マネジメント 　2)チームケアの実践(NST) 6　各健康障害と食事療法 　1)一般治療食 　2)糖尿病食 　3)腎臓病食 　4)心疾患の食事療法 　5)消化器疾患の食事療法 7　特殊栄養法 8　在宅における栄養
2　リハビリテーションの概念と方法について理解できる。	1　リハビリテーションの概念　《12h(6回)》 2　リハビリテーションの対象の理解　【8h(4回)】 3　障害のアセスメント 4　リハビリテーションの実際 　1)理学療法 　　①運動系の評価(ADL、ROM、MMT) 　　②運動麻痺と機能訓練 　　③姿勢移動動作 　2)作業療法 　3)言語療法 　4)呼吸リハビリテーション 　5)嚥下障害リハビリテーション
3　救急医療の特徴と救命方法について理解できる。	1　救急医療の特徴　《6h(3回)》 2　救急患者の初期評価 3　重篤な病態と治療の実際 　1)ショック 　2)呼吸不全 　3)循環不全 　4)熱傷 4　心肺蘇生 　1)気道確保 　2)人工呼吸 　3)心マッサージ

テキスト	評価方法
系統看護学講座　別巻　栄養食事療法　　医学書院 新体系看護学　リハビリテーション看護　　メヂカルフレンド社	筆記

科 目 名 (授業科目)	公衆衛生と健康支援	単位・時間	1(15)	開講時期	2年次10月
科目目標	公衆衛生の基礎的知識と健康に関連する指標、保健対策および保健活動を理解する。				

単　元　目　標	内　　容
1　公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度及び保健活動の進め方について理解できる。	1　健康と公　【14h(7回)】 1)　公衆衛生の概念 2)　健康と環境 3)　疫学的方法による健康の理解 4)　ヘルスプロモーション ＊高リスクアプローチ、集団アプローチ含む 5)　プライマリーヘルスケア・コミュニティパワーメント 2　健康指標と予防 1)　健康に関連した指標 3　地域保健活動と看護職
2　保健対策の動向と活動について理解できる。	1　生活環境が健康に及ぼす影響 1)　地球環境　2)　住環境　3)　食環境　4)　感染症 2　保健活動 1)　地域保健　2)　母子保健　3)　学童期の健康管理 4)　生活習慣病予防　5)　難病対策 6)　職場の健康管理
3　保健医療の国際協力を理解できる。	1　世界の保健と健康問題 2　世界保健機関と機能 3　国際保健の課題

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度2　公衆衛生　医学書院 厚生の指標　増刊　国民衛生の動向　　厚生労働統計協会	筆記

科 目 名 (授業科目)	医療と倫理	単位・時間	1(15)	開講時期	3年次4月
科目目標	人間の生活を学び、医学医療のあゆみと生命倫理についての基礎的知識を理解する。				

単　元　目　標	内　　容
1　人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、より良く生きようとする社会的存在としての人間について理解できる。	1　生活基盤　【14h(7回)】 1)　生活単位 2)　家庭生活の基本機能 3)　生活の場と機能 4)　労働と健康
2　現代医学・医療のあゆみと現代医療が抱える課題を理解できる。	1　医学・医療のあゆみ 1)　現代医学の起源 2)　現代の医療
3　生命倫理とは何か学び、いのちについて考えることができる。	1　生命倫理 1)　医療と倫理 2)　医療における患者の権利 3)　生殖医療 4)　医学の進歩と死への対応:脳死・尊厳死・安楽死・臓器移植

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度1　総合医療論　医学書院	筆記

科 目 名 (授業科目)	社会保障と制度	単位・時間	1(15)	開講時期	2年次10月
科目目標	社会保障に関する基礎的知識と社会保険制度を理解する。				

単　元　目　標	内　　容
1 社会保障の理念や動向と社会福祉の法制度が理解できる。	1 社会保障 【14h(7回)】 1) 保健医療福祉の活動の基本方向 (1) 理念・憲法第25条 (2) ノーマライゼーション 2 社会福祉諸法の理念と施策 1) 社会福祉とは 2) 社会福祉の理念と変遷 3) 生活保護制度と動向 3 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 1) 人口、地域社会、家族・個人、経済、雇用状況の変化 2) 今後の社会保障、保健医療社会福祉の動向 ＊地域医療構想 ・社会保障、税番号制度 ・地域包括ケアシステム
2 社会保険制度と社会福祉の理念と施策を理解できる。	1 社会保険制度 1) 社会保険の変遷 2) 医療保険制度 3) 介護保険制度 4) 年金制度 5) その他の社会保険制度

テキスト	評価方法
系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度3 社会福祉 医学書院	筆記

科 目 名 (授業科目)	社会福祉活動	単位・時間	1(15)	開講時期	3年次4月
科目目標	生活者を支援する社会福祉活動と保健医療福祉の連携、協働の必要性について理解する。				

単　元　目　標	内　　容
1 社会福祉の各分野における問題と主な施策を理解できる。	1 社会福祉 【14h(7回)】 1) 日本における社会福祉の展開 2) 戦後の社会福祉の総括と福祉改革 3) 21世紀の社会福祉の展望 2 社会福祉の基本的性格 1) 社会福祉の定義・範囲 2) 社会福祉の思想 3) 社会福祉の構造 3 社会福祉の援助対象と福祉ニーズ 4 社会福祉諸法の理念と施策 1) 社会福祉の理念と変遷 2) 生活保護法と施策 3) 障害者(児)への施策 4) 児童への施策 5) 老人への施策 5 社会福祉行政 1) 保健福祉計画 2) 社会福祉の民間活動 3) 国、地方公共団体の行政と組織及びマンパワー 4) 老人保健福祉行政の展開
2 社会福祉実践と保健医療福祉の連携について理解できる。	1 社会福祉援助の方法 1) 社会福祉援助の視点・原理・方法 2) 保健・医療・福祉における職種と連携 3) 社会福祉と医療

テキスト	評価方法
系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度3 社会福祉 医学書院	筆記

科目名 (授業科目)	医療と法律	単位・時間	1(15)	開講時期	3年次7月
科目目標	法律の基礎的知識を学び、人びとの健康と生活を守る法規について理解する。				

単元目標	内容
1 法の知識と法令、厚生行政について理解できる。	1 法の知識と法令について 【14h(7回)】 1) 法規の概念 2) 厚生行政のしくみ 2 厚生行政のしくみ 1) 厚生労働省の任務 2) 厚生労働省の組織と関係法規
2 看護活動に関連する主な法規について理解できる。	1 看護活動と医療関連法規 1) 医事法規 (1) 保健師助産師看護師法 (2) 看護師等の人材確保の促進に関する法律 (3) 医師法 (4) 薬剤師法 (5) 診療放射線技師法 (6) 臨床検査技師法 (7) 理学療法士、作業療法士法 (8) 関連職種等 2) 保健衛生法規 3) 薬事法規 4) 環境衛生法規 5) 労働関連法規 6) 臓器移植法

テキスト	評価方法
系統看護学講座 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令 医学書院	筆記

科目名 (授業科目)	看護と医療過誤	単位・時間	1(15)	開講時期	3年次4月
科目目標	医療過誤における看護業務と看護師の法的責任を理解する。				

単元目標	内容
1 医療事故における法的責任について理解できる。	1 医療事故と法的責任 【14h(7回)】 1) 法的責任 (1) 医療事故・医療過誤とは (2) 民事上の責任 (3) 刑事上の責任 (4) 行政上の責任 (5) 結果予見、結果回避義務 2) 看護記録の位置づけ 3) 報告義務 4) 安全配慮義務
2 事例をとおし、看護の業務と法的責任について理解できる。	1 病院における看護の保障と関係法規 1) 診療の補助行為に伴う事故 2) 療養上の世話業務における事故 3) チーム医療と看護職の責任 4) 看護記録 5) 継続看護における個人情報の取り扱い 6) 医療過誤(事例) 2 看護学生の臨地実習と関係法規 演習 医療過誤事例の分析

テキスト	評価方法
医療事故(看護の法と倫理の視点から) 第2版 医学書院 看護関係法令 医学書院	筆記

Ⅲ. 専　門　分　野　Ⅰ

基　礎　看　護　学

専門分野Ⅰ

基礎看護学

【基礎看護学の考え方】

基礎看護学は、専門分野Ⅱ及び統合分野の基盤となる位置づけである。基礎的理論や基礎的看護技術を学び、看護師として倫理的な判断をするための基礎的能力を養う。看護学の最初に学習する専門科目であり、看護の総合的理解を学習する分野である。

基礎看護学で学ばせる内容は、各看護学及び在宅看護論の基盤となる内容を強調し教授できるよう、また、看護師として倫理的な判断をするための基礎的能力を養う。講義は基礎看護学概論と基礎看護技術と臨床看護技術の３本柱で構成している。さらに、基礎看護学実習はⅠ・Ⅱの２段階で構成する。

看護学概論は、看護全般の概念をとらえ、看護の位置づけと役割の重要性を学ぶ。「看護の概念」と、「看護の理論」で構成し、「看護の概念」では看護一般の概念を学び、看護の本質と役割について学ぶ。

「看護の理論」では、近代看護の創始者であるナイチンゲールの看護の考え方をはじめとするニード論や人間関係論などを学び、看護を理論的、科学的に考える力を養う。

基礎看護技術は、対象の理解と看護実践の基礎となる知識と技術を習得する。看護の対象は生活者として捉えて理解し、看護の目的達成の為のエビデンスに基づいた具体的な方法を考え、実践するための技術を学ぶ。そして、〈看護の基本となる技術〉〈生活を整える技術〉〈診療に伴う技術〉で構成する。〈看護の基本となる技術〉は、「人間関係成立の技術」「対象把握の技術」「医療・療養環境を整える技術」「看護過程」で組み立てる。対象を理解するコミュニケーション技術、患者の身体状況を把握するフィジカルアセスメント、看護を科学的に展開するための思考プロセスである看護過程を強化して学習する。〈生活を整える技術〉は、形態機能学をふまえて、「活動・休息」「食事・排泄」「清潔」で構成し、日常生活援助の看護技術を習得できるようにする。〈診療に伴う技術〉は、「与薬」「診察・検査」を組み立て、安全かつ正確に実施できるための知識と技術を学ぶ。

臨床看護技術では、主要症状･治療処置別の各看護の技術を学ぶ。健康障害をもつ対象の代表的な状態の理解と看護を実践する。事例の症状をアセスメントし、看護上の問題を解決するための方法を判断し、複数の援助技術を組み合わせて実践することを学ぶ。

基礎看護学実習は、後に続く各看護学実習及び統合実習の基礎となる。看護実践を段階的に学べるよう基礎看護学実習Ⅰと基礎看護学実習Ⅱで組み立てる。基礎看護学実習Ⅰにおいては、講義や校内実習で学んだ知識や技術を統合して対象者に合わせて日常生活援助を実践できるようにする。疾病や障害によって生じた生活の不自由さを理解し、人間関係成立と、対象者に必要な看護援助を考え実践する。基礎看護学実習Ⅱにおいては、看護過程のプロセスを用いて、科学的思考に基づいた看護の実践を学ぶ。対象者の疾病や障害によって生じた生活への影響を捉え、対象に応じた日常生活援助を実施する。

【目的】

人間のライフサイクルにおける健康の意義、保健・医療・福祉チームにおける看護の役割を理解し、看護の基礎となる知識・技術・態度を養う。

【目標】

1 看護全般の概念を学び、看護の本質と位置づけと役割を理解できる。
2 看護を実践する上での基礎となる知識・技術・態度を習得できる。
3 健康障害を持つ対象を理解し、状態に応じた安全・安楽な援助方法を習得できる。
4 看護を科学的な思考に基づいて展開する知識と技術を習得できる。

【構成および計画】

＜講義＞

授業科目	単位数	時間数	学年別計画時期			備考
			1年	2年	3年	
看護学概論	1	30	1(30)			
看護の理論	1	15	1(15)			
看護の基本となる技術Ⅰ（人間関係成立の技術）	1	30	1(30)			
看護の基本となる技術Ⅱ（対象把握の技術）	1	30	1(30)			
看護の基本となる技術Ⅲ（医療・療養環境を整える技術）	1	30	1(30)			
看護の基本となる技術Ⅳ（看護過程）	1	30	1(30)			
生活を整える技術Ⅰ（食事･排泄）	1	30	1(30)			
生活を整える技術Ⅱ（活動・休息・清潔）	1	30	1(30)			
臨床看護技術	1	30	1(30)			
診療に伴う技術（治療に伴う技術）	1	30		1(30)		
合計	10	285	9(255)	1(30)		

＜臨地実習＞

授業科目	実習内容	単位(時間)	時期
基礎看護学実習Ⅰ	人間関係成立・対象の日常生活支援	1（45）	1年次
基礎看護学実習Ⅱ	看護過程の展開・対象の日常生活支援	2（90）	1年次
合計		3単位135時間	

科目名 (授業科目)	看護学概論	単位・時間	1(30)	開講時期	1年次 4月
科目目標	看護全般の概念を学び、看護の本質と位置づけと役割を理解できる。				

単元	目　標	内　　容
看護の概念	1　看護の概念を理解できる。	1　看護とは　《28h　14回》 1)看護の変遷　【14h　7回】 2)看護理論の発展 (1)　F.ナイチンゲール　(2)ヘンダーソン　(3)その他 3)看護の目的・定義 2 看護と法律 1)憲法　2)保健師助産師看護師法 3)医師法　4)日本の看護教育
看護の対象	2　看護の対象を理解できる。	1　看護の対象としての人間　【4h　2回】 1)統合体としての人間　2)人間と欲求(マズローの基本的欲) 3)人間と環境　4)ライフサイクルと発達課題 2　患者と家族 1)患者とは　2)患者役割行動　3)患者と家族
健康の概念	3　健康の概念を理解できる。	1　人間にとっての健康　【6h　3回】 1)健康の捉え方と定義　2)障害の理解 2　基本的権利としての健康 1)健康を守る法律・施策 2)プライマリ・ヘルスケア 3)ヘルスプロモーション 4)ノーマライゼーション 3　健康指標と健康問題 4　健康に影響する諸要因 5　健康段階と連続性
看護の機能と役割	4　看護の機能と役割を学び看護活動の概要を理解できる。	1　看護の機能　【4h　2回】 2　看護実践へのアプローチ 3　看護活動の場と看護の役割 1)　保健医療福祉 (1)保健・医療・福祉と看護　(2)他職種との連携 2)医療施設における看護活動 3)地域における看護活動 4)保健医療福祉施設における看護活動 4　継続看護 (1)施設内から在宅への継続 (2)退院計画及び退院指導 5　看護の国際協力 1)世界の健康問題の現状 2)国際保健の基本理念 3)国際協力のしくみ 4)異文化理解 6　専門職としての看護師 1)継続教育 2)ジェネラリストとスペシャリスト 3)専門看護師、認定看護師

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門分野Ⅰ 看護学概論　基礎看護学①　医学書院 看護の基本となるもの　日本看護協会出版会 フローレンス・ナイチンゲール　看護覚え書　現代社 看護者の基本的責務　定義・概念／基本法／倫理　日本看護協会出版会	筆記

科目名	看護の理論	単位・時間	1(15)	開講時期	1年次　7月
科目目標	看護の理論を理解し、看護に対する考えを深めることができる。				

単元	目　標	内　　容
看護理論の意義と分類	1　看護理論の意義と分類を理解できる。	1　理論について　《15h　7回》 1)理論の定義　【6h　3回】 2)理論に関連する用語 2　看護理論について 1)看護理論の定義 2)看護理論の意義 3)看護理論の歴史的変遷 4)看護理論の分類 (1)テーマによる分類 ①ニード論 ②相互作用理論・人間関係論 ③システム理論 ④ケアリング理論 (2)理論の大きさによる分類 ①大理論 ②中範囲理論 ③実践理論(ミクロ理論) ④メタ理論
代表的な看護理論の概要	2　主な看護理論の概要を理解できる。	1　主な看護理論　【6h　3回】 1)ナイチンゲールの看護理論 2)ニード理論 (1)ヘンダーソン 3)相互作用理論(人間関係論) (1)ペプロウ (2)トラベルビー 4)システム理論 (1)オレム (2)ロイ 5) ケアリング理論 (1)ベナー 演習【6h】 1　2)～5)の中から理論家を取り上げてグループワークをする。
中範囲理論と看護診断の関連	3　看護診断に必要な中範囲理論を理解できる。	1　看護診断に必要な中範囲理論　【2h　1回】 1)中範囲理論の特徴 2)中範囲理論と看護診断

テキスト	評価方法
改訂2版　やさしい看護理論　メディカ出版 看護診断のための　よくわかる中範囲理論 第2版　学研 看護の基本となるもの　日本看護協会出版会 ※参考文献:看護学の概念と理論的基盤　日本看護協会出版会	筆記

科目名 （授業科目）	看護の基本となる技術Ⅰ （人間関係成立の技術）	単位・時間	1（30）	開講時期	1年次　4月
科目目標	1　適切な看護実践のための看護技術の特徴が理解できる。 2　関係構築のためのコミュニケーションの基礎知識が理解でき、基本技術が習得できる。 3　看護者として必要な看護倫理を理解し、倫理的態度を養うことができる。				

単元	目　標	内　　容
看護技術の概念	1　看護技術の概念を理解できる。	1　看護技術の概念　《2h　1回》 1）看護技術とは 2）看護技術の特徴 3）看護技術を適切に実践するための要素 4）看護技術の習得過程
看護におけるコミュニケーションの意義	1　看護におけるコミュニケーションの意義と人間関係成立のためのコミュニケーション技術を理解できる。	1　コミュニケーションの意義と目的　《18h　9回》 1）コミュニケーションとは　【12h　6回】 2）人間関係作り 3）医療におけるコミュニケーション 2　コミュニケーションの構成要素と成立過程 1）コミュニケーション手段 (1)　言語的要素　(2)非言語的要素 2）構成要素と成立過程 1　関係構築のためのコミュニケーションの基本 1）接近性コミュニケーションの原理 2）コミュニケーションを円滑にするための基本的態度 (1)外見・身だしなみ・視線・対人距離・スキンシップ アサーティブネスなど
	3　看護場面に応じた基礎的なコミュニケーション技術を習得できる。	1　効果的なコミュニケーションの実際 1）傾聴の技術 2）情報収集の技術 3）説明の技術 2　カンファレンス 1）看護カンファレンス 2）ケースカンファレンス 校内実習【6h　3回】 1患者とのコミュニケーション 患者説明書を使用した初対面の挨拶の実施（4h） 2援助場面、看護師とのコミュニケーション（2h）
看護における倫理	1　看護者としての自覚と責任を持つことができる。	1　看護における倫理　《8h　4回》 1）倫理とは 2）職業倫理としての看護倫理 3）看護倫理をめぐる歴史的経緯と看護倫理 ①生命倫理と基本的人権　②インフォームドコンセント ③守秘義務　④アドボカシー 2　医療専門職の倫理規定 1）ICN「看護師の倫理綱領」 2）日本看護協会「看護者の倫理綱領」 3）患者の権利章典 3　医療・看護における倫理原則 1）倫理原則 2）倫理的ジレンマ ①看護実践場面での倫理的ジレンマ 3）情報を適切に取り扱うための知識と能力 ①情報倫理　②情報セキュリティ　③個人情報保護法 ※倫理的意思決定のプロセスについてグループ演習で学ぶ

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門分野Ⅰ　看護学概論　基礎看護学①　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　医学書院 看護技術がみえる①　基礎看護技術　メディックメディア よくわかる　看護者の倫理綱領　照林社 看護者の基本的責務　定義・概念／基本法／倫理　日本看護協会出版会	筆記

科目名 （授業科目）	看護の基本となる技術Ⅱ （対象把握の技術）	単位・時間	1（30）	開講時期	1年次　7月
科目目標	1　対象の健康状態を評価する意義と方法を理解し基本技術が習得できる。 2　看護における観察・記録・報告の意義と方法を理解できる。				

単元	目　標	内　　容
看護における ヘルスアセスメント	1　看護におけるヘルスアセスメントの意義が理解できる	1　ヘルスアセスメントの意義と目的　《26h 13回》 2　ヘルスアセスメントにおける観察と視点　【16h　8回】
	2　フィジカルイグザミネーションの基本技術が習得できる。	1　フィジカルアセスメントに必要な技術 1）フィジカルイグザミネーションとは （1）フィジカルイグザミネーションの基本技術 ①問診　②視診　③触診　④聴診　⑤打診 （2）バイタルサインの観察とアセスメント ①体温・脈拍・呼吸・血圧・意識（心理的側面を含む） ②体温表、フローシートの記載方法 （3）身体計測（腹囲、下肢など）
	3　フィジカルイグザミネーションを活用し正常な身体の状態を把握できる。	2　系統別フィジカルアセスメント 1）呼吸器系 2）循環器系 3）腹部 4）筋・骨格系 5）神経系 6）感覚器 校内実習【10h　5回】 1　バイタルサインの測定と記録・報告　(2h) 2　バイタルサインの測定　技術チェック　(2h) 3　フィジカルイグザミネーションの実際 と記録・報告 1）呼吸器系・循環器系・血管系　(4h) 2）腹部・神経系　(2h)
看護における 記録・報告	1　看護における記録・報告の意義と方法を理解できる。	1　看護記録　《2h　1回》 1）看護記録とは 2）記載・管理における留意点 3）記録の構成 2　報告 1）報告の目的と方法 2）報告時の留意点

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　医学書院 フィジカルアセスメントがみえる　メディックメディア	筆記

科目名 （授業科目）	看護の基本となる技術Ⅲ （医療・療養環境を整える技術）	単位・時間	1（30）	開講時期	1年次4月
科目目標	安全・安楽な医療・療養環境について理解し、基本技術を習得できる。				

単元	目　標	内　　容
医療・療養環境の調整	1　患者の生活の場である環境を理解できる。	1　環境　《16h　8回》 1）環境とは　【10h　5回】 2）環境調整の意義 3）療養環境のアセスメントと調整 （1）共有スペース・居住スペース （2）病室・病床の環境 ①温度・湿度・気流　②採光・照明　③音　④色彩　⑤空気 ⑥臭気　⑦リネン類　⑧人的環境 （3）安全で快適な環境調整の技術 ①ベッドメーキング ②ベッド周囲の環境整備
	2　環境調整の基本技術を習得できる。	校内実習【6h　3回】 1　リネンの取り扱い方、ベッドまわりの構成　（2h） 2　ベッドメーキング　（2h） 3　臥床患者のシーツ交換　（2h）
医療環境における安全	1　看護における安全の意義を理解できる。	1　看護における安全　《 12h　6回 》 1）安全とは　【8h　4回】 2）看護における安全と阻害因子 ヒューマンエラー 3）安全における看護者の役割 4）医療安全対策 ヒューマンエラーの防止 インシデントレポートの活用 システム、機器点検、転倒・転落の防止 誤薬の防止、患者誤認の防止 2　安全を守る技術 1）感染の成立と予防 2）感染予防の原則 3）感染予防における看護者の役割 4）感染防止対策 (1)標準予防策（スタンダードプリコーション）の定義 (2)スタンダードプリコーションの実際 ①衛生学的手洗い（流水・擦式） ※実習室で手洗いの実験を通して考える ②個人防護用具の着用　他 (3)感染経路別予防策 (4)洗浄・消毒・滅菌 ①消毒薬の作りかた (5)無菌操作 ①清潔と汚染の区別 ②滅菌物の取り扱い (6)感染性廃棄物の取り扱い
	2　看護における安全の基本技術を習得できる。	校内実習【4h　2回】 1　個人防護用具の使用方法　（2h） （個室隔離を例にした防護具の選択と取り扱い） 2　無菌操作　（2h） （滅菌手袋の着脱、鑷子・滅菌パック・綿球の取り扱い）

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門分野Ⅰ　看護学概論　基礎看護学①　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　医学書院 系統看護学講座　統合分野　医療安全　医学書院 看護技術がみえる①　基礎看護技術　メディックメディア 看護技術がみえる②　臨床看護技術　メディックメディア 医療安全ワークブック　医学書院	筆記

科目名 (授業科目)	看護の基本となる技術Ⅳ (看護過程)	単位・時間	1(30)	開講時期	1年次　7月
科目目標	看護過程の意義と科学的思考とそのプロセスを理解できる。				

単元	目　標	内　　容
看護過程展開の基礎知識	1　看護過程の意義と基礎知識を理解できる。	1　看護過程とは　《28h　14回》 2　看護過程の意義　【18h　9回】 3　看護過程の歴史的変遷 4　問題解決法 5　看護過程における看護理論 6　看護過程の構成要素 1)アセスメント (1)対象把握に必要な技術 ①情報収集の視点 ②ゴードンの機能的健康パターンの定義と概念 ③臨床推論 2)看護診断 (1)看護診断の定義 (2)看護診断の構造 (3)原因・誘因、症状・徴候と確定診断 3)計画立案 (1)成果・指標の設定 (2)計画 ①観察計画　②援助計画　③指導計画 4)実施 (1)実践の意義 (2)記録 1)POS・SOAP 2)フローシート (3)報告 5)評価
看護過程の展開	3　看護過程の活用方法が理解できる。	1　事例展開 1)アセスメント 2)看護診断 3)計画立案 4)実施 5)評価 演習【10h　5回】 事例展開

テキスト	評価方法
NANDA-I看護診断　定義と分類　2018～2020　　医学書院 アセスメント覚え書き　ゴードン　機能的健康パターンと看護診断 看護過程に沿った対症看護　学研 ポケット版治療薬Up-To-Date メディカルレビュー社 ナースのための検査値ガイド　すぐにわかる！検査とケアのポイント　総合医学社 看護診断のための　よくわかる中範囲理論	筆記・レポート

科目名 （授業科目）	生活を整える技術Ⅰ （食事・排泄）	単位・時間	1（30）	開講時期	1年次　7月
科目目標	1　食事・排泄の意義を理解し、基本技術を習得できる。				

単元	目　標	内　　容
食事・栄養の援助	1　食事の意義と栄養状態を整える方法が理解できる。	1　食事の意義と目的　《8h　4回》 2　食事援助の基礎知識　【6h　3回】 1）栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメント （1）栄養状態の評価 （2）摂食・嚥下のアセスメント （3）水分・電解質バランスのアセスメント 2）食事と病院食の種類 （1）一般食・特別食・治療食・小児食・検査食 （2）常食・軟食・流動食 3）治療食と食生活の指導　（NST） 3　食事援助の技術 1）食事環境の整備 2）摂食動作と姿勢 3）食事介助 4）口腔内の清潔と観察
	2　栄養状態を整えるための基本技術が習得できる。	校内実習【2h　1回】 1　食事環境の整備と確実な配膳 2　食事介助と食後の口腔ケア
排泄の援助	1　排泄の意義を理解できる。	1　排泄の意義と目的　《20h　10回》 2　看護師に求められる基本的姿勢　【14h　7回】 3　排便、排尿のアセスメント 1）排泄に影響を及ぼす要因 2）排泄機能のアセスメント 3）排泄行動のアセスメント 4）排泄物の観察 4　自然な排泄を促すための援助 1）排泄環境の整備 2）排泄用具の種類と特徴 5　排便・排尿困難時の技術 1）排便困難 2）腹部マッサージ・温罨法・摘便 3）排尿困難 4）一時的導尿・持続的導尿 6　感染予防 （1）排泄物の取り扱い （2）皮膚・粘膜の清潔の保持
	2　排便・排尿を促すための援助技術が習得できる。	校内実習【6h　3回】 1　排便困難時の援助 1）腹部マッサージ・温罨法 2）浣腸・摘便　（4h） 3）便器を使用した陰部洗浄 2　排尿困難時の援助 1）一時的導尿　（2h）

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　医学書院 看護技術がみえる①　基礎看護技術　メディックメディア 看護技術がみえる②　臨床看護技術　メディックメディア	筆記

科目名 （授業科目）	生活を整える技術Ⅱ （活動・休息・清潔）	単位・時間	1（30）	開講時期	1年次　5月
科目目標	1　活動・休息の意義を理解し、基本技術を習得できる。 2　清潔と衣生活の意義を理解し、基本技術を習得できる。				

単元	目　標	内　　容
活動・休息の援助	1　活動の意義と活動と運動に必要な基礎知識が理解できる。	1　活動　《10h　5回》 1）活動と運動の意義　【6h　3回】 2）基本的活動の基礎知識 （1）姿勢 （2）日常生活動作　（ADLとIADL） （3）ボディメカニクス 3）　体位 （1）体位の種類と日常生活への影響 （2）同一体位の有害性 4）　活動への援助 （1）活動と運動のアセスメント （2）同一体位による苦痛の緩和・安楽の確保 ①体位保持（ポジショニング） ・安楽枕の使用による体圧の分散 ②体位変換 （3）移乗・移送 ①車椅子 ②ストレッチャー
	1．休息の意義と休息の援助に必要な基礎知識が理解できる。	2　休息 1）休息と睡眠の意義 2）休息と睡眠のアセスメント 3）休息・睡眠を促す援助　（リラクゼーション含む） 4）睡眠障害への援助
	2　効率的で安楽な動きを作り出す技術を習得できる。	校内実習【4h　2回】 1　体位変換（患者側・看護師側のボディメカニクス）　（2h） 2　移乗・移送（車椅子・ストレッチャー）　（2h）
清潔・衣生活の援助	1　健康な生活と清潔・衣生活との関連が理解できる。	1　清潔　《18h　9回》 1）　清潔の意義と目的　【8h　4回】 2）　清潔援助に関わるアセスメント （1）皮膚・粘膜の状態 （2）ADL・安静度 （3）清潔習慣 （4）清潔援助の効果 3）　清潔援助の実際 （1）清潔援助に共通した留意点 ①プライバシー　②室温・湿度 （2）清潔援助の種類と方法・留意点 ①入浴・シャワー浴　②部分浴　③全身清拭　④洗髪　⑤整容 2　衣生活 1）　衣生活の意義と目的 2）　衣生活の条件 3）　衣生活の援助の実際 （1）健康障害時の衣生活へのニーズと援助の目的 （2）病衣 （3）衣生活を調整する能力のアセスメント （4）寝衣交換の実際
	2　清潔・衣生活を整えるための基本技術が習得できる。	校内実習【10h　5回】 1　足浴　（2h） 2　臥床患者の全身清拭・寝衣交換　（4h） 3　洗髪（ケリーパッド・洗髪車）　（4h）

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　医学書院 看護技術がみえる①　基礎看護技術　メディックメディア ベッドサイドを科学する-看護に生かす物理学-　学研 ベッドサイドを科学する-看護に生かす物理学-　学研	筆記

科目名	臨床看護技術	単位・時間	1（30）	開講時期	1年次　9月
科目目標	健康障害をもつ対象を理解し、症状緩和および状態に応じた看護技術が習得できる。				

単元	目　標	内　　容
主要症状・治療別看護	1　健康障害をもつ対象の代表的な症状を理解できる。	1　症状のある患者の看護　《18h　9回》【12h　6回】 1）症状とは 2）症状の特徴 3）症状マネジメント 2　呼吸困難 1）呼吸困難の原因 2）呼吸の観察とアセスメント 3）呼吸困難を緩和する援助 3　浮腫 1）浮腫の原因 2）浮腫状態の観察とアセスメント 3）浮腫を緩和する援助 4　倦怠感 1）倦怠感の原因 2）倦怠感の観察とアセスメント 3）倦怠感を緩和する援助 5　発熱 1）発熱の原因 2）発熱の観察とアセスメント 3）発熱に対する援助
	2　症状緩和に関する援助技術が習得できる。	1　患者の状態理解と症状に合わせた援助 ※上記2．3．4．5の症状を呈する事例展開 校内実習【6h　3回】 1　酸素吸入　ネブライザーの基本操作（2h） 2　症状の観察と具体的な援助の実際（温罨法・冷罨法）（4h）
救急法	1　救急医療における看護の役割が理解できる。	1　救急時の援助　《10h　5回》【2h　1回】 1）生命活動のアセスメント 2）急変時の対応 3）創傷処置・包帯法
	2．救急法の基礎技術が習得できる。	2　救急法の実際 校内実習【8h　4回】外部講師 救急法　　※上級救命講習受講

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　医学書院 看護過程に沿った対症看護　学研 看護技術がみえる①　基礎看護技術　メディックメディア 看護技術がみえる②　臨床看護技術　メディックメディア 上級救命講習テキスト ※参考文献：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学　各種　　医学書院	筆記

科目名 （授業科目）	診療に伴う技術	単位・時間	1（30）	開講時期	2年次4月
科目目標	診療に伴う補助技術の基礎知識を理解し、基本技術を習得できる。				

単元	目　標	内　　容
薬物療法と看護	1. 与薬における看護の役割が理解できる。	1　薬物療法の基礎知識　《22h　11回》 1）剤形と吸収経路　【12h　6回】 （1）与薬方法と剤形　（2）　作用・剤形と吸収経路 2）薬剤の種類と薬物の取り扱い方法 （1）薬剤の保管　（2）毒物・劇薬・麻薬の管理 3）与薬の指示と情報 （1）処方箋　（2）添付文書（入手方法と読み方） 2　与薬における看護師の役割 1）与薬における実施上の責任 2）関連職種との連携 3）誤薬の起こりやすい状況と対策 4）薬の作用と副作用の観察 5）感染予防 6）与薬を受ける対象の理解 （1）生活への影響　（2）薬物療法を受ける患者への支援
	2. 安全で確実な与薬の方方が理解できる。	1与薬の方法 1）注射の基礎知識 (1)注射筒と注射針　(2)注射の準備　(3)針刺し事故対策 2）注射の方法の種類と実施方法 （1）皮内注射　(2)皮下注射　(3)筋肉内注射　(4)静脈内注射 （5）点滴静脈内注射（三方活栓の取り扱い）　(6)中心静脈内注射 3）注射以外　（経口・直腸内・他）の与薬の方法と種類 4　輸血療法と看護 1）輸血の目的 2）血液製剤の種類と目的 3）血液製剤の管理方法 4）援助の実際 （1）実施上の留意点と安全対策　(2)副作用、合併症の観察
	3　安全で確実な与薬の基本技術が習得できる。	校内実習【10h　5回】 1　経口与薬・直腸内与薬　(2h) 2　皮下注射・筋肉内注射　(4h) 3　点滴静脈内注射　(2h) 4　注射の準備　技術チェック　(2h)
検査に伴う看護	1　検査を受ける対象とその看護を理解できる。	1　検査の意義と目的　《6h　3回》 2　検査の種類　1）検体検査　2）生体検査　【4h　2回】 3　検査時の看護 1）看護師の役割 2）検体検査時の看護（採取方法） （1）血液検査　(2)尿　(3)便　(4)喀痰 3）生体検査時の看護 (1)超音波　(2)X線　(3)CT (4)MRI　(5)核医学検査 (6)心電図　(7)内視鏡
	2　安全で確実な検体採取のための援助技術が習得できる。	校内実習【2h　1回】 1　静脈血採血法　（採血モデル使用）

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　医学書院 看護技術がみえる①　基礎看護技術　メディックメディア 看護技術がみえる②　臨床看護技術　メディックメディア 系統看護学講座　統合分野　医療安全　医学書院 医療安全ワークブック　医学書院 系統看護学講座 別巻　臨床検査　医学書院 ポケット版 治療薬Up-To-Date　メディカルレビュー社 エキスパートの臨床知による検査値ハンドブック　第2版　総合医学社	筆記

Ⅳ. 専　門　分　野Ⅱ

成　人　看　護　学

専門分野Ⅱ

成人看護学

【成人看護学の考え方】

成人期は、青年期・壮年期・中年期と長期におよぶ。成人期にある人は、自立・自律した存在であり、基本的には自分のことは自分ででき、意思決定できる存在である。そのため、疾病に罹患した場合でも、自身の治療法や療養法を自己決定し、また責任をもってセルフマネジメントできる存在であると捉える。

成人期の特徴的な疾患は、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患で、青年期の自殺や壮年期の男性の自殺も増加している。つまり、生活習慣やストレスなどが、成人の健康に大きな影響を及ぼしているといえる。そのため、成人期にある看護の対象を生活者の視点でとらえていく必要がある。

近年、入院患者の在院日数は短縮され、入院中の患者は、健康の危機状況である場合が多い。また成人期にある患者は、役割を遂行するために、入院せずに外来通院で治療しながら社会生活を送っている人も多い。看護師は、患者の危機的状況や苦痛の緩和への対応、成人の健康を脅かしている生活習慣病やがん、さまざまな機能障害などをかかえて生活する人への健康教育や患者教育（アンドラゴジー）などの知識や技術が必要である。また成人期の患者に対する看護では、多様な健康状態、生活スタイル、価値観などをふまえて介入を行う必要がある。

したがって、多様な健康状態・障害に対するアセスメント力（症状や疾患及び検査・治療に関する理解、健康障害が生活に及ぼす影響の理解、看護判断力等）、対象とのコミュニケーション能力を養い、看護実践への能力を養うことが重要である。

以上のことから、成人期の健康上の課題や特徴をふまえ、「セルフマネジメントに向けての看護」「健康危機状況における看護」「セルフケア再獲得に向けての看護」「緩和ケアを必要とする人の看護」として科目設定を行った。

【目的】

成人期にある人の健康の保持増進、健康障害時の諸問題を総合的に把握し、看護を実践するための基礎的能力を養う。

【目標】

1　成人期にある人を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる。
2　成人期にある人の健康障害とその予防について理解できる。
3　セルフマネジメントが必要な人の支援について理解できる。
4　健康危機状況にある人及び生命の危機状況にある人の看護について理解できる。
5　中途障害となった人のセルフケア再獲得のための看護について理解できる。
6　緩和ケアが必要な人の理解と苦痛の緩和、QOL を高めるための看護について理解できる。
7　成人期にある人の健康上の問題を明らかにし、問題解決のために必要な基礎的知識・技術・態度を習得できる。

【構成および計画】

＜講義＞

授業科目	単位数	時間数	学年別計画単位時間		
			1 年	2 年	3 年
成人看護学概論	1	30	1(30)		
セルフマネジメントに向けての看護	1	30	1(30)		
健康危機状況における看護	1	30		1(30)	
セルフケア再獲得に向けての看護	1	30		1(30)	
緩和ケアを必要とする人の看護	1	30		1(30)	
成人の看護過程	1	30		1(30)	
合計	6	180	2（60）	4（120）	

＜臨地実習＞

授業科目	実習内容	単位（時間）	時期
成人看護学実習Ⅰ	セルフマネジメント・ セルフケア再獲得に向けての看護	2（90）	2～3 年次
成人看護学実習Ⅱ	健康の危機状況にある人の看護	2（90）	2～3 年次
成人看護学実習Ⅲ	緩和ケアを必要とする人の看護	2（90）	2～3 年次
合　計		6 単位（270 時間）	

科目名 (授業科目)	成人看護学概論	単位・時間	1(30)	開講時期	1年次 9月
科目目標	1 成人期の特徴と成人特有の健康問題について理解できる。 2 成人期の看護を実践していくために有用とされる理論について理解できる。				

単　　元	目　　標	内　　容
成人の特徴と生活	1 成人期にある人の特徴を理解できる。	1 発達段階・発達課題 《28h 14回》 1)生涯発達的視点からみた成人期の位置づけと区分 【16h 8回】 青年期　壮年期　中年期 2 身体的・精神的・社会的変化の特徴 3 成人期の発達課題と関連する理論※ エリクソン　ハヴィガースト　レビンソン 4 成人の役割
	2 成人の生活について理解できる	1 生活様式 2 生活の場 3 成人各期における生活の特徴
成人における健康の保持・増進や疾病の予防	1 成人の健康状況が理解できる	1 生と死の動向 2 人生や健康に関わる意識(健康観) 3 成人各期の健康問題 4 健康生活をはぐくむ医療・保健・福祉システム 1)医療保険　2)介護保険
	2 成人期にみられる健康障害とその予防について理解できる	1 成人を取り巻く現代社会の特徴 1)就労・就労形態の変化　2)家族形態と機能 3)日常生活を取り巻く環境 2 生活習慣と健康障害の関連 1)生活習慣に関連する健康障害 生活習慣病の形成と予後 3 健康な生活の保持・増進、疾病の予防のための看護 1)健康増進・生活習慣病対策(保健・福祉対策) 健康日本21　健康増進法　健康フロンティア戦略 新健康フロンティア戦略　がん基本法　感染症法 2)ヘルスプロモーション 4 職業に関する健康障害 1)職業性疾病および職業上疾病 2)職業性疾病の予防と対策　産業保健 5 生活ストレスに関連する健康障害 1)生活ストレスと健康障害　2)成人の生活ストレス 3)ストレス関連疾患の予防と対策 ストレス　ストレスコーピング※
成人期の看護に有用な理論	1 成人の健康段階の特徴と看護	1 成人期にある人の健康レベルと経過別看護 【12h 6回】 1)急性期:健康危機状況における看護 健康危機状況とは　患者の特徴　看護の特徴 2)回復期:セルフケア再獲得に向けての看護 回復期とは　患者の特徴　看護の特徴 3)慢性期:セルフマネジメントに向けての看護 慢性期とは　患者の特徴　看護の特徴 4)終末期:緩和ケア(狭義)を必要とする人の看護 終末期とは　緩和ケアとは　患者の特徴　看護の特徴
	2 成人の特性や能力に応じたアプローチの基本が理解できる	1 成人の特性・能力 1)セルフケア※　2)自己効力※　3)危機理論※ 2 成人に対する教育的関わり 1)アンドラゴジー※　2)コンプライアンス※ 3)アドヒアランス※　4)エンパワーメント※ 5)指導のプロセスと考え方 3 慢性領域における実践と教育 1)病みの軌跡理論※

テキスト	評価方法
成人看護学総論　医学書院 臨床看護総論　医学書院 看護診断のためのよくわかる中範囲理論　学研　※印で使用する 国民衛生の動向　厚生統計協会	筆記

科目名 (授業科目)	セルフマネジメントに向けての看護	単位・時間	1(30)	開講時期	1年次11月
科目目標	1 慢性疾患におけるセルフマネジメントの考え方が理解できる。 2 セルフマネジメントに向けて具体的な看護の実際について理解できる。				

単　元	目　標	内　容
慢性疾患とセルフマネジメント	1 慢性疾患におけるセルフマネジメントの考え方が理解できる。	1 慢性疾患の特徴と看護 【4h 2回】 2 セルフマネジメント支援の考え方 3 セルフマネジメント支援の構成要素 知識・技術、自己効力、QOL 4 セルフマネジメントにおける看護職の主な責任 5 セルフマネジメントの援助で必要とされる看護職の能力
	2 セルフマネジメントのための対象理解ができる	＜肝硬変の事例に基づく援助の実際＞ 【6h 3回】 1 対象理解 健康信念モデル、本人と病気の位置関係モデル 2 未発症にある人への支援:非代償期 3 症状を呈している人への支援:代償期 4 病状の変化と精神的支援 ボディイメージの変化、予後に対する不安
	3 病状コントロールのためのセルフマネジメントの援助について理解できる	＜糖尿病の事例に基づく援助の実際＞ 《8h 4回》 1 症状緩和及びコントロールに必要な知識・技術習得のための患者教育 【6h 3回】 1)レディネスに応じた教育方法 (1)糖尿病に関する基礎知識 (2)セルフマネジメントの必要性 校内実習【2h】 自己血糖測定 2 病状コントロールのための支援 1)食事療法 2)運動療法 3)薬物療法 4)自己血糖測定 3 病状の変化の把握と日常生活のコントロール状態の評価 4 心理的反応とストレスマネジメント 5 知識の体得と自己管理にむけての動機づけ 6 家族支援 7 社会資源の活用
	4 病状の調節機能障害のセルフマネジメントの援助について理解できる	＜甲状腺機能障害に基づく援助の実際＞ 【4h 2回】 1 病状の調節機能がもたらす生命・生活への影響 1)治療の継続 2)合併症の知識とセルフモニタリングの技術 3)合併症による治療の変更とセルフモニタリング 4)心理的反応とストレスマネジメント
	5 社会生活継続のためのセルフマネジメントの援助について理解できる	＜腎不全の事例に基づく援助の実際＞ 【6h 3回】 1 社会生活継続のために必要な知識・技術習得のための患者教育 1)レディネスに応じた教育方法 (1)腎不全に関する基礎知識 2 病状コントロールのための支援 1)身体変化の徴候や症状に対する知識と対処 保存的治療法の継続 2)症状の変化に伴う治療の変更と治療の選択 血液透析、腹膜透析 3)合併症の知識とセルフモニタリング 4)日常生活におけるセルフケア 食事、活動、清潔 5)心理的反応とストレスマネジメント 6)QOL の追及 3 家族支援 4 社会資源の活用

テキスト				評価方法
系統看護学講座	成人看護学[5]	消化器	医学書院	筆記
系統看護学講座	成人看護学[6]	内分泌・代謝	医学書院	
系統看護学講座	成人看護学[8]	腎・泌尿器	医学書院	
食品交換表 第6版		日本糖尿病協会	文光堂	
糖尿病治療の手引き 改定54版		日本糖尿病協会	南江堂	
看護学テキストシリーズNICE	成人看護学	成人看護技術	南江堂	

科目名 (授業科目)	健康危機状況における看護	単位・時間	1(30)	開講時期	2年次 4月
科目目標	1 身体侵襲、検査、手術を受ける患者の看護・合併症予防について理解できる。 2 急性状態および、生命状態の危機の観察、患者の状態に応じた看護について理解できる。				

単　元	目　標	内　容
健康危機状況にある人の理解 手術療法を受ける人の看護	1 健康危機状況と看護の特徴について理解できる。 2 周手術期における看護が理解できる	1 健康危機状況と看護 《22h 11回》 1) 健康の危機状況とは 【20h 10回】 2) 看護の特徴 1 周手術期の看護 1)周手術期とは 2)周手術期の看護の目的 3)手術を受ける対象とその家族の特徴 4)手術侵襲による生体反応 (1)Mooreの4相 (2)神経・内分泌・代謝系の変化 5)周手術期におけるチーム医療と看護師の役割 6)インフォームドコンセントと看護師の役割 7)クリティカルパス 2 手術前の看護(開腹術の例) 1)術前の全身状態の評価 (1)術前検査 (2)リスクアセスメント 2)不安のアセスメントと支援 3)全身状態を整える 4)術前オリエンテーション 5)術前訓練 (1)トリフロー(2)深呼吸(3)咳嗽(4)離床 6)手術前日:除毛・臍処置・全身の清潔・消化管の準備 7)手術当日:手術室への引継ぎ 環境整備 3 手術中の看護 【1h 1回】外部講師 1)手術中の看護の目的と役割 2)麻酔による影響と援助 3)術中体位とその影響(神経障害・褥瘡・深部静脈血栓) 4)体温管理 5)安全管理 6)覚醒時の援助 4 手術後の看護 1)術後の観察 2)術後合併症予防と回復促進 (1)術後出血 (2)呼吸器合併症 (3)深部静脈血栓(ﾌｯﾄﾎﾟﾝﾌﾟ・弾性ｽﾄｯｷﾝｸﾞ) (4)感染・縫合不全 (5)消化器合併症 3)疼痛管理 4)創傷管理・ﾄﾞﾚｰﾝ管理 5)早期離床 6)術後の機能障害と生活指導(退院指導) 5 内視鏡による手術の特徴 1)腹腔鏡下手術 2) 胸腔鏡下手術 6 開腹手術を受ける人の看護 (※胃がんの事例) 1)術前の看護 2)術後合併症予防と看護 3)手術による身体機能の変化と社会復帰に向けた支援 7 開胸手術を受ける人の看護 (※肺がんの事例) 1)術前の看護 2)術後合併症予防と看護 3)胸腔ﾄﾞﾚｰﾝ管理
生命の危機状況にある人の看護	2 生命の危機状態で治療を必要としている人の看護の特徴を理解できる。	1 生命の危機状態にある人の看護 【6h 3回】外部講師 (呼吸不全・循環器疾患患者の看護) 1)救命・集中治療を必要とする人の看護 (1) 集中治療室へ入室する患者・家族の特徴 (2) 緊急性、重症度のアセスメント (3) 治療・検査・処置時の看護 ① 心肺停止状態の対応 ② 気道確保・血管確保 ③ 気管内挿管・人工呼吸器装着時の援助 (4) ショック状態にある患者の看護 ① ショックの種類、症状、主な機能不全 ② ショック出現時の看護 (5) 急性・重症患者の看護 ① 外傷、熱傷、凍傷、骨折、熱中症、感染症、食中毒、薬物中毒など

テキスト	評価方法
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 系統看護学講座 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[2] 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[5] 消化器 医学書院 看護学テキストシリーズNICE 成人看護学 成人看護技術 南江堂	筆記

科目名 (授業科目)	セルフケア再獲得に向けての看護	単位・時間	1(30)	開講時期	2年次 4月
科目目標	1 成人期の対象を生活者として捉え、セルフケアの必要性について理解できる。 2 中途障害を持ちながら生活していく成人のセルフケア再獲得に向けての看護について理解できる。				

単　元	目　標	内　容
セルフケア再獲得が必要な成人の特徴と看護	1. 成人におけるセルフケアの必要性と再獲得について理解できる	1 成人におけるセルフケアの必要性と再獲得 【2h 1回】 1) セルフケアの概念 2)成人にとってのセルフケア低下 3) 中途障害とは 2 セルフケア再獲得を支援する方法 1) セルフケア再獲得モデルにおける各レベルに応じた支援の方法 2)セルフケア再獲得と自立(依存と自立) 3)支援システム (人的・法的システム)
セルフケア再獲得を目指す看護の実際	2 セルフケアの再獲得に向けて具体的な看護の実際について理解できる	1 運動器に障害のある人のセルフケア再獲得の支援 【6h 3回】 1) 脊髄損傷患者の特徴と主な看護 (1) 急性期における看護 ①生命維持に関わるセルフケア ②合併症予防のための援助 ③精神的援助 (2) 回復期における看護 ①日常生活に関わるセルフケア ②セルフケア再獲得のための訓練 ③精神的援助 2) 関節リウマチ患者の特徴と主な看護 (1)家庭生活の役割遂行に関わるセルフケアの再獲得 ①日常生活に関わるセルフケア(補助具・自助具の活用) ②セルフケア再獲得のための訓練 ③精神的援助 2 脳血管障害のある人のセルフケア再獲得の支援(脳卒中) 【6h 3回】外部講師 1) 脳血管障害のある人の特徴と主な症状・検査時の看護 2) 急性期における看護 (1) 生命維持に関わるセルフケア ① 主な症状(意識障害・言語障害・運動障害など)、検査と看護 ② 手術療法に伴う看護 ③ 合併症予防のための援助 ④ 精神的援助 3) 回復期における看護 (1) 日常生活に関わるセルフケア (2) セルフケア再獲得のための訓練 (3) 精神的援助 4) 社会復帰期に向けての看護 (1) 家庭におけるセルフケア 3 循環器に障害のある人のセルフケア再獲得の支援 【6h 3回】外部講師 1) 循環に障害のある人の特徴(心筋梗塞・心不全) 2) 急性期における看護 (1) 生命維持に関わるセルフケア ①手術療法に伴う看護 ②心臓カテーテル検査・PCI時の看護 3) 回復期における看護 (1) 日常生活に関わるセルフケア (2) 回復に向けたリハビリテーション 4 ストマを造設する人のセルフケア再獲得の支援 【4h 2回】外部講師 1) ストマとは(尿路変更、人工肛門) 2) ストマを造設した人の特徴 3) 日常生活および職業生活に向けたストマのセルフケアの確立 5 乳房切除した人のセルフケア再獲得の支援(乳がん) 【4h 2回】外部講師 1) 乳房に障害のある人の特徴 2) 乳房切断術を受ける患者の看護 (1) 乳房喪失後の精神的援助 (2) 患側上肢のリハビリテーション (3) 日常生活に関わるセルフケア(セクシャリティを含む)

テキスト				評価方法
系統看護学講座	成人看護学総論		医学書院	
系統看護学講座	臨床看護総論		医学書院	筆記
系統看護学講座	成人看護学[3]	循環器	医学書院	
系統看護学講座	成人看護学[7]	脳・神経	医学書院	
系統看護学講座	成人看護学[9]	女性生殖器	医学書院	
系統看護学講座	成人看護学[10]	運動器	医学書院	
系統看護学講座	成人看護学[11]	アレルギー膠原病感染症	医学書院	

科目名 (授業科目)	緩和ケアを必要としている人の看護	単位・時間	1(30)	開講時期	2年次 9月
科目目標	1 生と死について考えることができ、その個人と家族とともに「人が生きる意味」を問う姿勢を養う。 2 苦痛の緩和、その個人がもつ力を支える援助、望みを実現するための看護について理解できる。				

単　　元	目　　標	内　　容　　《24h 12回》
人間の生と死	1 人間の生と死について理解できる。	1 人の生命、死と医療 【22h 11回】 1)人の死 2)成人期にある人の死 3)死の原因(がんという疾病の特徴) 2 死の準備教育 1)生と死を考える(死生観) 2)日本人の死生観 3)自己の生と死について考える
緩和ケア	1 緩和ケアについて理解できる	1 緩和ケアとは 【2h 1回】外部講師 1)緩和ケアの考え方(緩和ケア ターミナルケア エンドオブライフケア) 2)緩和ケアの歴史 3)緩和ケアの場 4)緩和ケアの対象 5)チーム支援 6)看護の役割 6)日本における緩和ケアの現状 7)緩和ケアの課題 2 終末期医療に関する概念 3 終末期医療の課題
	2 緩和ケアにおける倫理的課題について理解できる	1 死をめぐる倫理的課題 1)生命倫理 2)QOLと看護師の役割 3)患者の自己決定(ACP) 4)意思決定 5)安楽死と尊厳死 6)沈静(セデーション) 7)脳死
緩和ケアを必要としている人の看護の実際	1 緩和ケアを必要としている人の具体的な看護の実際が理解できる	1 緩和ケアを必要としている人の特徴(がんを中心に) 1)全人的苦痛(トータルペイン)を持つ存在 2 身体的苦痛 1)身体的苦痛の緩和 ①治療・処置に伴う合併症や二次障害の予防/化学療法・放射線療法 ②疼痛コントロールの実際 【2h 1回】外部講師 2)症状マネジメント 疼痛 全身倦怠感 消化器症状 呼吸器症状 3 精神的苦痛 1)精神的苦痛の緩和 4 社会的苦痛 1)社会的苦痛の緩和 2)社会参加への支援 5 霊的苦痛(スピリチュアルペイン) 1)霊的苦痛の緩和 6 日常性を支える 1)その人らしさとは 2)日常生活への援助(食事 排泄 睡眠 清潔 活動 コミュニケーション セクシャリティ) 7 希望を支える 1)患者の希望を知る 2)看護師の対応
	2 危篤・臨終・死亡時の看護について理解できる	1 危篤時の看護 1)危篤時の徴候 2)危篤時のケア 3)家族へのケア 2 臨終時の看護 1)死の判定 2)家族へのケア 3 死亡時の看護 1)遺体の基本的な変化 2)遺体の基本的なケア(冷却など) 3)医療処置とご遺体への対応 4)感染予防 5)エンゼルケア・メイク 6)家族へのケア
	3 家族への援助が理解できる	1 家族の特徴 2 家族のニード 1)家族が直面する危機 2)家族の希望 3 家族成員、家族集団に看護師ができること 4 グリーフワーク・グリーフケア 校内実習【2h】 がん性疼痛緩和技術 ・ﾘﾗｸｾﾞｰｼｮﾝ ・ﾏｯｻｰｼﾞ ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 他
	4 死後の看護が理解できる	1 死亡手続き 2 死亡退院時の看護 3 日本の臨終時、死亡時の慣わし 4 グリーフワーク・グリーフケアグリーフケア 1)遺族としての危機的状況 2)遺族ケア

テキスト		評価方法
系統看護学講座 成人看護学総論	医学書院	筆記
系統看護学講座 別巻 緩和ケア	医学書院	
系統看護学講座 臨床看護総論	医学書院	

科目名 (授業科目)	成人看護過程	単位・時間	1(30)	開講時期	2年次 9月
科目目標	1 成人期の特徴をふまえた事例の看護過程の展開ができる。				
単　　元	目　　標	内　　容			
セルフ マネジメント	1 セルフマネジメントが必要な人の看護過程の展開ができる。	1 セルフマネジメントが必要な人の看護過程の実際 【演習14h 7回】 1) 対象および家族の特徴 2) 病態、治療、検査 3) セルフマネジメントに関するアセスメント (1)セルフマネジメントを支援するために必要なデータ・情報収集 ①セルフマネジメントを困難にしている要因 (2)収集したデータ・情報の情報化 ②セルフマネジメントに必要な能力の査定 4) セルフマネジメントに関連した看護診断の確定 5) 看護計画の立案 (1)看護成果・患者指標の設定 (2)セルフマネジメントを確立するための看護介入 ①患者・家族への指導計画 ②指導案作成 ③指導教材の作成 6) 実施(ロールプレイの実施) (1)成人教育学(アンドラゴジー)をふまえた患者教育 (2)患者教育の実際 ＊アンドラゴジー、エンパワメントモデルを活用した コミュニケーション技術			
周手術期	2 周手術期にある人の看護過程の展開ができる。	1 周手術期にある人の看護過程の実際 《14h 7回》 【演習10h 5回】 1) 手術後の合併症のリスクのアセスメント (1)術前のアセスメント (2)術後のアセスメント 2) 看護問題の優先順位の決定 3) 看護計画の立案 4) 看護介入の実際(校内実習で実施) (1)術直後の観察 (2)創傷処置 (3)早期離床 5) 評価 校内実習【4h】 1 術直後(帰室時)の観察 2 創傷処置 3 離床(術後の初回歩行)			
テキスト NANDA－I看護診断 定義と分類2018-2020				評価方法 筆記 レポート	

老　年　看　護　学

老年看護学

【老年看護学の考え方】

成長発達の最終段階である老年期は、人としての英知を統合し、いずれは穏やかに幸せな死を迎える段階である。長い人生経験で培った知恵と価値観を尊敬し、それを踏まえた個人の生き方を尊重し、個別な存在として理解する必要がある。

加齢現象は、身体生理機能の低下を引き起こし、高齢者の生活や社会･心理的側面に大きな影響を及ぼす。また、高齢者の健康障害は、複数の疾患を抱えていることに伴いより個別的で複雑である。その上、恒常性維持機能の低下によって、合併症・急性増悪・慢性化・廃用症候群等の様々な問題が発現しやすく健康問題が複雑化・長期化しやすい。したがって、看護においては高齢者に起こりやすい変化を予測し、きめ細かな観察力とアセスメント力、活動耐性の評価方法、機能低下防止、個別の生活援助に関する知識・技術が必要とされる。

老年看護学は、変化する社会の中で問題となっている高齢者への虐待などから、高齢者の人権を守り高齢者と家族の置かれている状況を的確に判断し、健康の維持向上について、また加齢や疾患によって機能低下した高齢者の生活行動を支える援助を学ぶ。さらに、近年の高齢者を取り巻く状況としては、生活習慣病や認知症の増加といった健康障害の特徴を理解し、高齢者に多い疾患・症状・状態に応じた看護などの健康を障害された高齢者の生活機能をアセスメントし、看護を展開する方法や技術を学ぶ。

【目的】

老年期にある対象と家族の特徴を理解し、加齢と健康障害の程度に応じた看護に必要な知識・技術・態度を習得する。

【目標】

1　加齢による身体的・精神的・社会的変化の特徴が理解できる。
2　高齢者の健康と生活の多様性が理解できる。
3　老年看護概念および機能と役割が理解できる。
4　高齢社会の医療・保健・福祉対策の動向と現状が理解できる。
5　高齢者に起こりやすい日常生活上の障害が理解できる。
6　残存機能を活用し、自立に向けた日常生活援助の方向性が理解できる。
7　高齢者の健康障害の特徴と高齢者の健康を支える看護が理解できる。
8　高齢者の特徴を踏まえ生活機能の観点から看護過程の展開方法が理解できる。

【構成および計画】

授業科目	単位数	時間数	学年別計画時間			備考
			1 年	2 年	3 年	
老年看護学概論	1	30	1(30)			
高齢者の日常生活援助技術	1	30	1(30)			
高齢者の健康障害時の看護	1	30		1(30)		
高齢者の看護過程	1	15		1(15)		
合計	4	105	2(60)	2(45)		

授業科目	実習内容	単位（時間）	時期
老年看護学実習Ⅰ	入院中の高齢者の日常生活援助	2（90）	2 年
老年看護学実習Ⅱ	健康障害のある高齢者の看護	2（90）	2～3 年
合　計		4 単位（180 時間）	

科目名	老年看護学概論	単位・時間	1(30)	開講時期	1年次　7月
科目目標	1　老年期の特徴を踏まえ高齢者看護の概念が理解できる 2　高齢者の保健・医療・福祉制度の現状および生活と健康について理解できる				

単元	目　標	内　　容
老年期にある人の理解	1　ライフサイクルにおける老年期の特徴が理解できる	1　ライフサイクルからみた老年期　《8h》 1)老年期とは　2)老年期における発達課題　【2h(1回)】 3)老化の捉え方
	2　加齢変化の特徴が理解できる	1　身体的側面の加齢変化　【6h(3回)】 1)外皮・運動・感覚機能 2)生理機能(循環・呼吸・消化・腎・泌尿器・生殖器) 2　精神的側面の加齢変化 1)知能の変化　2)パーソナリティ 3)　スピリチュアリティ(喪失と死生観) 3　社会的側面の加齢変化 1)役割の変化　2)生活の変化
超高齢社会の現況	1　高齢者を取り巻く社会が理解できる	1　高齢者を取り巻く社会　《18h》 1)平均寿命・健康寿命　2)死因別死亡率　【4h(2回)】 4)高齢者の健康状態(健康指標から) 5)疾病構造と有病率・有訴率　6)高齢者医療の動向 2　高齢者の暮らし 1)家族形態(高齢者と家族) 2)高齢者と社会参加 3　社会に生きる高齢者の生活体験 1)高齢者疑似体験　2)テーマ別学習 演習　【4h(2回)】 高齢者疑似体験 テーマ別発表
	3　高齢者の保健・医療・福祉施策と看護の役割が理解できる	1　高齢社会における保健医療福祉の動向　【4h(2回)】 1)保健医療福祉システムの変遷 2)介護保険制度の整備 3)介護保険制度のしくみ 4)高齢者医療のしくみ
	2　地域と連携した高齢者看護のシステムが理解できる	1　地域包括ケアシステム　【2h(1回)】 1)地域包括支援センターの役割 2)地域と連携した高齢者看護の実際　専門看護師【2h(1回)】 2　高齢者のソーシャルサポートシステム 1)ソーシャルサポートシステム 2)フォーマル・インフォーマルサポート 3)看護の活動の場の特徴
	4　老年看護における倫理問題が理解できる	1　高齢者の対する差別と権利の侵害　【2h(1回)】 1)　高齢者のイメージ(スティグマ) 2)　高齢者差別(エイジズム) 3)　権利擁護(アドボカシー) 4)　高齢者虐待 5)　身体拘束 2　権利擁護のための制度 1)成年後見制度 2)日常生活自立支援事業
老年看護の基盤	1　老年看護の基本的な考え方がわかる	1　老年看護の特徴　《2h》 2　老年看護の理論　【2h(1回)】 3　高齢者と災害

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論　医学書院 国民衛生の動向	筆記

科目名	高齢者の日常生活援助技術	単位・時間	1(30)	開講時期	1年次10月
科目目標	加齢変化をふまえた生活機能のアセスメントの視点が理解できる 高齢者の特徴をふまえ、自立した生活を支援するための日常生活援助技術が習得できる				

単元	目　標	内　　容
高齢者の生活機能の包括的アセスメント	1　高齢者の生活機能と包括的アセスメントの視点が理解できる	1 高齢者の生活機能評価 《2h》 1)総合機能評価(CGA) 【2h(1回)】 2)ADL評価 (1)Barthe Index　(2)Katz Index 3)認知機能評価 (1)改訂長谷川式知能評(2)MMSE 4)心理・情動機能評価 (1)GDS 2 社会参加 1)社会参加のアセスメント(生きがい、地域への社会参加)
高齢者の生活を支える援助技術	2　高齢者の日常生活機能のアセスメントを理解し、生活援助技術が習得できる	1 コミュニケーション 《26h》 1) 加齢とコミュニケーション能力 【2h(1回)】 (1) 視力の低下 (2) 聴力の低下 (3) 記銘・理解力の低下 2) 高齢者とのコミュニケーションの方法 (1) コミュニケーションの留意点 2 食生活を支える援助技術 【4h(2回)】 1) 食生活のアセスメント 2) 食生活と栄養の援助 3 皮膚・粘膜の機能を高める援助技術 【6h(3回)】 1) 清潔のアセスメント(疥癬を含む) 2) 皮膚・粘膜の清潔援助 3) 口腔内の観察・ケア、義歯の管理 4 排泄行動を支える援助技術 1) 排泄のアセスメント 2) 便秘・下痢の援助 3) 尿失禁の援助(骨盤底筋運動を含む) 5 活動の拡大に向けての援助技術 【4h(2回)】 1) 活動の拡大に向けてのアセスメント (1) 知覚・認知能力のアセスメント (2) 移動動作能力のアセスメント (3) 環境のアセスメント 2) 活動の拡大に向けての援助 (1) 臥位から座位への支援 (2) 移動・歩行 (T字杖歩行を含む) (3) 自助具の活用 (4) 活動意欲への働きかけ (5) 安全に留意した環境調整 6 休息・睡眠リズムを整える援助技術 【2h(1回)】 1) 高齢者の不眠の原因 2) 高齢者の不眠の援助方法 7 高齢者の性(セクシュアリティ) 1)セクシュアリティのアセスメント 2)健康なセクシュアリティへの援助 校内実習 1 ポータブルトイレでの排泄介助 【4h(2回)】 (パンツ型オムツの着脱) 2 紙おむつを使用した陰殿部の洗浄 おむつ交換 3 口腔ケアと義歯の管理 【2h(1回)】 4 残存機能を活かした移動援助 【2h(1回)】

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院	筆記

科目名	高齢者の健康障害時の看護	単位・時間	1(30)	開講時期	2年次4月
科目目標	1 高齢者に多い疾患の理解と健康障害に応じた看護について理解できる				

単元	目　標	内　　容
高齢者の健康障害時の看護	1 高齢者に多い症状・状態に応じた援助方法が理解できる	1 高齢者に多い症状と看護 《16h》 1) 高齢者に起こりやすい疾病の特徴 【6h(3回)】 2) 高齢者に特有な症状・障害と看護 (1) 嚥下障害 (2) 脱水 (3)低栄養状態 (4) 痛み(膝・腰・肩) (5) 視聴覚障害 (6)感染症 2 高齢者の安全と看護 【2h(1回)】 1) 転倒・転落 (骨折を含む) 2) 熱傷(低温熱傷を含む) 3) 誤嚥と窒息 3 廃用症候群の発生と予防 4 褥瘡予防の看護 褥創部の処置 認定看護師【2h(1回)】 1) 褥瘡治療・スキンケア 2) 体圧分散の方法・ 褥創部の処置 5 高齢者に多い疾患と看護 1)認知症 認定看護師【4h(2回)】 2)うつ・せん妄 3)骨粗鬆症 【2h(1回)】 4)パーキンソン病
主な治療・検査を受ける高齢者の看護	2 治療・処置を受ける高齢者の看護が理解できる	1 検査時の看護 1)円滑な検査実施への援助 2 薬物療法を受ける高齢者の看護 《10h》 1) 高齢者と薬物動態の変化 【2h(1回)】 2) 服薬指導とリスクマネージメント 3) 高齢者の薬物療法の看護 3 手術を受ける高齢者の看護 【2h(1回)】 1) 生理機能の変化と麻酔・手術侵襲が高齢者に与える影響 2) 術前のアセスメントと看護 3) 高齢者に起こりやすい術後合併症と看護 4) 白内障・前立腺肥大症(尿閉含)の手術を受ける高齢者の看護 4 リハビリテーションを受ける高齢者の看護 【2h(1回)】 1)生活機能向上につなぐ看護 2)フレイル 校内実習【4h(1回)】 ＊認定看護師協力のもと実施 褥瘡ケア・処置 褥瘡の評価と姿勢の管理
生ききることを支える高齢者看護	3 終末期にある高齢者の看護が理解できる	1 高齢者におけるエンドオブライフケア 《2h》 1)エンドオブライフケアの概念 【2h(1回)】 2)生きることを支えるケア 3)意思決定への支援 4)末期段階に求められるケア (1)苦痛を緩和するケア(2)家族への支援

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾病論　医学書院	筆記

科目名	高齢者の看護過程	単位・時間	1(15)	開講時期	2年次4月
科目目標	高齢者の特徴を踏まえ生活機能の観点から看護過程が展開できる。				

単元	目　標	内　　容
高齢者の看護過程	1　高齢者の看護過程の特徴が理解できる	《14h》 1　セルフケア理論を活用した看護過程の有効性　【2h(1回)】 1)老年期とライフサイクル論とセルフケア理論 (1)発達課題論　(2)役割理論　(3)家族理論 2　看護過程の事例展開(老年期の特徴的な疾患)
	2　高齢者の加齢変化の特徴を踏まえ、情報の整理、分析・解釈ができる	1 高齢者の情報収集とアセスメント 1)情報整理と分析・解釈によるアセスメント (1)過去から現在に至るまでの生活状況、生活習慣 (2)加齢変化や健康障害による日常生活への影響 (3)身体機能・予備力(運動・生理機能)の評価 (4)家族背景・家族との関係・家庭内・社会での役割 (5)価値観・信念・健康の認識 (6)疾患と治療の受けとめ・健康管理能力 (7)入院・治療に伴う心理面への影響 (8)知覚・認知・コミュニケーション能力
	3　高齢者の特徴を考慮し、成果指標の設定や介入計画の立案ができる	1　看護診断と看護介入 1)加齢や生活習慣、QOLを考慮した成果指標の設定・計画立案 (1)日常生活の自立促進 (2)活動耐性の考慮 (3)合併症・二次障害予防 (4)主体性・自己決定の尊重 (5)介護家族の支援
	4　援助評価の視点・方法が理解できる	1　介入計画の評価・修正 1)評価の視点 (1)評価時のSOAP記録の活用 演習【12h(6回)】 大腿骨頸部骨折の事例を用いた看護過程展開

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論　医学書院	筆記・レポート

小　児　看　護　学

小児看護学

【小児看護学の考え方】

小児看護学は、変化する社会の中で、子どもの人権を守り、子どもと家族の置かれている状況を的確に判断し、成長・発達やさまざまな健康状態に応じた看護を全人的に考えることを学習する。小児期は、ヒトから社会的存在としての人間へと絶え間ない成長発達を遂げる時期である。小児看護学は、このようなライフステージにある小児の健康の保持増進、健康の回復を促すとともに、すべての小児が健全な成長発達を遂げられるよう小児と家族(養育者)を支援することを目的としている。

小児を取り巻く状況として、児童虐待の増加や校内暴力、いじめなどの問題が継続している。また、基本的な生活習慣行動や食習慣が身についておらず、生活リズムが整わない子どももいる。このような背景として、核家族化や養育環境の変化、都市化の進展などにより地域や家庭の教育力が低下していることもあげられている。そのため小児看護学では、心身ともに健康に成長・発達を促進するよう基本的生活習慣の獲得方法や、安全に社会生活が送れるための支援方法を学習していく必要がある。

小児の健康障害は、一時的な苦痛経験だけでなく生涯にわたる障害を残すこともある。更に、その障害が小児の成長発達のどの時期に生じたのかによって、その後の経過や将来的の状態に影響を及ぼす。したがって、それらの障害を最小限にとどめるための適切な援助が求められる。そのためには、専門的な知識と技術、判断力・実践力が必要である。講義・演習では、小児の成長発達と小児看護の概念で学んだ内容を活用し、健康を障害された小児とその家族の特徴、小児期に多い症状・治療に応じた看護、健康状態・発達段階に応じた看護を学習する。臨地実習ではこれらを基に、健康回復・保持増進に向けての援助方法、及び健康を障害された小児と家族がどのように生活しているかを知り、専門職としてどのような援助が必要なのかを考え、実践する。

すべての状況において、本人、きょうだいと家族の、生活上の信条や価値を大切にし、尊重した態度で接する必要性と尊厳を守ることを理解する。

【目的】

小児の特徴を理解し、成長発達に応じた養護と様々な健康状態にある小児とその家族に対する看護ができる基礎的能力を養う。

【目標】

1. 小児各期の成長・発達の特徴と、小児を取り巻く環境の意義を理解し、小児看護の理念・目的を理解できる。
2. 健康な小児の日常生活を理解し、健康増進のための看護ができる基礎的知識・技術を習得できる。
3. 小児各期に健康障害をもつ小児と家族を理解できる。
4. 健康障害をもつ小児と家族に適切な看護ができる基礎的知識と技術を習得できる。
5. 小児と家族を取り巻く保健・医療・福祉・教育との連携の必要性と看護の役割が理解できる。
6. 小児と家族の尊厳と権利を尊重した対応が理解できる。

【構成および計画】

〈講義〉

授業科目	単位数	時間数	学年別計画時期			備考
			1年	2年	3年	
小児看護学概論	1	30	1(30)			
小児の発達段階に応じた看護	1	15		1(15)		
小児の健康状態に応じた看護	1	30		1(30)		
治療を受ける小児の看護	1	30		1(30)		
合計	4	105	1(30)	3(75)		

〈臨地実習〉

授業科目	実習内容	単位(時間)	時期
小児看護学実習	地域で生活する小児の看護	2(90)	2～3年次
	健康を障害された小児の看護		

科目名	小児看護学概論	単位・時間	1(30)	開講時期	1年次 9月
科目目標	1　小児の特徴と小児看護の概念が理解できる。 2　小児保健統計を踏まえ、小児を保護する法律や保健対策が理解できる。				

単元	目　標	内　　容
小児看護の概念	1 小児看護の特徴と理念が理解できる。	1　小児看護の変遷　【6h(3回)】 1）児童観・育児観の変遷 2）小児医療及び看護の変遷 2　小児看護の倫理 1）子どもの人権と権利擁護(アドボカシー) 2）児童の権利に関する条約 (1) 児童憲章　(2) 児童の権利に関する条約 3）インフォームドアセント 3　小児看護の概念 1）小児看護の対象 2）小児看護の特徴 3）小児看護の目標 4）成育医療の概念
小児の成長発達の特徴	2 小児の特徴と成長発達を理解できる。	1　小児期の年齢区分　【10h(5回)】 2　小児の特性 1）小児の特徴 2）小児各期の発達課題 3　成長発達 1）成長発達の原則 2）成長発達の影響因子 (1) 遺伝的因子　(2) 環境的因子 3）形態的成長と機能的発達 4）心理・社会的発達 5）成長発達の評価 4　小児の栄養の特徴
小児の環境	3 小児と家族を取り巻く社会環境を理解できる。	1　育児不安　【12h(6回)】 2　家族と生活習慣 3　子どもの虐待 (1) 児童虐待防止法 ①児童虐待の防止に関する法律 ②児童虐待の分類 ③予防と早期発見
小児の保健対策	4 小児の健康指標と保健対策を理解できる。	1　統計からみた小児の健康 1）出生率　2）死亡原因　3）疾病 2　保健対策と小児を保護する法律 1）児童福祉法 2)母子保健法 3)予防接種法 (1) 種類　(2) 時期と方法　(3) 副反応 4)学校保健法 (1) 感染症予防　(2) 出席停止基準

テキスト	評価方法
系統看護学講座 専門分野Ⅱ　小児看護学概論　小児臨床看護総論 小児看護学①　医学書院	筆記他

科目名	小児の発達段階に応じた看護	単位・時間	1(15)	開講時期	2年次 4月
科目目標	1　小児各期の日常生活とその援助方法が理解できる。				

単元	目　標	内　　容
小児各期の日常生活の援助	1　小児各期の日常生活と援助方法が理解できる。	《22h(11回)》 【12h(6回)】 1　乳児(新生児含む)期の成長発達に応じた生活への援助 1)母子関係の確立と愛着形成 2)栄養(乳汁・離乳食) 3)感染予防と予防接種 4)運動と遊び 5)事故予防 6)地域保健サービス 7)基本的信頼感・自律の確立 2　幼児期の成長発達に応じた生活への支援 1)基本的生活習慣とは 2)栄養(間食) 3)運動と遊び 4)感染予防と予防接種 5)事故予防と安全教育 6)基本的生活習慣の獲得 3　学童期の成長発達に応じた生活への援助 1)学校への適応 2)食生活 3)学習と遊び 4)事故防止と安全教育(学校保健含む) 5)セルフケアと保健教育 6)勤勉性の獲得 4　思春期の成長発達に応じた生活への援助 1)第二次性徴 2)親からの自立と対応の仕方 3)生活習慣病の予防 4)異性への関心・性の逸脱 5)社会環境と心理的変化 6)アイデンティティの確立
日常生活援助技術	3　小児の日常生活の援助技術を習得できる。	1　乳幼児の日常生活援助の実際 校内実習【2h(1回)】 1　乳児・幼児の抱き方 2　衣服の着脱とおむつ交換 3　高柵ベットの取扱い

テキスト	評価方法
系統看護学講座 専門分野Ⅱ　小児看護学概論　小児臨床看護総論 小児看護学①　医学書院 写真でわかる小児看護技術　インターメディカ	筆記

科目名	小児の健康状態に応じた看護	単位・時間	1(30)	開講時期	2年次4月
科目目標	1　病気や入院が小児と家族に与える影響と援助が理解できる。 2　さまざまな健康段階にある小児と家族の看護が理解できる。				

単元	目　標	内　　容
小児の臨床医学	1　小児期の代表的な疾病の病態生理、治療について理解できる。	1　小児疾患の特徴(病態・治療・処置)　外部講師【6h(3回)】 1)呼吸器疾患:　気管支喘息　肺炎 2)腎疾患:　ネフローゼ、急性糸球体腎炎 3)心疾患:　心室中隔欠損、ファロー四徴症 4)血液疾患:　急性リンパ性白血病 5)脳神経系疾患:　てんかん 6)消化器疾患:　腸重積、鎖肛　乳児下痢症 7)骨、関節疾患:　二分脊椎症、 上腕骨顆上骨折　先天性股関節脱臼 8)その他:　川崎病 《22h(11回)》
小児の健康状態に応じた看護	2　健康障害が小児と家族に及ぼす影響と反応を、発達段階に応じて理解できる。	1　病気や障害が小児と家族に与える影響と反応　【4h(2回)】 2　入院・外来における小児と家族の看護 1)　環境への配慮　2)　安全配慮 3)　他職者との連携 3　病気の理解度と対処能力 1)　症状の改善と苦痛の緩和　①ディストラクション 2)　意思決定の支援　①プレパレーション
	3　さまざまな健康段階にある小児と、その家族への援助方法を理解できる。	1　急性期にある小児の看護　【12h(6回)】 1)痛みのある小児の看護　2)発熱時の看護 3)下痢・嘔吐時の看護　4)脱水時の看護 5)呼吸困難時の看護　6)痙攣時の看護 7)浮腫時の看護 2　周手術期にある小児の看護 1)入院から退院指導 2)日帰り手術 3　慢性期にある小児の看護 1)小児慢性特定疾患治療研究事業 2)長期的治療を要する小児と家族 3)在宅療養中の小児と家族の看護 4　終末期にある小児の看護　外部講師【2h(1回)】 1)死の概念　2)　病気の説明 3)苦痛と緩和ケア　4)　死を看取る家族へのケア
	4　低出生体重児や先天的な問題のある小児と家族への看護の方法が理解できる。	1　低出生体重児と家族の看護　外部講師【2h(1回)】 1)　低出生体重児の特徴 2)　NICU感染予防対策 3)　保育器の管理 4)　発達への援助 5)　母子・家族関係の形成 2　先天的な問題のある小児と家族　外部講師【2h(1回)】 1)　先天異常の種類と特徴 2)　先天的な問題のある小児を持つ家族の理解と受容への看護 3　心身障害のある小児と家族の看護 1)脳性麻痺

テキスト	評価方法
系統看護学講座 専門分野Ⅱ　小児看護学概論　小児臨床看護総論 小児看護学①　医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ　小児看護学各論　小児看護学②　医学書院	筆記

科目名	治療を受ける小児の看護	単位・時間	1(30)	開講時期	2年次　7月
科目目標	1　さまざまな状況にある小児と家族への看護が理解できる。				

単元	目　標	内　容
検査・処置を受ける小児の看護	1　発達段階に応じたコミュニケーション技術、観察技術が習得できる。	《20h(9回)》 1 発達に応じたコミュニケーション技術　【2h(1回)】 1)　言語的、非言語的方法 2 治療や処置を受ける小児への説明と同意 1)プレパレーション技術 2)インフォームド・アセント 3フィジカルアセスメント 1)各期における身体の特徴 2)アセスメントの視点
	2　治療・処置を受ける小児の看護技術が習得できる。	1　検査処置の前・中・後の観察と安全安楽への援助　【4h(2回)】 1)　採血　2)　採尿　3)　骨髄穿刺 4)　腰椎穿刺　5)　与薬　6)　輸液療法 7)　吸入・吸引　8)　酸素療法　9)　経管栄養 校内実習　【4h(1回)】 1　バイタルサイン測定 2　身体計測(身長、体重、頭囲、胸囲) 3　経口与薬 4　抑制・おくるみ
	3　さまざまな状況にある小児と、その家族への援助方法を理解できる。	1　隔離が必要な小児と家族の看護　【8h(4回)】 2　活動制限が必要な小児と家族の看護 3　救急処置を要する小児と家族の看護 1)熱傷の特徴・重症度及び処置 2)心肺蘇生法　【2h(1回)】 3)　乳幼児の意識レベル 4　災害を受けた小児と家族の看護 1)　災害における小児への影響とストレス 2)　災害を受けた小児と家族への支援
健康を障害された小児の看護過程の展開	1　健康を障害された小児と家族の看護過程を展開できる。	1 小児の看護過程　《8h(4回)》 1)対象把握の特徴 (1)情報整理・アセスメントの視点 ①成長発達 ②健康状態 ③家族 2)問題の明確化 3)目標の設定 4)計画立案 演習【8h(4回)】 看護過程展開

テキスト	評価方法
系統看護学講座 専門分野Ⅱ　小児看護学概論　小児臨床看護総論 小児看護学①　医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ　小児看護学各論　小児看護学②　医学書院 写真でわかる小児看護技術　インターメディカ	筆記

母　性　看　護　学

母性看護学

【母性看護学の考え方】

人間は、各発達段階で、性機能と役割を獲得しながら成長発達していく存在である。特に女性は、自らの体内で生命を育み、出産する。さらに生まれた子どもに対して授乳・保育するという特有の性機能と役割を持っている。

母性看護学は、人間のライフサイクル各期におけるセクシュアリティの発達をとらえ、男女ともその機能が健全に発揮できるように支援する看護学である。人間の一生を通して性の側面から対象と家族に働きかけることとともに、世代を超えて生命を繋ぎ、次世代の生命の誕生に焦点を当て支援する看護学である。

母性看護学では、その対象を、思春期から更年期を中心とし、人間の一生を通して性の側面から対象と家族をとらえる。特に成熟期では、新しい家族の誕生期を迎える人たちを中心に、健康な生命を次世代へ繋いでいく人々への支援を学ぶ。したがって、妊娠・分娩・産褥期にある人とその家族、胎児、新生児を中心に、将来子どもを産み育てていく女性やそのパートナーとなる男性、そして、その役目を過去に果たした男女、さらに、生殖に関連する問題を抱える人たちも対象ととらえる。また、母性看護の対象の多くは、生理的過程にある人々である。健康であるがセクシュアリティの発達の側面から支援を必要とする人の理解を深めるために、ウエルネス志向に基づいた看護を学ぶ機会となる。

さらに、母性看護学の学習内容を進めていく過程で、生命の神秘性や尊厳に触れることも多く、必然的に生命倫理、看護倫理との関連を深く学ぶ。

以上の考えから、母性看護の概念、人間の性と生殖、男女のライフサイクル各期におけるセクシュアリティの側面からの看護、生殖機能が最も発揮される妊娠・分娩・産褥、新生児期における看護について学習する。

【目的】

種族保存の側面を踏まえて人間の一生を通して性の側面から対象と家族をとらえるとともに、妊娠・分娩・産褥・新生児期にある人の看護に必要な知識、技術、態度を学ぶ。

【目標】

1　母性看護の概念とその基盤となる社会の動向を理解できる。
2　母性看護の対象となる人のライフサイクル各期のセクシュアリティの特徴と看護を理解できる。
3　妊娠・分娩・産褥・新生児期にある人の特徴と看護を理解できる。
4　妊娠・分娩・産褥・新生児期にある人を中心に母性看護の対象者への看護実践の基盤を身につける。

〈講義〉

授業科目	単位数	時間数	学年別計画時期			備考
			1年	2年	3年	
母性看護学概論	1	30	1(30)			
妊婦・産婦の看護	1	30		1(30)		
褥婦・新生児の看護	1	30		1(30)		
周産期にある人のハイリスク時の看護 (ハイリスク妊婦・産婦・褥婦 、新生児の看護)	1	15		1(15)		
合計	4	105	1(30)	3(75)		

〈臨地実習〉

授業科目	実習内容	単位(時間)	時期
母性看護学実習	妊婦・産婦・褥婦、早期新生児の看護 地域の母性看護	2(90)	2，3年次

科目名 (授業科目)	母性看護学概論	単位・時間	1(30)	開講時期	1年次9月
科目目標	1　母性看護の基盤となる概念と母子保健の動向について理解できる。 2　ライフサイクル各期のセクシュアリティの特徴と看護について理解できる。				

単　　元	目　　標	内　　容
母性看護の概念	1　母性看護の主な概念が理解できる。	1　母性・父性の概念と発達　《14h》 2　母性看護の対象　【14h(7回)】 3　家族の発達・機能 1)家族機能(ペアレンティング) 2)家族の発達課題 4　ジェンダー・セクシュアリティ 5　リプロダクティブヘルス／ライツ 6　周産期医療・生殖補助医療におけるチーム医療 7　母性看護におけるウエルネスの考え方
	2　母性看護における倫理が理解できる。	1　母性の権利と擁護 2　自己決定の尊重 3　プライバシーの保護 4　母性看護における倫理 (出生前診断、胎児医療、高度生殖補助医療、人工妊娠中絶、ハイリスク児の医療)
	3　母性看護における安全・災害時の看護が理解できる。	1. 母性看護における安全・事故予防 2. 災害時の母子の支援
	4　母性に関する動向と法律・施策が理解できる。	1　母性看護に関する統計 1)出生及び合計特殊出生率　2)妊産婦死亡　3)周産期死亡 4)死産　5)新生児・乳児死亡　6)結婚と離婚　7)ひとり親家族 2　子育て支援 3　母性を保護する法律 (母子保健法・母体保護法・児童福祉法・青少年育成条例等) 4　国際化社会と母性看護 1)ウィメンズヘルス 2)メンズヘルス
ライフサイクル各期のセクシュアリティの特徴と看護	1　思春期にある人の特徴と看護が理解できる。	1　身体的特徴(第二次性徴・初経・精通)　《14h》 2　心理・社会的特徴　【14h(7回)】 自我同一性・社会的性同一性の確立 3　健康教育・性教育 4　思春期の健康問題と看護
	2　成熟期にある人の特徴と看護が理解できる。	1　女性と結婚 2　性機能 3　性反応 4　家族計画と出産 5　不妊症・不育症治療と看護 6　性機能障害の治療と看護
	3　更年期にある人の特徴と看護が理解できる。	1　ホルモンの変化と更年期 2　更年期症状と看護 1)女性更年期症状・障害 2)LOH症候群(加齢男性性腺機能低下症候群) 3　更年期以降におこしやすい疾患
	4　ライフサイクル各期に及ぶ問題と看護が理解できる。	1　人工妊娠中絶 2　性感染症と看護 3　性暴力と看護 1)性暴力の実態と影響 2)性暴力防止の支援 4　女性の健康と喫煙 5　性分化異常 6　性同一性障害

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学[1]　母性看護学概論　医学書院 母子健康手帳	筆記

科目名 (授業科目)	妊婦・産婦の看護	単位・時間	1(30)	開講時期	2年次4月
科目目標	1　妊娠の経過と看護について理解できる。 2　分娩の経過と看護について理解できる。				

単　　元	目　　標	内　　容
妊婦の看護	1　妊娠の経過と胎児の発育が理解できる。	1　妊娠の生理と経過　《18h(9回)》 1)妊娠の成立　【14h(7回)】 2)胎児の発育とその生理 3)母体の生理的変化 2　妊婦の心理的特徴 1)妊娠への適応と心理 2)妊娠各期の心理的特徴 3　夫の心理的特徴
	2　妊婦とその家族への看護が理解できる。	1　妊婦の健康診査と健康状態のアセスメント 2　妊婦の健康管理と保健指導 1)妊娠中の日常生活の過ごし方と注意点 2)妊婦の食事指導 3)妊娠中のマイナートラブルと保健指導 3　出産・育児準備への支援 1)出産・育児準備教育 2)妊娠中の乳房の手当て方法 4　親・家族役割準備への支援 1)母親・父親としての自己像形成過程の援助 2)新しい家族役割への適応過程の援助
	3　妊婦の看護の実際が理解できる。	校内実習　外部講師【2h(1回)】　妊婦体操・マタニティビクス 校内実習　【2ｈ(1回)】妊婦の健康診査
産婦の看護	1　分娩の経過と胎児の健康状態が理解できる。	1　分娩の生理と経過　《10h(5回)》 1)分娩の定義と3要素　【8h(4回)】 2)分娩の経過と機序 2　産婦の心理的特徴 1)分娩経過と心理的変化 2)家族の心理と支援
	2　分娩の進行状態に合わせた看護が理解できる。	1　産婦の健康状態のアセスメント 1)分娩の進行状態 2)胎児の健康状態 2　分娩各期の看護 1)入院時の看護 2)分娩第1期の看護 3)分娩第2期の看護 4)分娩第3期の看護 5)分娩第4期の看護
	3　産婦の看護の実際が理解できる。	校内実習　【2h(1回)】　分娩時の呼吸法、補助動作

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門分野Ⅰ　母性看護学[1]　母性看護学概論　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学[2]　母性看護学各論　医学書院 マタニティ診断ガイドブック　医学書院 母子健康手帳	筆記

科目名 (授業科目)	褥婦・新生児の看護	単位・時間	1(30)	開講時期	2年次6月
科目目標	1　新生児期の経過と看護について理解できる。 2　産褥期の経過と看護について理解できる。				

単　　元	目　　標	内　　容
新生児の看護	1　新生児の経過が理解できる。 2　新生児の看護が理解できる。 3　新生児の看護の実際が理解できる。	1　新生児の生理と経過　《8h(4回)》 1)新生児の定義　【6h(3回)】 2)新生児の機能 1　出生直後の新生児の看護 2　全身の観察と計測 3　新生児の看護 1)保育環境 2)日常生活の援助 3)感染予防 校内実習　【2h(1回)】　新生児の抱き方・寝かせ方、沐浴、更衣
褥婦の看護	1　産褥の経過が理解できる。 2　褥婦の看護が理解できる。 3　地域における母性看護が理解できる。 4　産褥期・新生児期にある母子の看護過程が理解できる。 5　褥婦の看護の実際が理解できる。	1　産褥の生理と経過　《20h(10回)》 1)産褥の定義　【6h(3回)】 2)産褥の身体的変化 2　褥婦と家族の心理的特徴 3　褥婦の健康状態のアセスメント 1　産褥経過に沿った看護 1)退行性変化への看護 2)進行性変化への看護 2　育児技術獲得を促す看護 3　家族関係再構築への看護 1)母子関係確立のための看護 2)夫(パートナー)への対応 3)上の子どもへの対応 4)父母への対応 1　地域の母性看護の活動(助産所の活動:外部講師)　【2h(1回)】 1　ウエルネス志向とは　【6h(3回)】 2　マタニティ診断とは 3　産褥期・新生児期にある母子の看護過程 1)母子の診断過程 2)保健指導を中心とした実践過程　演習【4h(2回)】 3) 評価 校内実習　【2h(1回)】　褥婦のフィジカルアセスメント 直接授乳介助

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門分野Ⅰ　母性看護学[1]　母性看護学概論　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学[2]　母性看護学各論　医学書院 マタニティ診断ガイドブック　医学書院 母子健康手帳	筆記・レポート

科 目 名 (授業科目)	周産期にある人のハイリスク時の看護 (ハイリスク妊・産・褥婦 、新生児の看護)	単位・時間	1(15)	開講時期	2年次10月
科目目標	1 妊・産・褥婦・新生児のハイリスク状態と主な治療について理解できる。 2 妊婦・産婦・褥婦・新生児のハイリスク時の看護について理解できる。				

単　　元	目　　標	内　　容		
ハイリスク状況にある妊産褥婦・新生児の看護	1 ハイリスク状況にある妊産褥婦・新生児の病態生理・治療・看護が理解できる。	1 ハイリスク妊娠 2 流・早産 3 常位胎盤早期剥離 4 前置胎盤 5 子宮外妊娠 6 感染症と母子感染 7 前期破水 8 血液型不適合妊娠 9 多胎妊娠	外部講師	【6h(3回)】
	2 集中監視とケアの必要な状況にある妊産褥婦・新生児の病態生理・治療・看護が理解できる。	1 妊娠高血圧症候群 2 糖代謝異常妊娠 3 産褥熱 4 乳腺炎 5 産後うつ病 6 胎児機能不全 7 急速遂娩 1)帝王切開術 2)吸引分娩 3)鉗子分娩 8 新生児仮死 9 高ビリルビン血症 10 新生児呼吸窮迫症候群 11 新生児一過性多呼吸 12 胎便吸引症候群	外部講師	【 4h(2回)】 【2h(1回)】
	3 予期しない、危機状況にある妊産褥婦の看護が理解できる。	1 死産 2 先天異常、障害を持つ新生児の家族		【2h(1回)】

テキスト	評価方法
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院	筆記

精　神　看　護　学

精神看護学

【精神看護学の考え方】

精神看護には、広義の「日常生活の場で誰もが体験している精神保健(メンタルヘルス)」と、狭義の「精神に障害をもつ人の看護(精神科看護)」がある。社会全体として自殺、うつ病をはじめとする職場におけるメンタルヘルス上の問題をもつ労働者の増加、嗜癖や発達障害への対応といった新たな課題がみられる。また、地震等の自然災害や人為的事故も多発しており、被災者に対する精神的支援のあり方が問われる機会も多くなった。このような心の問題の多様化に伴い、精神に障害をもつ人への理解を深めるとともに、災害被災者や、事故・事件等の被害者への心のケアなどは、身近な問題となってきている。さらに、2013(平成25)年の障害者総合支援法への切り替え以降、精神障害者支援の法制度が更新され、訪問看護など地域における看護師の果たす役割は拡大している。こうした状況をふまえ、 入院か地域かに関わらず、精神障害をもつ人びとや家族の「回復(リカバリー)」を援助の中心として、当事者のもつ力(ストレングス)や回復力(レジリエンス)といった、ポジティブな可能性に注目する看護のあり方が求められている。

精神看護学では、精神疾患患者の看護だけでなく、あらゆる領域でさまざまな健康水準、発達段階にある人を対象としている。様々な対象に対し必要な援助が実践できるよう、精神看護を展開するための基礎的知識と技術を学ぶ。障害に対する援助を理解するとともに、自立した社会生活のために必要な社会資源への理解も深める。また、援助の主となるコミュニケーションには、患者-看護師関係の影響が大きく、学生の自己理解と他者を理解する能力を伸ばすことが必要となる。具体的な知識を身につけられるよう、精神保健を支えるために必要な知識と態度をもとに、校内実習での実践を通し精神に障害をもつ人への基本的な技術を学習する。

【目的】

精神の健康の保持・増進、及び精神に障害をもつ人への看護を実践するための基礎的能力を養う。

【目標】

1 精神の構造と機能、成長と発達、精神の健康の概念を理解できる。
2 精神看護の展開される場の特徴と援助の方法を学び、看護全般における精神看護の果たす役割を理解できる。
3 精神障害の分類と特徴、精神に障害をもつ人のアセスメントと看護介入を理解できる。
4 患者－看護師関係の成立・発展について学び、他者理解・自己洞察できる。
5 精神保健医療福祉の変遷と課題を、歴史的、社会的、医療的見地から学び、看護師の役割と今後の方向性を展望できる。

【構成および計画】

〈講義〉

授業科目	単位数	時間数	学年別計画時期			備考
			1年	2年	3年	
精神看護学概論	1	30	1(30)			
精神に障害をもつ人の理解	1	30		1(30)		
精神看護の基本技術	1	15		1(15)		
精神に障害をもつ人の生活と看護	1	30		1(30)		
合計	4	105	1(30)	3(75)		

〈臨地実習〉

授業科目	実習内容	単位(時間)	時期
精神看護学実習	精神に障害をもち入院している人の看護	2(90)	2～3年次
	精神に障害をもち地域で生活している人の看護		

科 目 名 (授業科目)	精神看護学概論	単位・時間	1(30)	開講時期	1年次10月
科目目標	1　精神看護の基本的な考え方について理解できる。 2　精神保健医療福祉の変遷を、歴史的・社会的・医療的見地から理解できる。				

単　　元	目　　標	内　　容
精神看護の目的・対象、役割と機能	1　精神の健康概念と精神障害の予防概念が分かる。	1　社会環境の変化と社会病理　≪18h(9回)≫ 1)精神看護の目的と対象　2)精神の健康 3)精神障害の予防　4)心の健康に関する普及啓発 5)国際生活機能分類(ICF)　6)ストレングスモデル
	2　精神疾患をもつ人の生物・心理・社会的側面の看護が理解できる。	1　脳の仕組みと精神機能 1)脳の部位と精神機能　2)神経伝達物質と精神機能 3)ストレス脆弱性仮説　4)脳と免疫機能 5)睡眠障害とサーカディアンリズム 2　心の機能と発達 1)精神情緒の発達　2)自我の機能 3)防衛機制　4)精神力動　5)集団力動
	3　精神看護の基盤となる理論を理解できる。	1　精神看護の理論 1)対人関係の看護理論　2)セルフケア理論 2　危機(クライシス) 1)危機の概念　2)危機介入　3)危機と予防 4)ストレスと対処 5)適応理論
	4　ライフサイクルにおける危機的状況と精神保健について理解できる。	1　発達段階での危機と危機介入 1)乳・幼児期　2)学童期　3)思春期・青年期 4)成人期　5)中年期(壮年期)　6)老年期 2　精神の健康を守る保健医療行政 1)自殺対策基本法　2)発達障害支援法 3)犯罪被害者等基本法　4)虐待防止に関する法律
	5　リエゾン精神看護について理解できる。	1　リエゾン精神看護とは 1)リエゾン精神看護の定義と役割　2)リエゾンナースの活動 3)看護職者のメンタルヘルス
精神保健医療福祉の変遷と活動	1　精神保健医療福祉の歴史について理解できる。	1　諸外国における精神科医療の歴史　≪10h(5回)≫ 2　日本における精神科医療の歴史 3　精神医療における看護師の役割の変遷
	2　精神障害者を支える法と制度を理解できる。	1　精神保健福祉法と関連法規 1)精神保健福祉法 2)障害者総合支援法 3)心神喪失者等医療観察法 2　精神障害者を支える保健行政 3　精神障害者の人権と権利擁護
	3　精神看護の課題と展望について、理解できる。	1　精神に障害のある人を取り巻く現在の状況 2　精神看護の課題と展望

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門分野　精神看護学[1]　精神看護の基礎　医学書院 系統看護学講座　専門分野　精神看護学[2]　精神看護の展開　医学書院	筆記

科 目 名 (授業科目)	精神に障害をもつ人の理解	単位・時間	1(30)	開講時期	2年次4月
科目目標	1　精神障害の特徴と治療を理解できる。 2　精神に障害をもつ人の看護の基本を理解できる。				

単　　元	目　　標	内　　容
精神障害の特徴と治療の理解	1　主な精神症状を理解できる。	1　精神機能の障害　1～3≪14h(7回)≫ 1)不安緊張状態　2)抑うつ状態、意欲減退状態　外部講師【12h】 3)躁状態　4)幻覚　5)思考内容と思路の障害 6)強迫思考・強迫行為　7)意識の変容 、不眠 8)記憶障害　9)知的機能の障害
	2　精神疾患の分類と主な検査を理解できる。	1　精神疾患の分類 1)要因別分類 2)国際疾病分類(ICD)と精神障害の診断と統計の手引き(DSM) 2　主な検査 1)神経学的検査 2)脳波検査 3)心理検査 (1)知能検査　(2)人格検査　(3)記銘力検査
	3　主な精神疾患の特徴と治療を理解できる。	1　主な疾患の特徴 1)統合失調症　2)気分障害　3)神経症及び心因反応 4)人格障害　5)物質関連障害及び嗜癖 6)摂食障害　7)性同一性障害　8)器質性精神疾患 9)小児の精神疾患(発達障害・多動性障害・チック障害) 9)のみ小児外部講師【2h(1回)】 2　主な治療 1)薬物療法　2)電気けいれん療法　3)精神療法 4)リハビリテーション療法　5)認知行動療法
精神に障害をもつ人の看護の基本	1　精神に障害をもつ人の看護の基本を理解できる。	1　精神に障害をもつ人の理解　≪14h(7回)≫ 2　看護の目標・役割　【2h(1回)】 1)法と観察・ 記録　2)治療的環境の提供 3)ケアマネジメント　4)セルフケアの支援 5)他職種との連携(チーム医療)　6)生きる力の支援
	2　精神に障害をもつ人の安全を守るための方法を理解できる。	1　精神障害と療養環境　【6h(3回)】 1)治療的環境　2)生活環境 2　安全な病棟環境の調整 1)施設・設備とその特徴 2)権利擁護・プライバシーへの配慮 3)人的環境調整 3　行動制限と看護 1)隔離室(保護室)使用時の看護　2)身体拘束時の看護 3)私物の取り扱い　4)通信 5)外出・外泊・面会　6)危険物の扱い 4　精神科に多い事故とリスクマネジメント 1) 自殺企図　2) 転倒・転落　3) 異食・誤飲　4) 誤薬 5) 院内感染　6) 離院　7)火傷・火事　8)衝動行為・暴力 9) 深部静脈血栓症予防 5　災害時の精神障害者への看護
	3　精神に障害を持つ人の治療・検査に対する看護を理解できる。	1　薬物療法の看護(服薬自己管理に向けて)　【6h(3回)】 2　リハビリテーション療法の看護 3　電気けいれん療法の看護 4　心理療法時の看護 5　検査を受ける精神に障害をもつ人の看護

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門分野　精神看護学[1]　精神看護の基礎　医学書院 系統看護学講座　専門分野　精神看護学[2]　精神看護の展開　医学書院	筆記

科目名 (授業科目)	精神看護の基本技術	単位・時間	1(15)	開講時期	2年次6月
科目目標	1　患者－看護師関係成立発展の技術を理解できる。 2　再構成の技術を用いた自己洞察の意義を理解し、再構成が実施できる。				

単　　元	目　　標	内　　容
精神看護技術	1　精神看護における観察とコミュニケーションの技術を理解できる。	1　基本技術　≪14h(7回)≫ 1)看護師に求められる基本姿勢　【4h(2回)】 (1)精神に障害をもつ人のコミュニケーションの特徴 (2)患者ー看護師関係の発展 2)アセスメントのための技術 (1)精神科における観察の目的 (2)観察方法と留意点 (3)観察方法の実際(対人行動を通しての観察) 3)精神看護におけるコミュニケーション技術 (1)コミュニケーションの原則 (2)コミュニケーション技法 (3)アサーティブ (4)患者－看護師のコミュニケーションの実際 4)　看護カウンセリング (1)支持的面接 5)心理教育的アプローチ 6)メンタルウエルネス (1)ホリスティックケア (2)リラクゼーション 校内実習【2h(1回)】 精神障害者との コミュニケーション
	2　自己洞察の意義を理解し、再構成が実施できる。	1　看護師の自己理解と自己活用　【2h(1回)】 2　プロセスレコード・再構成 1)プロセスレコードと再構成 (1)ペプロウ　(2)オーランド　(3)ウィーデンバック 2)再構成の目的・方法 3)再構成の実際 3　カンファレンス 4　スーパービジョン 演習【2h(1回)】 再構成の実際
	3　生活技能訓練と看護の役割が理解できる。	1　生活技能訓練(SST)　外部講師【2h(1回)】 1)SSTの目的・対象 2)SSTの基本となる理論モデル (1)リハビリテーションモデル (2)ストレス脆弱性モデル (3)ストレスの相互作用モデル 3)SSTの種類 (1)基本訓練モデル　(2)問題解決技能訓練 4)SSTの実際 校内実習【2h(1回)】外部講師 ＳＳＴの実際

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門分野　精神看護学[1]　精神看護の基礎　医学書院 系統看護学講座　専門分野　精神看護学[2]　精神看護の展開　医学書院	筆記

科目名 (授業科目)	精神に障害をもつ人の生活と看護	単位・時間	1(30)	開講時期	2年次9月
科目目標	1　精神に障害をもつ人の生活と健康段階にあわせた看護、及び家族に対する看護を理解できる。 2　統合失調症をもつ人の特徴に合わせた看護が理解できる。				

単　　元	目　　標	内　　容
精神に障害をもつ人と家族に対する看護	1　入院治療を受ける人の看護及びその家族に対する看護を理解できる。	1　統合失調症をもつ人の看護　≪18h(9回)≫ 1)経過に応じた看護　2)主な精神症状と看護　【12h(6回)】 2　気分障害をもつ人の看護 1)うつ状態の人の看護　2)そう状態の人の看護 3　強迫性障害をもつ人の看護 1)強迫性障害をもつ人の看護　2)不安障害をもつ人の看護 4　人格障害(操作・試し行為)をもつ人の看護 5　摂食障害をもつ人の看護 6　精神作用物質使用による障害をもつ人の看護 7　性同一性障害をもつ人の看護 8　小児期に特有な精神障害をもつ人の看護　外部講師【2h(1回)】 1)自閉症スペクトラム障害/自閉スペクトラム症をもつこどもの看護 2)行動及び情緒の障害をもつこどもの看護 9　精神障害のほかに身体合併症をもつ人の看護 10　家族への看護
	2　社会復帰・社会参加への支援が理解できる。	1　長期入院患者の退院支援　【4h(2回)】 2　地域精神保健活動の現状 3　精神科デイケア、精神科ナイトケアでの看護 4　精神科訪問看護の実際 5　地域での生活を支える社会資源と看護の連携 1)自立支援医療　2)グループホーム 3)ショートステイ　4)ホームヘルプ 5)就労支援　6)セルフヘルプグループ 7)地域の相談窓口　8)包括型地域支援プログラムACT 6　精神障害者の地域生活を支えるケアマネジメントとソーシャルサポート
統合失調症の患者の発達段階と健康段階に応じた看護	1　精神科看護に必要な看護アプローチが理解できる。	1　精神障害がもたらす日常生活への影響　≪10h(5回)≫ 1)精神症状による日常生活への影響　【2h(1回)】 2)治療および入院生活によるセルフケアへの影響 2　看護過程の展開 1)患者を全体的かつ統合してとらえる情報収集(ICFの視点) 2)当事者のもつ力(ストレングス)や回復力(レジリエンス)着目したアセスメント 3)セルフケアの維持・向上への援助 演習【8h(4回)】 統合失調症の青年期の患者への看護

テキスト	評価方法
系統看護学講座　専門分野　精神看護学[1]　精神看護の基礎　医学書院 系統看護学講座　専門分野　精神看護学[2]　精神看護の展開　医学書院	筆記 レポート

V. 統　合　分　野

統合分野

【統合分野の考え方】

平成 21 年のカリキュラム改正では、学生の看護実践能力の強化が重要なポイントである。

統合分野が新設され、基礎分野から専門分野Ⅱまでの学習内容を統合し、一般病床あるいは在宅療養の現場の実務に近い環境下で看護を提供できるように、教育内容として『在宅看護論』と『看護の統合と実践』を位置づけている。

現在、医療を取り巻く環境は急激に変化しており、医療制度改革によって医療サービス提供のあり方が在宅に大きくシフトしている。国は病床数の削減や高齢者医療制度の創設、居住系サービスの重視を打ち出しており、こうした中で、在宅医療・看護の役割がますます重要となっている。特に、安全で安心な地域療養を支えるためには、“医療機能の連携”と“在宅医療の充実”が不可欠であり、『在宅療養支援診療所』の 24 時間の応需体制を支える訪問看護の役割も大きい。

そこで、『在宅看護論』では、在宅でその人らしく生き、その人らしく最期をまっとうできるような援助を目標に、基礎的な看護技術を身につけ、他職種と協働する中での看護の役割を理解できる内容を教授する。とりわけ、終末期医療を含む在宅での看取りの充実に向けた内容を強化する。

一方、急性期医療では、国民医療費増大の影響で、在院日数の短縮化や病床数の削減など、「医療の効率化」が避けられない流れとなっている。DPC(診断群分類別包括評価)の導入が進み、効果的・効率的で安全な病院経営への看護職の参画、エビデンスに基づく看護の提供と研究的態度が求められている。また、実習施設の中には災害医療拠点病院としての役割を持つところも多く、災害医療・災害看護の知識と技術の理解が必要とされている。さらに、新卒看護師のリアリティショックを緩和し職場適応をスムーズに行うためには、複数の患者受け持ちや複数の課題に対する優先度の判断、技術の習熟を、卒業前に学習しておく必要がある。

そこで、『看護の統合と実践』を 3 年間の学習の統合を図る科目と位置づけ、4 単位 90 時間で 4 科目を配置する。「看護管理と研究」では、組織における看護師の役割を理解するとともに実践した看護と理論との統合を図る。「災害看護」では、災害直後から支援できる災害看護についての基礎知識を習得する。「診療の補助技術における安全」では、診療の補助技術における事故防止のための知識と技術を修得する。そして「臨床看護の実践」では、臨床に近い擬似環境での学習を充実させ、複数患者への優先度を考えた援助の提供や、緊急・突発事態の発生時に適切な判断・対応を学ぶこととする。

在　宅　看　護　論

在宅看護論

【在宅看護論の考え方】

我が国は、深刻な少子高齢化社会となり、社会保障制度にも大きな影響を与えている。国民医療費の増大や2025年問題として、要介護者の増加や多死社会が到来することが予測されている。近年、医療保険制度・地域保健法・介護保険制度等、さまざまな制度や施策が改正され、施設から在宅ケアへの社会的ニーズはますます高まっている。人々の在宅療養に対する考え方も多様化し、その期待も高度になっている。このような社会的要請を受けて、地域包括ケアシステムが「医療介護総合確保推進法」により提唱された。地域における保健・医療・福祉分野のチーム協働による質の高い看護を提供することが求められている。

地域における看護活動の場は、居宅だけでなく介護施設、老人保健施設、通所施設、グループホームなどに拡大している。これらの場所で最期を迎えることもある。こうした変化に対応するため、多様な場での療養生活に対応した教育内容を展開できるように意識づけをはかっている。

在宅看護は、疾病や障害の予防から福祉的な生活支援までの多領域、広範囲にわたる看護である。具体的には、健康回復のためのリハビリ看護、障害を抱えて地域で暮らす人々への看護、地域で終末期を迎える人々への看護など、予防的関わりから医療依存度の高い看護活動まで求められる。

在宅看護論では、地域で展開されている多様なケアを意識しつつ、在宅看護に必要な、臨床から地域への継続看護やケアマネジメント、生活の中での療養を支える看護を学習する。そして、在宅療養の意義や療養者・家族の価値観の多様性、生活の場における看護を理解し、自己決定や生活の再構築を支援していく方法を学ぶ。

【目的】

地域で生活しながら療養する人々、あるいは障害をもちながら生活する人々と家族を理解し、在宅療養おける看護の基本を学ぶ。

【目標】

1 在宅看護の概念と変遷について理解できる。
2 在宅看護の対象と看護師の役割について理解できる。
3 在宅看護の特徴をふまえ、継続看護や療養状態に合わせた看護が理解できる。
4 訪問看護の展開方法と訪問時の基礎的技術が理解できる。
5 在宅療養支える社会資源の活用および他職種との連携の必要性が理解できる。

【構成および計画】

＜講義＞

授業科目	単位数	時間数	学年別計画時間			備考
			1年	2年	3年	
在宅看護概論	1	15	1(15)			
在宅療養者の健康状態に応じた看護	1	30		1(30)		
在宅看護技術	1	30		1(30)		
在宅看護過程	1	15		1(15)		
合　計	4	90	1(15)	3(75)		

＜臨地実習＞

授業科目	内容	単位(時間)	時期
在宅看護論実習	地域で療養している療養者、家族を対象とした看護	2(90)	2～3年次
	在宅療養を支える施設における看護		

科目名 (授業科目)	在宅看護概論	単位・時間	1(15)	開講時期	1年次12月
科目目標	在宅看護の概念を踏まえ、在宅看護の対象と看護師の役割が理解できる。				

単　　元	目　　標	内　　容
在宅看護の基礎	1 在宅看護が必要とされる背景と基本理念が理解できる	1 社会の変化と在宅看護 《14h(7回)》 1)在宅看護の役割 【4h(2回)】 2)在宅看護が必要とされる背景 2 在宅看護の倫理と基本理念 1)ノーマライゼーション 2)ヘルスプロモーション 3)権利擁護(アドボカシー・意志決定) 3 継続看護 1)退院支援 2)退院調整
	2 在宅看護の対象と必要な援助が理解できる	1 在宅看護の対象と必要な援助 1)健康段階からみた対象 2)発達段階からみた対象 3)家族と在宅看護 4)コミュニティケア
	3 在宅看護を支える社会資源の活用の必要性が理解できる	1 在宅看護に必要な社会資源 【10h(5回)】 1)在宅看護を支える保健・医療・福祉制度: (1)医療保険制度 (2)介護保険法 (3)障害者総合支援法 2)在宅看護を支える人的資源 (1)ケアマネジメント (2)チームアプローチ 3)地域包括ケアシステム (1)地域完結型医療 (2)健康づくり: 保健所、住民など (3) 在宅療養 (4) 自助・互助・共助・公助
	4 訪問看護の機能と役割が理解できる	1 訪問看護の機能と役割 1)訪問看護のシステム 2)生活の場における看護 3)自立を支援する看護 4)予測と予防 5)生活を支えるチームの一員としての役割 2 在宅看護の編成と今後の課題 1)日本における在宅看護の歩み 2)在宅看護の展望と課題

テキスト	評価方法
系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院	筆記

科目名 (授業科目)	在宅療養者の健康状態に応じた看護	単位・時間	1(30)	開講時期	2年次4月
科目目標	地域で療養する対象の状態に応じた看護と社会資源活用の基本が理解できる。				

単　　元	目　　標	内　　容
在宅療養者の状態別看護	1 安心した在宅生活に必要な看護が理解できる	《28h(14回)》 1 24時間の連絡体制 【2h(1回)】 2 感染管理 3 災害時の被災予防
	2 地域における終末期の看護が理解できる	1 終末期を迎えた疾病の特徴と療養の経過 【2h(2回)】 2 自己決定への支援 外部講師【4h(2回)】 3 家族への支援 1)24時間の支援体制 (1)訪問看護 (2)在宅ホスピス主治医 2)急変時や症状、痛みへの対応 3)グリーフワーク
	3 地域で難病を持ちながら療養する対象の看護が理解できる	1 神経難病の特徴と療養の経過 外部講師【4h(2回)】 2 難病対策要綱 3 家族への支援 4 当事者の療養の経過と活用している社会資源 外部講師【2h(1回)】 文字盤によるコミュニケーション方法
	4 地域で障害を持ちながら生活する対象の看護が理解できる	1 障害に応じた看護 【6h(3回)】 1)長期臥床状態を引き起こす障害 2)精神障害 3)住環境調整 4)生活拡大への援助
	5 地域で療養する高齢者への看護が理解できる	1 認知症の特徴と療養の経過 【6h(3回)】 1)日常生活自立度・要介護度 2)家族への支援 3)権利擁護の制度 (1)日常生活自立支援事業 (2)成年後見制度 2 独居高齢者への支援
	6 地域で療養する子どもへの看護が理解できる	1 発達や教育を踏まえた援助 【2h(1回)】 2 家族への支援 3 子どもの療養生活を支える制度

テキスト	評価方法
系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院	筆記

科目名 (授業科目)	在宅看護技術	単位・時間	1(30)	開講時期	2年次9月
科目目標	訪問看護技術の基本技術と療養する対象のアセスメントをもとに地域における生活支援技術が理解できる。				

単　　元	目　　標	内　　容
在宅看護に必要な技術	1　地域における基本看護技術が理解できる	1　コミュニケーション技術　《28h(14回)》 2　相談・指導技術　【2h(1回)】 3　訪問時のマナー
	2　生活環境の調整が理解できる	1　安全で快適な居住環境の条件　【2h(1回)】 2　福祉機器・用具の種類と活用
	3　地域における日常生活支援技術(日常生活援助と医療処置)が理解できる	1　食事　【2h(1回)】 1)楽しみ、安全性、安楽 2)食事に関するアセスメントの視点 3)経管栄養法の管理(胃瘻・腸瘻) 4)中心静脈栄養法の管理 2　排泄　【2h(1回)】 1)快感を得るケア、羞恥心を与えないケア 2)排泄に関するアセスメントの視点 3)膀胱留置カテーテルの管理 4)腹膜透析の管理 3　清潔・衣生活　【4h(2回)】 1)工夫、安全、気分転換 2)清潔に関するアセスメントの視点 3)入浴(シャワー浴) 4)口腔ケア 5)褥創の管理 4　活動・移動・休息　【2h(1回)】 1)日常生活行為の援助(生活拡大と安全のバランス) 2)ADL・IADLのアセスメントの視点 3)移動補助具(リフト等) 4)生活リズム 5　呼吸・循環　【4h(2回)】 1)呼吸・循環のアセスメントの視点 2)在宅酸素療法 3)在宅人工呼吸療法 4)気管切開の管理と口腔・鼻腔・気管内吸引 6　感染予防　【2h(1回)】 1)在宅で注意すべき感染症 2)医療廃棄物の処理 校内実習【6h(3回)】 1訪問時のマナー【2h(1回)】 2在宅酸素療法【2h(1回)】 3口腔・鼻腔・気管内吸引・胃瘻の管理・経管栄養法【4h(1回)】

テキスト	評価方法
系統看護学講座　統合分野　在宅看護論　医学書院	筆記

科目名 (授業科目)	在宅看護過程	単位・時間	1(15)	開講時期	2年次10月
科目目標	事例展開を通して在宅看護の特徴が理解できる。				

単　　元	目　　標	内　　容
在宅看護過程の展開	1　在宅看護過程展開の視点が理解できる	1　療養者、家族の価値観や人生観の尊重　《14h(7回)》 2　療養者、家族が望む生活の実現　【2h(2回)】 3　療養者、家族の習慣や持てる強みの尊重 4　自己決定とセルフケアへの援助 5　支援体制の確立 6　国際機能分類(ICF)の概念と在宅看護での情報収集
	2　在宅看護におけるアセスメントの特徴が理解できる	1　療養者、家族の健康状態・役割 1)障害や症状による日常生活への影響と起こりうる危険の予測 2)介護役割による日常生活への影響 3)家族の発達段階別課題への影響 2　家族の適応状態・介護力 1)家族の健康状態と家族関係 2)介護役割分担や協力状況 3)介護への意欲・知識・技術 3　療養者と家族の関係 1)生活歴や家族歴 2)在宅療養に関する認知・理解の一致 4　生活状況 1)生活習慣　2)生活リズム 3)生活空間・居住環境　4)経済状況 5　社会資源の活用状況 1)介護量(療養者の状態)と介護力のバランス 2)家族の考え方
	3　目標の設定のもとに在宅看護活動が立案できる	1　目標の決定 1)療養者、家族を対象とした目標 2)療養者、家族との支援目標の共有化 3)療養者と家族の関係への配慮 2　看護活動 1)二次障害・合併症の予測と対応 2)セルフケア能力を引き出すための自己決定への支援 3)介護者への援助(おもに介護負担軽減) 4)療養者と家族への指導 5)社会資源の活用への援助 6)関係者や家族との連携 7)緊急時の対応
	4　評価の視点が理解できる	1　満足度(本人家族への確認)　【2h(1回)】 2　目標の到達度 ※事例:終末期又は神経難病(ALSかパーキンソン)の在宅療養者 演習【10h(5回)】 事例展開

テキスト	評価方法
系統看護学講座　統合分野　在宅看護論　医学書院	筆記 他

看護の統合と実践

看護の統合と実践

【看護の統合と実践の考え方】

看護の統合と実践は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱで学習した内容をより臨床実践に近い形で学習し、知識・技術を統合する内容である。卒後、臨床現場にスムーズに適応していけるように、各看護学で学んだ内容をベースに、臨床で実際に活用していくことができる内容として設定した。

その具体的内容には、組織における看護師の役割を理解するとともに、チーム医療及び他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解すること、看護管理・看護研究の基礎的能力を身につけること、災害直後から支援できる看護の基礎的知識について理解すること、国際社会において広い視野に基づき看護師として諸外国との協力を考えることができこと、“安全な医療の提供”のために、医療安全の基礎的知識を修得すること等の内容とした。

「看護管理と研究」では、組織における看護師の役割を理解するとともに実践した看護と理論との統合を図る。病院や看護部門の理念に合わせ、患者満足と従業員満足を高める環境づくりの考え方や、“看護サービスの管理”について理解を深める内容を教授する。さらに、先人の看護理論等に学び看護に対する考えを深められるよう、研究の概要やプロセスの理解と研究的態度の育成をする。

「災害看護」では、災害直後から支援できる災害医療・災害看護に関する基礎的知識と技術についての基礎的な理解を深める内容を教授すると共に、防災訓練への参加を通し、災害時における傷病者と看護師の心理を理解する。

「診療の補助技術における安全」では、診療の補助技術における事故防止のための知識と技術を修得する。臨床の場で求められる一定水準の注射技術等を安全で確実に提供できるよう、事故防止のための知識・技術を習得する。また、演習を通して、ハイリスク環境下での危険認識力と危険回避のための判断力を高める。

「臨床看護の実践」では、臨床に近い擬似環境での学習を充実させ、複数患者への優先度を考えた対応や、緊急・突発要件の発生時に適切な判断・対応を学ぶ。臨地実習では習得が困難な状況（①不測の事態への対応、②複数の課題への対応、③優先順位の判断）を設定した演習を強化する。

「看護の統合と実践の臨地実習」では、専門分野Ⅱ、在宅看護論の実習を学んだ後に、もう一度既習の知識・技術・態度を統合させ、看護実践力を高めることを目指す。専門分野での実習を踏まえ実務に即した実習を行うため、看護チームの一員としての自覚をもち、複数患者受持ち、一勤務帯を通した実習、夜間実習などの方法を取り入れる。

【目的】

看護に求められている社会的ニーズを理解し、個人と集団と社会に対し、適切な看護を提供できるよう、既習学習の知識と技術を統合して、実践できる力を養う。

【目標】

1 組織の中での看護師の役割を理解し、看護管理と看護研究の基礎的知識を習得する。
2 災害医療・災害看護についての基礎知識を習得する。
3 安全な医療の提供に向けて、対象に合わせた適切な診療の補助技術が実施できる。
4 複合課題を通して、知識・技術の統合と総合的な判断を学び、臨床実践能力を養う。

【構成および計画】

〈講義〉

授業科目	単位数	時間数	学年別計画時間			備考
			1 年	2 年	3 年	
看護管理と研究	1	30			1(30)	3 年次前期
災害看護	1	15			1(15)	3 年次前期
診療の補助技術における安全	1	30			1(30)	3 年次前期
臨床看護の実践	1	15			1(15)	3 年次後期
合計	4	90			4(90)	

〈臨地実習〉

授業科目	内容	単位(時間)	時期
看護の統合実習	既習の知識・技術・態度を統合した実務に即した実習	2(90)	3 年次後期

科 目 名 (授業科目)	看護管理と研究	単位・時間	1(30)	開講時期	3年次　4月
科目目標	1　看護管理についての基礎的知識を習得し、組織の中での看護師の役割を理解できる。 2　看護研究の意義と方法を理解し、実践した看護の振り返りができる。				

単　　元	目　　標	内　　容
組織の中の看護	1　組織における看護管理について理解できる	1　看護管理　外部講師【6h(3回)】 1)　看護管理の定義 2)　看護管理の対象と管理過程 2　病院における看護組織 1)病院の目的、理念と組織 2)診療報酬制度と看護サービスの評価 3)院内委員会と看護の役割 3　看護の質保証と看護管理 1)安全管理 2)情報管理 3)人的資源の管理 4　看護管理に必要な技術 1)リーダーシップ 2)コーチング 5　看護行政
看護研究の基礎	2　看護研究の意義と方法を理解できる	1　研究とは　《22h(11回)》 1)研究の意義・必要性・種類　【8h(4回)】 2　看護における研究 1)看護における研究の意義 2)看護研究のプロセス
看護研究の実際 (ケース・スタディ)	3　実践した看護を振り返りケース・スタディとしてまとめることができる	1　ケース・スタディとは 2　論文のまとめ方 1)論文の読み方 2)論文の書き方 3)論文作成上の留意点 4)論文(ケース・スタディ)の書き方 5)抄録の書き方 3　発表の方法 1)発表の仕方　2)発表原稿の書き方 3)資料作成の仕方 演習【14h(7回)】 1　論文(ケース・スタディ)の作成 1)テーマの決定 2)文献検索 3)論文の作成 4)抄録の作成

テキスト	評価方法
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔1〕看護学概論　医学書院 新版 看護のための わかりやすいケーススタディの進め方　照林社 ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践①　看護管理　メディカ出版	筆記および演習レポート 発表

科 目 名 (授業科目)	災害看護	単位・時間	1(15)	開講時期	3年次　7月
科目目標	1　災害医療・災害看護に関する基礎的知識・技術を習得できる。 2　災害時の対応と応急処置の方法を理解できる。				

単　　元	目　　標	内　　容
災害医療	1　災害医療について理解できる	1　災害の歴史と災害看護　《8h(4回)》 2　災害医療対策　外部講師【4h(2回)】 1)　災害に関する法律や制度 2)　災害時の支援体制と医療体制 3)　災害医療拠点病院の役割 3　災害の種類と特徴 1)　災害の分類 2)　災害の種類と疾病構造 3)　災害サイクル 4)　災害時要援護者 4　災害医療の基本 校内実習 【2h(1回)】外部講師
災害看護の基礎	2　災害看護の概念を理解できる	1　災害看護の定義と特徴 2　災害時のこころのケア 1)　災害サイクルに応じたこころのケア (1)　被災者・救援者の心理 ①心理プロセス　②災害各期の心理　③こころのトリアージ (2)　被災者へのこころのケア ①支援の実際　②要援護者への支援 2)　救援者の心のケア 3)　病棟における災害時の行動 3　災害時の国際協力　【2h(1回)】
災害サイクルに応じた看護活動	3　災害サイクルに応じた看護活動を理解する	1　災害各期の看護　《6h(3回)》 1)　発災期・対応期　外部講師【2h(1回)】 ①超急性期　②急性期　③亜急性期 2)　復旧・復興期(慢性期) 3)　静穏期(前兆期含む) 2　災害時に必用な技術 1)　トリアージの実際 2)　搬送と被災者への対応 演習　【2h(1回)】　外部講師 トリアージの実際 学外学習　【2h(1回)】 災害訓練参加

テキスト	評価方法
系統看護学講座　統合分野 看護の統合と実践 災害看護学・国際看護学　医学書院	筆記及びレポート (災害訓練参加後レポート)

科目名 (授業科目)	診療の補助技術における安全	単位・時間	1(30)	開講時期	3年次4月
科目目標	1 医療システムの中の危険要因を知り、診療の補助技術における事故防止のための知識・技術を習得できる 2 間違いを誘発する危険状況下で、安全な看護を提供するための判断力・実践力を高めることができる 3 実践に即した技術演習を通して、専門職としての責任感と倫理観を身につけられる				

単　元	目　標	内　容
診療の補助技術に伴う看護事故防止の考え方	1 診療補助技術に伴う看護事故防止の考え方を理解できる	1 医療事故と看護業務 看護におけるリスクマネジメント 《2h(1回)》 2 看護事故の構造 ヒューマンエラー 【2h(1回)】 3 看護事故防止の考え方
診療の補助業務に伴う事故防止Ⅰ(注射と輸血)	1 注射・輸血業務の特性を理解し、注射・輸血業務に必要な事故防止の知識と技術を習得できる	1 患者に投与する業務の事故防止の視点 《10h(5回)》 2 注射業務プロセスから見た事故防止 【8h(4回)】 1)注射業務プロセスの特性と事故の要因 2)注射事故防止のために必要な知識と技術 3 注射業務に用いる機器(輸液ポンプ・シリンジポンプ)の事故防止 1)輸液・シリンジポンプの構造と機能 2)輸液・シリンジポンプの基本操作とアラーム対応 3)輸液・シリンジポンプの事故の要因 4)輸液・シリンジポンプの事故防止に必要な知識と技術 校内実習 【2h(1回)】 外部講師 輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い 4 輸血業務プロセスから見た事故防止 1)輸血業務プロセスと血液型不適合事故の要因 2)輸血事故防止に必要な知識と技術
診療の補助業務に伴う事故防止Ⅱ(採血・チューブ管理)	1 採血業務の特性を理解し、採血業務に必要な事故防止の知識と技術を習得できる	1 採血業務における事故防止 《10h(5回)》 1)安全で確実な採血の実施 【2h(1回)】 2)採血業務プロセスと事故の要因 3)採血業務に関わる事故防止に必要な知識と技術 校内実習【2h(1回)】 安全な採血
	2 チューブ管理の特性を理解し、チューブ管理に必要な事故防止の知識と技術を習得できる	2 チューブ管理における事故防止 【2h(1回)】 1)チューブ留置の目的とチューブ管理における看護役割 2)チューブ管理に関わる危険と事故の要因 3)チューブ管理に関わる事故防止に必要な知識と技術 校内実習【4h(2回)】 チューブ類を留置している患者の援助
間違いを誘発する危険状況	1 間違いを誘発する危険状況を知り必要な予防方法を習得できる	1 間違い誘発する危険状況における事故防止 《6h(3回)》 1)間違いを誘発する危険状況の種類 【2h(1回)】 ①患者の類似性 ②複数同時進行 ③タイムプレッシャー ④業務の途中中断 ⑤読みにくい処方箋 ⑥口頭指示 2)新人看護師特有の危険な思い込みと行動パターン 3)危険状況における事故防止に必要な知識と技術 校内実習【4h(1回)】 間違いを誘発する危険状況下での診療の補助技術

テキスト	評価方法
系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔2〕医療安全 医学書院 医療安全ワークブック 川村 治子 医学書院	筆記

科 目 名 (授業科目)	臨床看護の実践	単位・時間	1(15)	開講時期	3年次7月
科目目標	1　臨床に近い状況下で複数の患者への看護を通して、総合的な判断や対応する力を養う 2　看護技術を組み合わせて、複数患者の状態や状況に合った援助が実施できる				

単　　元	目　　標	内　　容
複数患者の看護実践	1　二人の患者の援助計画が立案できる	1　二人の患者に実施するべき援助計画の立案　《14h(7回)》
	2　援助の優先順位を判断し、行動計画が立案できる	1　援助の優先順位を踏まえた計画立案　【2h(1回)】 1)患者の変化、状況の変化 2)日常生活の援助、診療の補助技術 3)患者のスケジュールと検査・診療の補助技術との調整 4)優先度の決定
	3　看護技術を組み合わせ、時間経過の中で効率的に実施できる	1　二人の患者への援助の実施 1)安全・安楽の確保 2)自立度に合わせた援助の実施 3)援助の効率性・経済性
状況判断と対応	1　緊急・突発事態に対して優先度の判断をし、必要な援助ができる	1　突発の事態への対応 1)患者の状態観察 2)状況判断と優先順位の決定 3)自己の実践能力に応じた対処方法の決定
	2　協力要請や報告が正確にできる	1　チームメンバーとの連携 1)チームエラーの防止 2)的確な報告の方法(SBAR) 3)コミュニケーションエラーの防止
	3　看護実践を振り返り考察できる	1　評価・修正 1)計画の妥当性 2)緊急・突発事態への対応 3)自己の課題
		校内実習【12h(4回)】 1　複数患者受持ちの実際 2　効果的なチーム内でのコミュニケーション 3　突発の事態への対応

テキスト	評価方法
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔1〕看護学概論　医学書院 ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理　メディカ出版 医療安全ワークブック 川村 治子　医学書院	筆記　及び　実技試験 (演習レポートを含む)

Ⅵ. 臨地実習の目的・目標・構成

臨　地　実　習

１．目的　看護の対象である人間を総合的に理解し、様々な健康レベルの対象に応じた看護ができる、基礎的能力を身に着けることができる。

２．目標　１）看護の対象を尊重し、良好な人間関係を築くことができる。

２）知識・技術・態度を統合し、対象の健康段階に応じた看護を、科学的根拠に基づいて実践できる。

３）看護専門職の責任を自覚し、看護倫理に基づいた行動ができる。

４）保健・医療・福祉チームにおける看護職の役割と責任を認識し、チームの一員として、他職種と協働できる。

５）専門職業人として成長・発展していけるよう、看護を探求することができる。

３．構成

科目（授業科目）	授業科目・内容
基礎看護学実習 ３単位（１３５時間）	**基礎看護学実習Ⅰ**（１単位45時間） 人間関係成立・対象の日常生活支援 **基礎看護学実習Ⅱ**（２単位90時間） 看護過程の展開・対象の日常生活支援
成人看護学実習 ６単位（２７０時間）	**成人看護学実習Ⅰ**（２単位90時間） セルフマネジメント・セルフケア再獲得に向けての看護 **成人看護学実習Ⅱ**（２単位90時間） 健康危機状況における患者の看護 **成人看護学実習Ⅲ**（２単位90時間） 緩和ケアを必要とする患者の看護
老年看護学実習 ４単位（１８０時間）	**老年看護学実習Ⅰ**（２単位90時間） 入院中の高齢者の日常生活援助 **老年看護学実習Ⅱ**（２単位90時間） 健康障害のある高齢者の看護
小児看護学実習 ２単位（９０時間）	地域で生活する小児の看護 健康を障害された小児の看護
母性看護学実習 ２単位（９０時間）	妊婦・産婦・褥婦、新生児の看護 地域の母性看護
精神看護学実習 ２単位（９０時間）	精神に障害をもち入院している人の看護 精神に障害をもち地域で生活している人の看護
在宅看護論実習 ２単位（９０時間）	在宅で療養している療養者、家族を対象とした看護 在宅療養を支える施設における看護
看護の統合実習 ２単位（９０時間）	既習の知識・技術・態度を統合した実務に即した実習

Ⅶ．実務経験のある教員等による授業科目一覧

実務経験のある教員等による授業科目一覧

領域		科目名・単元名		単位	時間数	学年	実務経験のある教員による授業	
							教員種別	単位
基礎分野	人間と生活・社会の理解・科学的思考の基盤	心理学		1	30	1		
		論理学		1	30	1		
		社会学		1	30	2		
		教育学		1	30	3		
		人間関係論		1	15	1		
		情報科学		1	30	1		
		物理学		1	15	1		
		英語		1	30	1		
		英会話		1	30	3		
		体育		1	30	3		
		運動と健康		1	30	2		
		哲学		1	30	2		
		看護と経済		1	30	3		
基礎分野　小計				13	360			
専門基礎分野	人体の構造と機能	形態機能学1	イントロダクション	1	30	1	専任教員	
			からだの基礎知識他					
			血管・心臓				歯科医師	
		形態機能学2		1	30	1	医師・歯科医師	
		形態機能学3	動く （筋骨格、反射等、基本的動き）	1	30	1	看護師	1
			見る・聞く・話す				専任教員	
			眠る				専任教員	
			風呂に入る				専任教員	
			息をする				看護師	
		形態機能学4	食べる	1	30	1	専任教員	1
			トイレに行く				専任教員	
			性のしくみ				専任教員	
		形態機能学5	見学前講義	1	30	1	歯科医師	1
			解剖見学				医師	
			演習				専任教員	
		生化学	栄養代謝・遺伝	1	30	1	看護師	1
			酸塩基平衡・代謝・免疫				医師	
	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病の発生と病理的変化		1	30	1		
		感染症と微生物		1	30	1		
		疾病と治療1	呼吸器	1	30	1	医師	1
			循環器				医師	
			内分泌				医師	
			代謝				医師	
		疾病と治療2	消化器	1	30	1		
			腎系				医師	
			泌尿器系				医師	

領域		科目名・単元名		単位	時間数	学年	実務経験のある教員による授業	
							教員種別	単位
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病と治療3	脳・神経系	1	30	1	医師	1
			運動器系				医師	
		疾病と治療4	自己免疫系	1	30	2	医師	1
			女性生殖器系				医師	
			血液・リンパ系				医師	
			感覚器系（眼）				医師	
			感覚器系（耳鼻咽喉）				医師	
			感覚器系（歯）				歯科医師	
			感覚器系（皮膚）				医師	
		薬　理　学		1	30	1	薬剤師	1
		治療論1	放射線治療	1	30	2	医師	1
			手術療法による治療・内視鏡的治療				医師	
			麻酔による治療				医師	
			臨床検査				臨床検査技師	
			医療機器				臨床検査技師・臨床工学技士	
		治療論2	栄養と健康	1	30	2	管理栄養士	1
			リハビリテーション				理学療法士	
			救急医療				医師	
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生と健康支援		1	15	2	医師	1
		医療と倫理		1	15	3	医師	1
		社会保障と制度		1	15	2	社会福祉士・精神保健福祉士	1
		社会福祉活動		1	15	3	社会福祉士・精神保健福祉士	1
		医療と法律		1	15	3		
		看護と医療過誤		1	15	3		
専門基礎分野　小計				21	540			14
専門分野1	基礎看護学	看護学概論		1	30	1	専任教員	1
		看護の理論		1	15	1	専任教員	1
		基本となる技術1：人間関係成立	看護技術の概念	1	30	1	専任教員	1
			コミュニケーション				専任教員	
			看護倫理				専任教員	
		基本となる技術2：対象把握	フィジカルアセスメント	1	30	1	専任教員	1
			記録・報告				専任教員	
			バイタルサイン				専任教員	
		基本となる技術3：環境を整える	医療・療養環境	1	30	1	専任教員	1
			看護における安全				専任教員	
			安全を守る技術				専任教員	
		基本となる技術4：看護過程	講義	1	30	1	専任教員	1
			演習				専任教員	
		生活を整える技術1：食事・排泄	食事	1	30	1	専任教員	1
			排泄				看護師	

領域		科目名・単元名		単位	時間数	学年	実務経験のある教員による授業	
							教員種別	単位
専門分野1	基礎看護学	生活を整える技術2：活動・休息・清潔	活動・休息	1	30	1	専任教員	1
			清潔				専任教員	
		臨床看護技術	主要症状別看護	1	30	1	専任教員	1
							消防	
		診療に伴う技術	薬物療法	1	30	2	専任教員	1
			検査				専任教員	
		臨地実習	基礎看護学実習1 人間関係成立・対象の日常生活支援	1	45	1	専任教員	1
			基礎看護学実習2 看護過程の展開・対象の日常生活支援	2	90	1	専任教員	2
専門分野1　小計				13	420			13
専門分野2	成人看護学	成人看護学概論		1	30	1	専任教員	1
		セルフマネジメントに向けての看護	甲状腺機能障害	1	30	1	専任教員	1
			セルフマネジメントとは				専任教員	
			糖代謝				専任教員	
			肝機能障害				専任教員	
			腎機能障害				看護師	
		健康危機状況における看護	手術療法を受ける人の看護	1	30	2	専任教員	1
			手術中の看護				看護師	
			生命の危機状態の看護				看護師	
		セルフケア再獲得に向けての看護	セルフケアの再獲得が必要な人の理解	1	30	2	専任教員	1
			セルフケア再獲得の看護（ストマ管理）				看護師	
			セルフケア再獲得の看護（脳卒中）				看護師	
			セルフケア再獲得の看護（乳がん）				看護師	
			セルフケア再獲得の看護（心不全）				看護師	
			セルフケア再獲得の看護（RA/脊損）				専任教員	
		緩和ケアを必要とする人の看護	緩和ケア	1	30	2	専任教員	1
			緩和ケアを必要とする人の看護（総論）				看護師	
			緩和ケアを必要とする人の看護（肺がん）				看護師	
		成人の看護過程	セルフマネジメント	1	30	2	専任教員	1
			周手術期の看護				専任教員	
		臨地実習	成人看護学実習1 セルフマネジメント・セルフケア再獲得に向けての看護	2	90	2・3	専任教員	2
			成人看護学実習2 健康危機状況における患者の看護	2	90	2・3	専任教員	2
			成人看護学実習3 緩和ケアを必要とする患者の看護	2	90	2・3	専任教員	2
	老年	老年看護学概論		1	30	1	専任教員	1
		高齢者の日常生活援助技術		1	30	1	専任教員	1

領域		科目名・単元名		単位	時間数	学年	実務経験のある教員による授業	
							教員種別	単位
専門分野2	老年看護学	高齢者の健康障害時の看護	高齢者の健康障害の特徴と援助方法	1	30	2	専任教員	1
			治療処置を受ける高齢者の看護、高齢者に多い症状状態と看護				専任教員	
			高齢者に多い疾患と看護（認知症）				看護師	
			高齢者に多い疾患と看護（褥創）				看護師	
		高齢者の看護過程		1	15	2	専任教員	1
		臨地実習	老年看護学実習1 入院中の高齢者の日常生活援助	2	90	2	専任教員	2
			老年看護学実習2 健康障害のある高齢者の看護	2	90	2・3	専任教員	2
	小児看護学	小児看護学概論		1	30	1	専任教員	1
		発達段階に応じた看護	小児各期の健康生活	1	15	2	専任教員	1
		健康状態に応じた看護	健康問題のある小児の看護	1	30	2	専任教員	1
			低出生体重児と家族の看護				看護師	
			終末期にある小児の看護				看護師	
			先天的な問題のある小児と家族の看護				看護師	
			小児期の疾病と治療				医師	
		治療を受ける小児の看護	検査・処置を受ける小児	1	30	2	看護師	1
							専任教員	
							看護師	
			看護過程				専任教員	
		臨地実習	小児看護学実習	2	90	2・3	専任教員	2
	母性看護学	母性看護学概論		1	30	1	専任教員	1
		妊婦・産婦の看護	妊婦・産婦看護	1	30	2	看護師	1
			校内実習				専任教員	
			マタニティビクス					
		褥婦・新生児の看護	新生児看護	1	30	2	専任教員	1
			褥婦看護				専任教員	
			看護過程				専任教員	
			地域における母性看護				看護師・助産師	
		周産期にある人のハイリスク時の看護	妊娠期のハイリスク看護	1	15	2	看護師・助産師・保健師	1
			分娩・産褥期のハイリスク看護					
			新生児のハイリスク看護				専任教員	
		臨地実習	母性看護学実習	2	90	2・3	専任教員	2
	精神看護学	精神看護学概論		1	30	1	専任教員	1
		精神に障がいをもつ人の理解	精神障害の特徴と治療の理解	1	30	2	医師	1
			小児の精神障害の特徴と治療の理解				医師	
			精神の障害を持つ人の看護の基本・治療に対する看護				専任教員	
			精神に障害をもつ人の安全を守る方法				専任教員	

領域		科目名・単元名		単位	時間数	学年	実務経験のある教員による授業	
							教員種別	単位
専門分野2	精神看護学	精神看護の基本技術	観察・コミュニケーション・再構成	1	15	2	専任教員	1
			生活基本訓練と看護の役割（SST）				看護師	
		精神に障害をもつ人の生活と看護	入院治療を受ける人の看護	1	30	2	専任教員	1
			統合失調症患者の看護過程					
			入院治療を受ける人の看護（小児：発達障害）				看護師	
			地域で生活する精神に障害のある人の看護				専任教員	
		臨地実習	精神看護学実習	2	90	2・3	専任教員	2
専門分野2　小計				38	1,320			38
統合分野	在宅看護論	在宅看護論概論		1	15	1	専任教員	1
		在宅療養者の健康状態に応じた看護	在宅療養者の状態別看護	1	30	2	専任教員	1
			在宅における終末期の看護				看護師・保健師	
			難病療養者と家族のケア				看護師	
			在宅療養者の療養生活（ALS患者）					
		在宅看護技術	基本技術・生活環境	1	30	2	専任教員	1
			日常生活支援技術				専任教員	
			在宅酸素療法					
		在宅看護過程		1	15	2	専任教員	1
		臨地実習	在宅看護論実習	2	90	2・3	専任教員	2
	看護の統合と実践	看護管理と研究	管理・国際協力	1	30	3	看護師	1
			看護研究の基礎				専任教員	
			ケーススタディ				専任教員	
		災害看護	災害医療・災害看護	1	15	3	看護師	1
							医師	
			災害時の国際協力				専任教員	
			合同災害訓練				医師・専任教員	
		診療の補助技術における安全	事故防止の考え方	1	30	3	専任教員	1
			注射・輸血・輸液ポンプ				専任教員	
			チューブ				専任教員	
			ハイリスク				専任教員	
			採血				専任教員	
		臨床看護の実践		1	15	3	専任教員	1
		臨地実習	看護の統合実習	2	90	3	専任教員	2
統合分野　小計				12	360			12
総　合　計				97	3,000			77

※専任教員とは
看護六法　第４　１
(3) 看護師養成所の専任教員となることのできる者は、次のいずれにも該当する者であること。ただし、保健師、助産師又は看護師として指定規則別表3の専門分野の教育内容（以下「専門領域」という。）のうちの一つの業務に3年以上従事した者で、大学において教育に関する科目を履修して卒業した者又は大学院において教育に関する科目を履修した者は、これにかかわらず専任教員となることができること。
ア 保健師、助産師又は看護師として5年以上業務に従事した者
イ 専任教員として必要な研修を修了した者又は看護師の教育に関し、これと同等以上の学識経験を有すると認められる者

Ⅷ．課外（行事・その他）

課外（第48回生）

目的：協調性・主体性を身につけ、人間的成長をめざす

項　　目	1年	2年	3年	ねらい	備考
入学式	4	2	2	新入生のこれからの学習への誓いの場、学生と教職員との出会いの場とする。上級生は歓迎の意を表する。	
入学時オリエンテーション学年ガイダンス	16	2	2	３年間のカリキュラムガイダンス、新入生自己紹介、クラス運営、各係の選出、学校案内等を実施し、学校生活の導入とする。 また、各年度当初は１年間のカリキュラムを再確認し、学習計画を立てるための指針とする。	
始業式・終業式	1	2	1	学年の始まりと終わりに学習への心構えや区切りをつけ、学習環境を整える。	大掃除を含む
健康診断	1	1	1	健康診断を実施し、健康管理に役立てる。	
クラス・アワー	18	12	8	学年毎に企画、運営し、充実した学校生活を過ごせるようにする。	
安全教育	—	2	—	対象の安全確保を意識しながら、看護を実践するための基礎的能力を養う。	
防災訓練	4	4	4	災害に対する意識を高め、防災への心構えと災害発生時の対処法を身につける。	実施は4月
体育祭・新入生歓迎会	6	6	6	スポーツをとおして、心身の解放と全校生・全職員との交流をはかる。学生自治会を中心に企画運営し、協調性、自主性を養い、学年間の交流をはかる。	2・3年は講義時間とし単位認定者は課外
戴帽式	12	8	2	学校生活を経て自己の看護職への進路を再確認し、今後の抱負を表現する場とする。	
記念講演	4	4	4	戴帽式、卒業式等節目の式典の一環として記念講演を実施し、専門職業人を目指す各自の自覚を高める。	全学年出席する
学校祭	16	16	16	学生の自主性を高め、あわせて学生相互間の親睦をはかる。 学生自治会を中心に、日常の学習、研究およびサークル活動などの成果を発表する。	2日間
クリスマスメッセージ	4	4	4	実習施設の患者および利用者の皆様に、感謝の気持ちをあらわす。	多摩キャンパス内4施設
国家試験対策（模擬試験、補講等）	10	16	70	看護師として必要な知識を強化し、国家試験受験に備える。	
ケーススタディ聴講	4	4	—	看護研究の発表の仕方及び聴講の姿勢を学ぶ。	
就職ガイダンス	—	6	4	進路決定における自己の指針とする。	
卒業式	2	2	4	３年間の学習修了の式典として実施し、卒業証書の授与を行う。	
合　　計	102	85	122		

＊入学式、載帽式、卒業式は、リハーサルとして音楽講師により指導を受ける（2時間程度）

Ⅸ. 参　考　資　料

各看護学・看護の統合と実践で学習する看護技術のレベル(学内)

●:校内実習で実施できる　○:見学等により理解できる

	技術項目	基礎	成人	老年	小児	母性	精神	在宅	統合	備考
環境調整術	病床環境整備	●	○	●						
	ベッドメーキング	●								
	臥床患者のリネン交換	●								
食事の援助技術	食事介助(嚥下障害患者を除く)	●								
	食事指導		●							
	経管栄養法(流動食の注入)							●		
	経鼻胃チューブの挿入・確認							●		
排泄援助技術	自然排便の援助	●								
	自然排尿の援助	●								
	便器・尿器を用いた排泄援助	●								
	ポータブルトイレでの患者の排泄援助			●						
	おむつ交換			●	●	●				
	失禁患者のケア			○						
	膀胱留置カテーテルの管理		●					○		
	導尿(膀胱)	●								
	グリセリン浣腸	●								
	摘便	●								
	ストーマ造設患者の管理・指導		○							
活動・休息援助技術	車椅子移送	●		●					●	
	歩行・移動介助		●	●					●	
	入眠・睡眠を意識した日中の活動の援助	●								
	臥床患者の体位変換	●								
	ベッドから車椅子への移乗	●		●					●	
	廃用性症候群予防			●				○		
	安静保持の援助									
	ベッドからストレッチャーへ移乗	●								
	ストレッチャー移送	●								
	関節可動域訓練									＊治療論Ⅱ:リハビリ
清潔・衣生活の援助技術	足浴・手浴	●								
	整容	●								
	臥床患者の寝衣交換(輸液ライン等がない)	●			●					
	入浴・シャワー浴の介助							○		
	陰部の清潔保持	●		●	○					
	清拭	●								
	洗髪	●								
	口腔ケア	●		●				○		
	寝衣交換(輸液ライン等がある)	●							●	
	沐浴					●				
呼吸・循環を整える技術	温罨法・冷罨法	●								
	体温調節	●			○					
	酸素吸入法	●	○		○			○*	●	
	気管内加湿(ネブライザー)	●								
	口腔内・鼻腔内吸引				○			●		
	気管内吸引							●		
	体位ドレナージ									＊治療論Ⅱ:リハビリ
	酸素ボンベの操作	●						○	●	
	人工呼吸器装着中の観察									
	低圧胸腔内持続吸引時の観察		○							
創傷管理技術	褥瘡予防のケア			●				○		
	包帯法	●								
	創傷処置		●							

	技術項目	基礎	成人	老年	小児	母性	精神	在宅	統合	備考
与薬の技術	直腸内与薬	●								
	点滴静脈内注射の輸液管理	●							●	
	皮下注射	●								
	筋肉内注射	●								
	点滴静脈内注射	●							●	
	輸液ポンプの基本的操作								●	
	経口与薬	●			●					
	経皮・外用薬の与薬	●								
	中心静脈内栄養患者の管理							○		
	皮内注射後の観察	●								
	静脈内注射	●							●	
	抗生物質使用患者の観察									
	インシュリン製剤の準備								○	
	インシュリン製剤使用患者の観察									
	麻薬使用患者の観察									
救命救急処置技術	意識状態の観察	●	●							
	気道確保	●								
	人工呼吸	●								
	閉鎖式心マッサージの実施	●								
	AED	●								
	止血	●								
症状・生体機能管理技術	バイタルサイン測定	●	●		●	●				
	身体計測	●			●					形Ⅴ:体脂肪厚
	尿検体の取り扱い	○								形Ⅴ:検尿
	簡易血糖測定		●							形Ⅴ:自己血糖採血
	検査の介助				●					
	静脈血採血	●			○				●	
	血液検体の取り扱い	●							●	
感染予防の技術	スタンダード・プリコーション(標準予防策)	●	●	●	●	●		○	●	
	使用した器具の感染防止の取り扱い	●	●	●				○	●	
	感染性廃棄物の取り扱い	●	●	●	●			○	●	
	無菌操作	●	●							
	針刺し事故防止対策	●	●						●	
安全管理の技術	患者誤認防止策	●			●	○			●	
	患者の機能行動特性に合わせた療養環境の安全な整備	●		●					○	
	転倒・転落・外傷予防	●	●	●	●			○		
	リスクの大きい薬剤の危険性および予防策(抗がん剤、カリウム剤など)								○	
安楽確保の技術	安楽な体位の保持	●	●		●	●		○		
	リラクゼーション		●			●				
その他	患者・家族とのコミュニケーション	●	●	●	●		●	○	●	
	チームでのコミュニケーション	●	●					○	●	
	看護記録(実習記録)	●	●			●				
	レクリエーション									＊「運動と健康」
	報告	●	●						●	
	他職種との連絡調整						○	○	●	
	社会生活技能訓練(SST)						○			
	妊婦体操・産褥体操					●				
	レオポルド腹部触診法					●				
	陣痛発作・間歇測定					○				

<各看護学で学習する疾病(等)>マトリックス

看護学名 器官系統別分類	成人	老年	小児	母性	精神	在宅
消化器系	胃がん 肝硬変 食道静脈瘤 大腸がん	逆流性食道炎	乳児下痢症 腸重積 ヘルニア 鎖肛	重症妊娠悪阻		
呼吸器系	急性呼吸不全	誤嚥性肺炎 肺気腫	気管支喘息 肺炎	胎児機能不全 新生児仮死 新生児呼吸窮迫症候群 胎便吸引症候群		肺炎
循環器系 血液系	狭心症 心筋梗塞 心不全	不整脈 高血圧 心不全	川崎病 先天性心疾患 白血病	妊娠高血圧症候群 仰臥位低血圧症候群 妊娠貧血 双胎間輸血症候群 下肢静脈血栓		脳梗塞
運動器系	関節リウマチ	骨粗鬆症 大腿骨頸部骨折 脊椎圧迫骨折	先天性股関節脱臼 上腕骨顆上骨折			
腎･泌尿器系	腎不全	腎不全 前立腺肥大症	ネフローゼ 急性糸球体腎炎 尿路感染症			
生殖器系	乳がん	老人性膣炎 子宮脱		性分化異常 性同一性障害 不妊症 流早産 子宮外妊娠 前置胎盤 常位胎盤早期剥離 子宮復古不全		
神経系	脳内出血 脊髄損傷	認知症 脳梗塞 せん妄 パーキンソン病 硬膜下血腫	てんかん 脳性麻痺 二分脊椎	子癇		パーキンソン病 ＡＬＳ
皮膚・感覚器系		老人性掻痒症 白内障 褥瘡 老人性難聴	アトピー性皮膚炎			
内分泌系	糖尿病 高脂血症 高尿酸血症 バセドウ病		小児糖尿病	早発思春期 遅発思春期 更年期障害 早発閉経 先天性代謝異常 妊娠糖尿病		
免疫、アレルギー系				血液型不適合妊娠		
微生物・感染症系		インフルエンザ 感染性胃腸炎	水痘・麻疹 風疹・流行性耳下腺炎	産褥熱 乳腺炎 性感染症・母子感染		肺結核 疥癬 ＭＲＳＡ
精神系		うつ		マタニティブルーズ 産褥うつ病	てんかん 統合失調症 気分障害 神経症 心身症 物質関連障害 摂食障害 発達障害 人格障害	統合失調症 認知症
その他		廃用症候群	染色体異常 低出生体重児	性染色体異常		

〈各看護学で学習する症状(等)〉マトリックス

看護学名 器官系統別分類	基礎	成人	老年	小児	母性	精神	在宅
消化器系	便秘 浮腫 倦怠感 掻痒感	黄疸　掻痒 腹水　昏睡 腹痛　嘔吐 下痢　便秘 吐血　下血 食道静脈瘤 ダンピング イレウス	胸やけ 便秘・下痢 脱肛、内痔核	下痢 嘔吐	胃部不快感 便秘 初期嘔吐 新生児黄疸	口渇　便秘	便秘
呼吸器系	呼吸困難 喘鳴 咳嗽 喀痰	チアノーゼ 咳 喀痰　胸水 呼吸困難 無気肺	息切れ	呼吸困難 喘鳴 咳嗽	低酸素（胎児・新生児）	過呼吸	呼吸困難
循環器系 血液系		胸痛　動悸 不整脈 貧血　浮腫 出血傾向 易感染 ショック 深部静脈血栓	浮腫 動悸 低栄養状態 貧血 起立性低血圧	脱水 出血傾向 チアノーゼ	高血圧 貧血 性器出血 静脈瘤	水中毒	
運動器系		変形 神経麻痺	円背 歩行困難 関節拘縮 筋萎縮 サルコペニア ロコモティブシンドローム	麻痺 脱臼			歩行困難 関節拘縮 筋萎縮
腎･泌尿器系	排尿困難	腎性高血圧 腎性貧血 浮腫 尿毒症症状	尿失禁 頻尿 残尿 脱水･浮腫	浮腫 蛋白尿	浮腫 蛋白尿 尿糖 尿失禁 尿閉		尿閉
生殖器系		リンパ浮腫			乳房緊満 月経異常 無月経 不正性器出血 腹痛 月経困難症 性器の萎縮		
神経系		疼痛 意識障害 麻痺 言語障害 高次脳機能障害 膀胱直腸障害	振戦 しびれ 腰痛 不眠 嚥下障害 パーキンソニズム	痙攣	子癇発作 原始反射の消失	パーキンソン症候群 アカシジア ジスキネジア ジストニア	パーキンソニズム（筋固縮・無動）
皮膚・感覚器系			掻痒 視力障害 聴力障害	掻痒 疼痛			褥瘡
内分泌系		高血糖 低血糖 甲状腺クリーゼ		高血糖 低血糖	低血糖（新生児） 更年期障害	無月経 （摂食障害）	
免疫 アレルギー系		こわばり		発疹			
微生物・感染症系	発熱	発熱	発熱、疥癬	発熱　発疹	帯下、掻痒		発熱
精神系		術後せん妄	見当識障害 徘徊 妄想 夜間せん妄 異食 術後せん妄		抑うつ、不眠	不眠 幻覚 妄想 抑うつ 感情鈍麻 過食 拒食等 多動 チック 注意欠落	不眠 幻覚 妄想 抑うつ 感情鈍麻 見当識障害 徘徊 夜間せん妄 異食
その他			誤嚥 フレイル			悪性症候群	誤嚥

東京都立看護専門学校におけるコミュニケーションに関する到達目標

都立看護専門学校では、平成 23 年 2 月厚生労働省から示された「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」をもとに平成 25 年度より検討を重ね、各学年におけるコミュニケーション到達目標を設定した。コミュニケーション能力は、すべての看護の基本であり、看護師に求められる実践能力のひとつである。入学時から自己のコミュニケーション能力を到達目標に照らして振り返り、看護師として必要なコミュニケーション能力の獲得に取り組んでほしい。

1 年次　○ クラスメートやグループメンバー、及び教員や実習指導者と良好なコミュニケーションを取ることができる。
○ 教員や指導者、グループメンバーの支援を受けて、患者の状況に気づき、1 対 1 のコミュニケーションを取ることができる。

1‐1　いかなる相手に対しても、ひとりの人として尊重した態度で接することができる。
1‐2　言語的および非言語的な手段を問わず、他者に不快感を与えずに交流することができる。
1‐3　相手の話を関心を持って聞くことができる。
1‐4　自分の意見や考えを適切に伝えることができる。
1‐5　患者の表情やしぐさの変化に気づくことができ、患者と話をすることができる。
1‐6　実習指導者や教員に必要なことを伝えたり、質問したりできる。

2 年次　○ 自己理解に努め、対象及び対象を取り巻く人たちの言動の意図や意味を考えてコミュニケーションができる。

2‐1　学生チームの中で意見交換をすることができる。
2‐2　苦手意識を持つ他者に対しても自己コントロールして対応することができる。
2‐3　患者及び家族に関心を寄せて接することができ、相手の思いを聴き、共感することができる。
2‐4　相手の受け止め方を把握し、相手に合わせて対応することができる。

3 年次　○ 過去・現在・未来のみならず、環境や関係者など変化する状況をふまえたコミュニケーションができる。

3‐1　他者との壁を作ることなく自分から近づいていくことができ、相互作用の中から自己を成長させることができる。
3‐2　相手の思いを引き出すことができ、口に出さないメッセージを察し、確認することができる。
3‐3　適切なときに適切な人に相談や援助を求めることができる。
3‐4　看護者としてのコミュニケーションを振り返り、相手にとっての意味を考えることができる。
3‐5　状況に応じた解決策を見出し、看護チームの中で意見交換できる。

令和３年３月発行

令　和　２　年　度
登　録　第　４　号

教　育　課　程
令和３年度入学生
第48回生

編集・発行　東京都立府中看護専門学校
東京都府中市武蔵台 2-27-1
電　話　０４２（３２４）６４１１
ＦＡＸ　０４２（３２６）３９７０

印　　刷　協和綜合印刷株式会社
東京都江東区大島 7-37-2
電　話　０３（３６８５）６４１１

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

学籍番号

氏名

東京都立府中看護専門学校

TEL.　０４２（３２４）６４１１
FAX　０４２（３２６）３９７０